

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|-----------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 佐藤 由紀夫 | |
| 単位数 | 2 単位 | | (さとう ゆきお) | |
| 開講学期 | 前期 | 授業形態・回数 | 講義 | 15 回 |

【授業情報】

| | |
|---------------|--|
| 授業概要 | 細胞から始まり生物を構成する物質、代謝、遺伝子など生物の基礎を学ぶ。高校生物基礎の学習内容を基本としつつ医療への道へ進む学生の進路に役立つ基礎教養を重点的に学べるような内容とする。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 生物全般の基本を学ぶが特に細胞、DNAと遺伝子、免疫を中心に学ぶ。 |

【担当教員から】

| | |
|---|---|
| 教科書 | 授業中に配布する資料を使うため、教科書は設定しない |
| 参考書 | 高校教科書の「生物」あるいは参考書 |
| 成績評価基準 | 毎授業の課題(小テスト・レポート等):シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準(評価割合(%)) 課題(小テスト・レポート等)提出——100% ※毎授業の課題における総合成績で評価する |
| 履修の条件 留意点 | 課題の評価を合計して60%以上で履修とする。 この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・生物の単位として認定されます。なお、本科目の単位履修には授業の70%以上の出席が必要です。提出期限内の課題の提出を持って出席とみなし、提出期限を過ぎた場合には欠席となります。提出期限内での提出をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容 講義内容は復習し、興味を持ったことは積極的に調べてください。オンデマンドは2倍速で聞くと重要事項を聞き漏らすことがあります(注意)。毎講義後、簡単な確認試験を行います。 |
|  | VODにて授業を行います。授業動画は、授業予定日の9時に配信されます。 配信後翌週火曜日までに授業動画を視聴し課題を提出してください。 課題の提出をもって配信日の授業の出席といたします。 |
| オフィスアワー | |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標（SBOs） | 講義形態 |
|----|----|--------------|--|------|
| 前期 | 1 | 生命の共通性としての細胞 | 細胞についての基本について説明できる。 | VOD |
| | 2 | 細胞・組織・物質 | 細胞, 組織, そしてそれを構成する物質について理解し説明できる。 | VOD |
| | 3 | 酵素・代謝・ATP | 酵素の性質や光合成・呼吸を説明できる。 | VOD |
| | 4 | 遺伝子とDNA | 遺伝子DNAについてその構造、複製方法、について理解し説明できる。 | VOD |
| | 5 | 遺伝子の複製と体細胞分裂 | DNAの複製と細胞分裂について理解し説明できる。 | VOD |
| | 6 | 遺伝情報の発現 | DNAの遺伝情報をもとにタンパクが合成される過程を説明できる。 | VOD |
| | 7 | バイオテクノロジー1 | 遺伝子組換え電気泳動などバイオテクノロジーの基本を理解し説明できる。 | VOD |
| | 8 | バイオテクノロジー2 | 組換え作物の作り方や医薬品への応用などを理解し説明できる。 | VOD |
| | 9 | バイオテクノロジー3 | PCR法, ゲノム編集などがどのように利用されているかを理解し説明できる。 | VOD |
| | 10 | 体液・血球・血液凝固 | 体液の基本と血液凝固について理解し説明できる。 | VOD |
| | 11 | 血液循環と酸素の運搬 | 血液の循環と酸素の運搬について理解し説明できる。 | VOD |
| | 12 | 自然免疫 | 免疫に関係する血球について基礎を理解し, 自然免疫について理解し説明できる。 | VOD |
| | 13 | 獲得免疫 | 細胞性免疫, 体液性免疫の仕組みについて理解し説明できる。 | VOD |
| | 14 | 免疫と社会生活 | 感染症やワクチン, 抗原検査, PCRなどについて理解し説明できる。 | VOD |
| | 15 | 生物学と社会 | 社会生活において生物学がどのように役立っているかを理解し考えることができる。 | VOD |

【科目】 総合基礎 I (生命科学) 【遠隔授業】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|-------------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 岡崎 弘幸 | |
| 単位数 | 2 単位 | | (おかざき ひろゆき) | |
| 開講学期 | 前期 | 授業形態・回数 | 講義 | 15 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | 将来、医療道へ進むにあたり、ヒトの体を生物学的視点から見るときの基礎を学ぶ（動物学一般の内容も含む）。その中で、特にヒトの体を構成する細胞、骨格と筋肉収縮、神経系と行動、恒常性の維持（血液や内分泌系）、生体防御、人間生活を取り巻く環境などを中心に学習する。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | ヒトの体の構造やヒトの体のさまざまな生命現象に興味や関心を持ち、常に疑問を抱きながらその解決に向けて探究心を高める。また基本的な概念や原理・法則などを系統的に理解し、他の授業とも関連させることができる。具体的には現代生物学の基礎となる細胞や代謝、健康にかかわる恒常性の維持、ヒトと環境の関係にかかわる生態系などの内容を理解し説明できる。 |

【担当教員から】

| | |
|---|---|
| 教科書 | オンデマンドで配布する資料等（教科書は設定しない） |
| 参考書 | 「解剖生理」（医療薬出版）、「高校生物基礎」・「生物」の教科書や生物図説 |
| 成績評価基準 | 毎授業の課題(小テスト・レポート等):シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準（評価割合％） 課題(小テスト・レポート等)提出——100％ ※毎授業の課題における総合成績で評価する |
| 履修の条件 留意点 | 課題の評価を合計して60％以上で履修とする。 この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・生命科学の単位として認定されます。なお、本科目の単位履修には授業の70％以上の出席が必要です。提出期限内の課題の提出を持って出席とみなし、提出期限を過ぎた場合には欠席となります。提出期限内での提出をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容 講義内容は復習し、興味を持ったことは積極的に調べてください。オンデマンドは2倍速で聞くと重要事項を聞き漏らすことがあります（注意）。毎講義後、簡単な確認試験を行います。 |
|  | VODにて授業を行います。授業動画は、授業予定日の9時に配信されます。 配信後翌週火曜日までに授業動画を視聴し課題を提出してください。 課題の提出をもって配信日の授業の出席といたします。 |
| オフィスアワー | |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標（SBOs） | 講義形態 |
|----|----|--------------------------------|--|------|
| 前期 | 1 | 生命とは何か？ ー車は生物ではないのかー | 生命の特徴について理解し、生物の共通性と多様性、ヒトの特徴が説明できる。 | VOD |
| | 2 | からだは細胞からできている ー細胞のつくりとはたらきー | 生物の体が細胞からできていることを理解し、細胞の構造と機能が説明できる。 | VOD |
| | 3 | からだを動かす仕組み ー骨と筋肉の基礎ー | からだを動かす仕組みとしての骨格系と筋肉を理解し、筋肉収縮のしくみが説明できる。 | VOD |
| | 4 | 情報の入力装置としての感覚器 ー視覚器と聴覚器ー | 光や音などの刺激を受容する眼や耳の構造と機能を理解し、見える仕組み、聞こえる仕組みを説明できる。 | VOD |
| | 5 | 情報伝達のしくみ ー神経のつくりとはたらきー | 情報を伝達する神経細胞を理解し、興奮の伝導と伝達を説明できる。 | VOD |
| | 6 | 中枢神経系 ー脳と脊髄のはたらきー | 中枢神経系の脳と脊髄について理解し、働きを説明できる。また反射についても説明できる。 | VOD |
| | 7 | 動物の行動 ーヒトの行動を生物学的観点から見るー | ヒト(哺乳類)のさまざまな行動を生得的行動と習得的行動から理解し、説明できる。 | VOD |
| | 8 | 細胞は化学工場 ー細胞の中で行われる反応ー | 酵素、ATP、細胞膜と浸透圧、細胞呼吸の仕組みを理解し、簡単に説明できる。 | VOD |
| | 9 | 消化と吸収 ー胃腸と肝臓のはたらきー | 哺乳類の消化管やヒトの消化管について理解し、消化管のはたらきを説明できる。 | VOD |
| | 10 | 腎臓のつくりとはたらき | 浸透圧調節について理解し、腎臓の構造と機能、人工透析などを説明できる。 | VOD |
| | 11 | ヒトの呼吸器系・循環器系 | 肺や心臓の構造と働き、酸素解離曲線、二酸化炭素の運搬等について理解し、説明できる。 | VOD |
| | 12 | 血糖量を一定に保つ仕組み ーホルモンと自律神経の協働ー | 自律神経系とホルモン(内分泌系)の協働作用を理解し、血糖量の調節を説明できる。 | VOD |
| | 13 | 生体防御システム ー血液凝固と免疫機構ー | 生体防御システムとして血液凝固や免疫機構を理解し、その仕組みを説明できる。 | VOD |
| | 14 | ヒトの生殖細胞の形成と発生 | 生殖細胞の形成や受精卵から命が誕生する過程を理解し、生殖細胞の形成について説明できる。 | VOD |
| | 15 | ヒトと環境 ー生態系の中のヒトー | 生物と環境の関係や環境問題を理解し、生態系や物質循環、環境問題を説明できる。 | VOD |

【科目】 総合基礎 I (コミュニケーション心理学) 【遠隔授業】
【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|-----------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 津野田 聡子 | |
| 単位数 | 2 単位 | | (つのだ さとこ) | |
| 開講学期 | 前・後期 | 授業形態・回数 | 講義 | 15 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | 心理学の基礎的な知見を習得することで心の問題に関する科学的視点を養い、深い人間理解を目指す。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | コミュニケーションと、それに関わる諸問題を理解した上で、実習をまじえコミュニケーション・スキルの獲得、上達を目指す。 |

【担当教員から】

| | |
|---|--|
| 教科書 | 必要に応じてプリントの配布、資料の提示などを行う。 |
| 参考書 | 参考書に関しては必要に応じて、授業中に指示する。 |
| 成績評価基準 | 毎授業の課題(小テスト・レポート等):シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準(評価割合%) 課題(小テスト・レポート等)提出——100% ※毎授業の課題における総合成績で評価する。 |
| 履修の条件 留意点 | 課題の評価を合計して60%以上で履修とする。 この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・生物Iの単位として認定されます。なお、本科目の単位履修には授業の70%以上の出席が必要です。提出期限内の課題の提出を持って出席とみなし、提出期限を過ぎた場合には欠席となります。提出期限内での提出をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容 授業中は積極的にメモを取ること。そして、授業で学んだことを元に、日常生活における心理学的な事柄について考察する姿勢を受講生に求めます。心理学ではどの様にして「心を理解しようとしているか」を考えながら授業に臨んで下さい。 |
|  | VODにて授業を行います。授業動画は、授業予定日の9時に配信されます。 配信後翌週火曜日までに授業動画を視聴し課題を提出してください。 課題の提出をもって配信日の授業の出席といたします。 |
| | オフィスアワー |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標（SBOs） | 講義形態 |
|------|----|---------------------------|-----------------------|------|
| 前・後期 | 1 | オリエンテーション | 心理学という学問に対する正しい理解を得る。 | VOD |
| | 2 | 心理学の歴史 | | VOD |
| | 3 | 進化と心 | | VOD |
| | 4 | 発達:乳幼児期の発達 | | VOD |
| | 5 | 発達段階説,life cycle,identity | | VOD |
| | 6 | 性格と知能:理論と検査 | | VOD |
| | 7 | 感覚と知覚:外界をしめるメカニズム、錯視 | | VOD |
| | 8 | 動機づけ | | VOD |
| | 9 | 学習:条件づけ | | VOD |
| | 10 | 記憶①:記憶の理論と特性 | | VOD |
| | 11 | 記憶②:記憶の低下、日常的な記憶 | | VOD |
| | 12 | 臨床心理:ストレス、心理病理等 | 心の問題に対する論理的な思考を身につける。 | VOD |
| | 13 | 社会心理 | | VOD |
| | 14 | 神経心理①:脳と心 | | VOD |
| | 15 | 神経心理①:脳と心 | | VOD |

【科目】 総合基礎 I (コミュニケーション演習)

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|-----------|-----|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 奈良 雅之 | |
| 単位数 | 1 単位 | | (なら まさゆき) | |
| 開講学期 | 後期 | 授業形態・回数 | 講義 | 8 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|---|
| 授業概要 | <p>社会に出ると、様々な考え方・価値観・行動様式を持った人たちとコミュニケーションをとらなくてはなりません。これまでの家族や友人達と行ってきた方法では上手くいかない場面におかれた時、その場に相応しいコミュニケーション能力が必要となります。この授業ではコミュニケーションに関する基礎理論を学習し、社会に出てからの対人コミュニケーションを円滑にする基本的コミュニケーション能力を習得することをねらいとします。</p> |
| 授業の一般目標 (GIO) | <p>本科目では、コミュニケーションをとる上での基本的な理論・方法論を学び、授業への積極的な参加を通してコミュニケーション能力を高めていくこととなります。また、鍼灸・柔整の臨床で求められる医療面接の基礎についても学びます。</p> |

【担当教員から】

| | |
|--|---|
| 教科書 | なし |
| 参考書 | <p>参考書 丹澤章八編 『鍼灸臨床における医療面接』 (医道の日本社)、丹澤章八監『あはき心理学入門』 (ヒューマンワールド社)</p> |
| 成績評価基準 | <p>評価の観点は 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、毎回の提出物と学期末に行う期末試験で評価する。</p> |
| 成績評価方法 | <p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満</p> |
| 履修の条件 留意点 | <p>課題の評価を合計して60%以上で履修とする。 この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・コミュニケーション演習の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。</p> |
| 担当教員 | <p>★授業時間外に必要な学習内容 予習 : 事前に配布する資料を読んで授業に出席すること。 復習 : 学習した内容は筆記試験に備えてまとめておくこと。</p> |
|  オフィスアワー | <p>授業開講日の 9 : 15 ~ 12 : 40 3F 教員室</p> |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標（SBOs） | 講義形態 |
|----|----|------------------------|---|--------------|
| 後期 | 1 | コミュニケーションの基礎 | 言語・非言語コミュニケーションについての基礎的な知識と態度を講義と演習により理解する。 | 講義・演習 |
| | 2 | インタビュー | 質問法の基礎知識を学習し、演習を通してその活用法を実践的に理解する。 | 講義・演習 |
| | 3 | 論理的に思考する | ディベート準備課題の実施を通して対話力と論理的思考力を養う。 | 講義・演習 |
| | 4 | 説得的コミュニケーション | 説得場面で見られる対人コミュニケーションの理論と技法について演習を通して理解する。 | 講義・演習 |
| | 5 | カウンセリングの基礎(1)傾聴と共感 | ペアワークによる傾聴訓練などによりカウンセリングの態度と技法を学ぶ。 | 講義・演習 |
| | 6 | カウンセリングの基礎(2)自己理解・他者理解 | カウンセリング。マインドを養うための自己理解ワークやリフレーミングなどを体験する。 | 講義・演習 |
| | 7 | 医療コミュニケーション | グループワークで患者、治療者の役割を体験する。台本に従って役を演じてみる。 | 講義・演習 |
| | 8 | まとめと試験 | 1～7回の授業のまとめを行うとともに、筆記試験を実施する。 | 講義・演習 ・試験 |

【科目】 総合基礎 I (医療英語)

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|------------|-----|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 西方 祐美子 | |
| 単位数 | 1 単位 | | (にしかた ゆみこ) | |
| 開講学期 | 後期 | 授業形態・回数 | 講義 | 8 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | 英語を学ぶ意義を考え、医療に必要な英単語等を学び、知識を深める。 日本語の苦手な患者を診察する際に必要な英会話を学び、コミュニケーション能力を高める。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 日常診療で外国人患者を診察する機会がこれから益々増えることを踏まえ、起こり得るシチュエーションをロールプレイ等を通じて体験し、自信を持って対応できるようになる。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|--|
| 教科書 | 必要に応じてプリントの配布、資料の提示などを行う。 |
| 参考書 | やさしい英語で外来診察 (羊土社) 運動動作の英語表現 (医学書院) 音声と例文で覚える、英語医療単語 1000 (株; 南雲堂) 病院スタッフ・シチュエーション英会話 (メジカルビュー社) |
| 成績評価基準 | 定期試験: シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。 課題 (レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準 (評価割合 (%)) 期末 (到達目標達成確認) 試験成績 ----- 95 % (課題等を行わなかった場合は 100 %) 課題等 ----- 5 % (課題等を行った場合の加算割合) |
| 履修の条件 留意点 | 課題の評価を合計して 60 % 以上で履修とする。 この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・医療英語の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の 70 % 以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容 「失敗を恐れずに、積極的に授業に取り組んで欲しい。」 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 9 : 15 ~ 12 : 40 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標（SBOs） | 講義形態 |
|----|----|--|---------------------------|------|
| 後期 | 1 | self-introduction/get to know each other | 英語で話すことに慣れ、クラスメイトについて知る | 講義 |
| | 2 | body parts and organs | 体の部位を英語で表現する | 講義 |
| | 3 | skeletal system | 骨格について英語で表現する | 講義 |
| | 4 | greetings at the reception counter | 挨拶や受付時の会話を英語で表現する | 講義 |
| | 5 | conditions/symptoms | 体の状態や症状を英語で表現する | 講義 |
| | 6 | useful phrases | 覚えておくと便利なフレーズを知る | 講義 |
| | 7 | useful phrases | 様々なシチュエーションで英語で会話できるようになる | 講義 |
| | 8 | 試験(到達目標達成確認) | | 試験 |

【科目】 形態機能学 I 【解剖生理 I】

【基本情報】

| | | | | |
|------|--------|---------|------------------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 福本 彩季 (ふくもと あき) | |
| 単位数 | 3 単位 | | 武井 良之 (たけい よしゆき) | |
| 開講学期 | 1~3 学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 36 回 |

【授業情報】

| | |
|---------------|--|
| 授業概要 | 生体の構造を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な構造が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造を学んでいく。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の構造について学習するとともに、その名称や機能についても学習する。 |

【担当教員から】

| | |
|---|--|
| 教科書 | 1. 「解剖生理」第1版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) |
| 参考書 | 1. 「解剖学ワークブック」 医歯薬出版(株) 2. 「人体の正常構造と機能」 日本医事新報社 |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法 (評価割合 : %) 各期内でおこなう小テストの平均点を期の成績とし、各期の生成と年度末試験にて採点する。(100%) 【小テストの成績判定について】 前授業の範囲とし、正答数/問題数の%を点数とする。 60 点以下の場合は翌週に再テストを行う。 欠席の場合は翌週に追テストを行う。 追テスト・再テストを受験した場合は 60 点を最高点とする。 |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験の評価を合計して 60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・人体の構造と機能・形態機能学 I の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ) 授業の中で特に赤字で示されているような重要な個所は、「教科書にチェック」して確認すると同時に、自分なりの「まとめ」を作成することをおすすめします。 |
|  | |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12 : 45 ~ 13 : 00 3 F 教員室 |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|-------------------------------|------------------------------|------|
| 1期 | 1 | 運動器 1:運動器系とは (運動の仕組み・解剖学用語) | 運動の仕組み・解剖学用語を理解できる。 | 講義 |
| | 2 | 運動器 2:全身の骨格 (名称) /関節の種類の構造と機能 | 全身の骨格について大まかな名称と役割を理解できる。 | 講義 |
| | 3 | 運動器 3:関節の種類の構造と機能 | 関節の種類を列挙できる。 | 講義 |
| | 4 | 運動器 4:上肢の骨格 1/鎖骨・肩甲骨 | 上肢を構成する骨 (鎖骨・肩甲骨) の部位を列挙できる。 | 講義 |
| | 5 | 運動器 5:上肢の骨格 2/上腕骨 | 上肢を構成する骨 (上腕骨・橈骨) の部位を列挙できる。 | 講義 |
| | 6 | 運動器 6:上肢の骨格 4 尺骨・橈骨 | 上肢を構成する骨 (尺骨・手部) の部位を列挙できる。 | 講義 |
| | 7 | 運動器 7:上肢の骨格 5/手部 | 上肢の関節について説明できる。 | 講義 |
| | 8 | 運動器 8:上肢の骨格 6/上肢の関節 | 下肢を構成する骨 (寛骨・大腿骨) の部位を列挙できる。 | 講義 |
| | 9 | 運動器 9:下肢の骨格 1/寛骨 | 下肢を構成する骨 (下腿の骨) の部位を列挙できる。 | 講義 |
| | 10 | 運動器 10:下肢の骨格 2/大腿・下腿の骨 | 下肢を構成する骨 (足部の骨) の部位を列挙できる。 | 講義 |
| | 11 | 運動器 11:下肢の骨格 4/足部の骨 | 下肢の関節について説明できる。 | 試験 |
| | 12 | 運動器 12:下肢の骨格 5/下肢の関節 | 頭蓋を構成する骨の名称を列挙できる。 | 講義 |
| 2期 | 13 | 運動器 13:頭蓋骨 1/頭蓋骨名称 | 頭蓋を構成する骨の名称を列挙できる。 | 講義 |
| | 14 | 運動器 14:頭蓋骨 2/脳頭蓋 | 頭蓋を構成する骨の名称を列挙できる。 | 講義 |
| | 15 | 運動器 15:頭蓋骨 3/顔面頭蓋・縫合 | 頭蓋を構成する骨の名称を列挙できる。 | 講義 |
| | 16 | 運動器 16:頭蓋骨 4/頭蓋底 | 脊柱を構成する骨の名称と部位を列挙できる。 | 講義 |
| | 17 | 運動器 17:脊柱の骨格 1/軸椎・環椎・隆椎・胸椎・腰椎 | 脊柱を構成する骨の名称と部位を列挙できる。 | 講義 |
| | 18 | 運動器 18:脊柱の骨格 2/仙骨・脊柱の連結 | 脊柱を構成する骨の名称と部位を列挙できる。 | 講義 |
| | 19 | 運動器 19:胸郭の骨格/胸骨・肋骨 | 胸郭を構成する骨の名称と部位を列挙できる。 | 講義 |
| | 20 | 運動器 20:骨格筋の分類と補助装置・ROM | 上肢、下肢の関節可動域を列挙できる。 | 講義 |
| | 21 | 運動器 21:上肢の筋 1/上肢帯の筋 1:浅胸筋 | 上肢の筋の名称・付着部・支配神経を列挙できる。 | 講義 |
| | 22 | 運動器 22:上肢の筋 2/上肢帯の筋 2:上肢帯 | 上肢の筋の名称・付着部・支配神経を列挙できる。 | 講義 |
| | 23 | 運動器 23:上肢の筋 3/上腕の筋 | 上肢の筋の名称・付着部・支配神経を列挙できる。 | 試験 |
| | 24 | 運動器 24:上肢の筋 4/前腕の筋 1:屈筋 | 上肢の筋の名称・付着部・支配神経を列挙できる。 | 講義 |
| 3期 | 25 | 運動器 25:上肢の筋 5/前腕の筋 2:伸筋・手部の筋 | 上肢の筋の名称・付着部・支配神経を列挙できる。 | 講義 |
| | 26 | 運動器 26:下肢の筋 1/下肢帯の筋 | 下肢の筋の名称・付着部・支配神経を列挙できる。 | 講義 |
| | 27 | 運動器 27:下肢の筋 2/大腿伸筋・大腿屈筋・大腿内転 | 下肢の筋の名称・付着部・支配神経を列挙できる。 | 講義 |
| | 28 | 運動器 28:下肢の筋 3/下腿屈筋・腓骨筋・下腿伸筋 | 下肢の筋の名称・付着部・支配神経を列挙できる。 | 講義 |
| | 29 | 運動器 29:手部、足部の筋 | 下肢の筋の名称・付着部・支配神経を列挙できる。 | 講義 |
| | 30 | 運動器 30:頭部の筋/表情筋・咀嚼筋 | 下肢の筋の名称・付着部・支配神経を列挙できる。 | 講義 |
| | 31 | 運動器 31:頭部の筋 | 頭頸部の筋の名称・付着部・支配神経を列挙できる。 | 講義 |
| | 32 | 運動器 32:体幹部の筋 1/深背筋・胸腹部の筋 | 頭頸部の筋の名称・付着部・支配神経を列挙できる。 | 講義 |

| | | | |
|----|------------------------------|-------------------------|----|
| 33 | 運動器 33:体幹部の筋 2/横隔膜・骨盤底筋・鼠経靭帯 | 体幹の筋の名称・付着部・支配神経を列挙できる。 | 講義 |
| 34 | 運動器 34:体表解剖と主要な部位 1/上肢の体表解剖 | 体幹の筋の名称・付着部・支配神経を列挙できる。 | 講義 |
| 35 | 運動器 35:体表解剖と主要な部位 2/下肢の体表解剖 | 体幹・上肢の体表解剖を説明できる。 | 試験 |
| 36 | 運動器 36:体表解剖と主要な部位 3/頭頸部の体表解剖 | 下肢・頭頸部の体表解剖を説明できる。 | 講義 |
| 37 | 年度末試験 | | 試験 |

【科目】 形態機能学Ⅱ 【解剖生理Ⅱ】

【基本情報】

| | | | | |
|------|--------|---------|------------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 平井 顯徳 | |
| 単位数 | 3 単位 | | (ひらい あきのり) | |
| 開講学期 | 1～3 学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 36 回 |

【授業情報】

| | |
|-----------------|--|
| 授業概要 | 生体の機能を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な機能が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な機能を学んでいく。 |
| 授業の一般目標 (G I O) | 人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の機能について学習するとともに、その評価方法についても学習する。 |

【担当教員から】

| | |
|---|--|
| 教科書 | 1. 「解剖生理」 (公社)東洋療法学校協会編 医歯薬出版 |
| 参考書 | 1. 「標準生理学」 医学書院 2. 「人体の正常構造と機能」 日本医事新報社 |
| 成績評価基準 | 成績評価の算定方法 (評価割合: %) 毎回の授業における確認試験: 50 % 期末 (到達目標達成確認) 試験: 50 % |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法 (評価割合: %) 毎回の授業における確認試験: 50 % 期末 (到達目標達成確認) 試験: 50 % |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験の評価を合計して 60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・人体の構造と機能・形態機能学Ⅱの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ) |
|  | 毎回、次回の授業で解説する履修範囲の予習課題を配付します。 予習課題は、事前に教科書を読んでおくことを意図しています。 授業では、予習課題を踏まえてプレ確認試験、講義、確認試験を行います。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12:45～13:00 3F 教員室 |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|---------|------------------------------|-------------------------------|------|
| 1期 | 1 | オリエンテーション | 細胞膜と細胞小器官の構造と機能を説明できる。 | 講義 |
| | 2 | 人体の構成①細胞 | 細胞膜と細胞小器官の構造と機能を説明できる。 | 講義 |
| | 3 | 人体の構成②細胞 | 細胞膜と細胞小器官の構造と機能を説明できる。 | 講義 |
| | 4 | 人体の構成③体液 | 物質の移動や体液のイオン組成・pHの仕組みを説明できる。 | 講義 |
| | 5 | 人体の構成④組織と器官 | 4大組織を概説できる。 | 講義 |
| | 6 | 人体の構成⑤組織と器官 (骨・軟骨の代謝を含む) | 4大組織を概説できる。 | 講義 |
| | 7 | 人体の構成⑥組織と器官 (血球成分を含む) | 4大組織を概説できる。 | 試験 |
| | 8 | 神経系① (神経系と神経組織①) | 神経系の分類を概説できる。 | 講義 |
| | 9 | 神経系② (神経系と神経組織②) | 神経系の分類を概説できる。 | 講義 |
| | 10 | 神経系③ (中枢神経系①) | 中枢神経 (脊髄・脳幹) の構造と機能と機能を説明できる。 | 講義 |
| | 11 | 試験 | | 試験 |
| | 12 | フィードバック | | 講義 |
| 2期 | 13 | 神経系④ (中枢神経系②) | 中枢神経 (脊髄・脳幹) の構造と機能と機能を説明できる。 | 講義 |
| | 14 | 神経系⑤ (中枢神経系③) | 中枢神経 (大脳・小脳) の構造と機能と機能を説明できる。 | 講義 |
| | 15 | 神経系⑦ (伝導と運動調節①) | 神経伝導について説明できる。 | 講義 |
| | 16 | 神経系⑧ (伝導と運動調節②) | 神経伝導について説明できる。 | 講義 |
| | 17 | 神経系⑨ (伝導と運動調節③) | 神経伝導について説明できる。 | 講義 |
| | 18 | 神経系⑩ (伝導と運動調節④) | 神経伝導について説明できる。 | 講義 |
| | 19 | 神経系⑪ (末梢神経系①) | 脳神経 (頭蓋底の構造から頭蓋骨の確認) | 試験 |
| | 20 | 神経系⑬ (末梢神経系②) | 脳神経 (頭蓋底の構造から頭蓋骨の確認) | 講義 |
| | 21 | 神経系⑭ (末梢神経系③) | 脊髄神経 (頸神経・胸神経) の走行と分布を説明できる。 | 講義 |
| | 22 | 神経系⑮ (末梢神経系④) | 脊髄神経 (頸神経・胸神経) の走行と分布を説明できる。 | 講義 |
| | 23 | 試験 | | 試験 |
| | 24 | フィードバック | | 講義 |
| 3期 | 25 | 神経系⑯ (末梢神経系⑤) | 脊髄神経 (腰神経・仙骨神経) の走行と分布を説明できる。 | 講義 |
| | 26 | 神経系⑰ (末梢神経系⑥) | 脊髄神経 (腰神経・仙骨神経) の走行と分布を説明できる。 | 講義 |
| | 27 | 神経系⑱ (末梢神経系⑦) | デルマトームを説明できる。 | 講義 |
| | 28 | 骨格筋の構造と機能 | 骨格筋の構造と機能について説明できる。 | 講義 |
| | 29 | 骨格筋の構造と機能 | 骨格筋の構造と機能について説明できる。 | 講義 |
| | 30 | 筋収縮の機構 | 骨格筋の収縮機構について説明できる。 | 講義 |
| | 31 | 筋収縮の機構 | 骨格筋の収縮機構について説明できる。 | 講義 |
| | 32 | 循環器系・機能① (A,循環系,B 心臓の構造) | 刺激伝導系・心周期について説明できる。 | 講義 |
| | 33 | 循環器系・機能② (循環の調節 (刺激伝導系・心周期)) | 刺激伝導系・心周期について説明できる。 | 講義 |
| | 34 | 循環器系・機能③ (循環の調節 (刺激伝導系・心周期)) | 刺激伝導系・心周期について説明できる。 | 講義 |
| | 35 | 試験 | | 試験 |
| 36 | フィードバック | | 講義 | |
| | 37 | 年度末試験 | | 試験 |

【科目】 保健と医療 I 【公衆衛生学】

【基本情報】

| | | | | |
|------|--------|---------|-----------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 渋谷 砂恵子 | |
| 単位数 | 3 単位 | | (しづや さえこ) | |
| 開講学期 | 1~3 学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 36 回 |

【授業情報】

| | |
|-----------------|--|
| 授業概要 | 公衆衛生学とは健康を維持増進させる学問である。理想的な健康像とはどのようなことなのか、健康管理は個人や行政ではどのように考え、実践されているか、地球温暖化などの地球的規模の環境問題から空気・水・食品など私達を取り巻く生活環境に関する知識、職業がどのように健康に影響を与えるのか、生活習慣病の実態と予防はどのようなことなのかといったことなどを学んでいく。 |
| 授業の一般目標 (G I O) | 責任感を持ってあはき師としての業務を行うために、わが国の衛生状況の概要を理解する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|---|
| 教科書 | 1. 「衛生学・公衆衛生学」第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) |
| 参考書 | 1. 「国民衛生の動向」 厚生統計協会 2. 「公衆衛生がみえる」 メディックメディア |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法 (評価割合 : %) 期末試験 : 100% |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験の評価60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの理念・保健と医療 I・公衆衛生学の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ) 周囲の迷惑となる行為 (私語・携帯電話など) は禁止であり、真剣に学ぶ意思のある学生の利益を最優先します。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12 : 45~13 : 00 3 F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|---------------|-----------------|--|------|
| 1期 | 1 | 衛生・公衆衛生の意義 | 衛生学・公衆衛生学について概説できる。 | 講義 |
| | 2 | 健康の概要、健康増進、疾病予防 | WHOの健康の定義を言うことができる。1～3次予防を分類できる。健康増進法や健康日本21について概説できる。 | 講義 |
| | 3 | 集団検診 | 集団検診について概説し、望ましい条件を述べられる。 | 講義 |
| | 4 | 衛生行政 | 産業保健・学校保健・地域保健の行政について概説できる。保健所・市町村保健センターの業務を説明できる。 | 講義 |
| | 5 | 食品と栄養 | 国民健康/栄養調査を基に栄養摂取状況等を概説できる。BMIを算出できる。 | 講義 |
| | 6 | 寄生虫 | 寄生虫の種類を挙げ、概説できる。 | 講義 |
| | 7 | 食中毒① | 食中毒の原因を挙げ、概説できる。食中毒の現状を説明できる。 | 講義 |
| | 8 | 食中毒② | | 講義 |
| | 9 | 感染の定義、分類 | 日和見感染、不顕性感染、垂直感染の意味を言うことができる。性行為感染症や輸入感染症を挙げられる。 | 講義 |
| | 10 | 感染源 | 感染源を挙げ、概説できる。 | 講義 |
| | 11 | 期末試験 | | 試験 |
| | 12 | 期末試験の解説・解答まとめ | | 講義 |
| 2期 | 13 | 感染症法 | 感染症法・検疫法について説明できる。 | 講義 |
| | 14 | 感染経路 | 感染経路を挙げ、概説できる。 | 講義 |
| | 15 | 予防接種 | ワクチンの種類を挙げ、概説できる。定期的予防接種について説明できる。 | 講義 |
| | 16 | 環境衛生① | 空気の正常成分・異常成分を概説できる。 | 講義 |
| | 17 | 環境衛生② | 照明などの環境衛生について概説できる。 | 講義 |
| | 18 | 地域の環境衛生① | わが国の上水道・下水道について方法や問題点を概説できる。 | 講義 |
| | 19 | 地域の環境衛生② | 上水の水質基準・下水の水質基準を挙げられる。 | 講義 |
| | 20 | 廃棄物 | リサイクル法を挙げ、概説できる。 | 講義 |
| | 21 | 物理的環境 | 気温、気流、輻射熱等を測定する機器を挙げられる。電離放射線と非電離放射線を挙げられる。 | 講義 |
| | 22 | 化学的環境 | 環境を汚染する化学物質を挙げられる。 | 講義 |
| | 23 | 期末試験 | | 試験 |
| | 24 | 期末試験の解説・解答まとめ | | 講義 |
| 3期 | 25 | 生物学的環境 | し尿処理について概説できる。 | 講義 |
| | 26 | 室内環境の測定機器 | 室内環境の測定機器の使用方法がわかる。 | 演習 |
| | 27 | 公害 | 環境基本法による7大公害を挙げ、公害訴訟を概説できる。 | 講義 |
| | 28 | 産業保健 | 労働安全衛生法について説明できる。業務上の疾病を挙げ、概説できる。 | 講義 |
| | 29 | 精神保健・身体障害者等の保健 | 精神障害者保健福祉法に基づく入院の種類を挙げ、概説できる。精神科における入院受療率及び外来受療率の高い疾患を挙げられる。 | 講義 |
| | 30 | 母子保健 | 母子保健法や母子保健の統計を概説できる。 | 講義 |
| | 31 | 成人・高齢者保健 | 特定健康診査について概説できる。日本人の死因や年齢調整死亡率の高いガンについて説明できる。 | 講義 |
| | 32 | 学校保健 | 学校保健安全法について概説できる。学校感染症について説明できる。 | 講義 |
| | 33 | 疫学 | 疫学の種類について概説できる。前向き研究と後向き研究の利点と欠点に説明できる。 | 講義 |
| | 34 | 国際保健 | 国際交流と国際協力の違いを説明できる。わが国の政府開発援助(ODA)について概説できる。 | 講義 |
| | 35 | 期末試験 | | 試験 |
| 36 | 期末試験の解説・解答まとめ | | 講義 | |
| 37 | 年度末試験 | 衛生実習で行った消毒法を含む。 | 試験 | |

【科目】 東洋医学 I 【東洋医学概論 I】

【基本情報】

| | | | | |
|------|--------|---------|-------------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 小林 純子 | |
| 単位数 | 3 単位 | | (こばやし じゅんこ) | |
| 開講学期 | 1～3 学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 36 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|---|
| 授業概要 | 医学史（あはき史）を含む、東洋医学の沿革について学ぶ。また東洋医学の基本的な考え方である陰陽学説や五行学説をもとに、精・気・血・津液の生理・病理・病証、六臓六腑の生理・病理・病証や経絡についても学ぶ。病気を引き起こす原因についても東洋医学的に学んでいく。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 東洋医学の概念を診断、治療に結びつけられるようになるために、東洋医学における人体の構造機能の基礎知識の概要を理解する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|--|
| 教科書 | 1. 新版 東洋医学概論；東洋療法学校協会編 |
| 参考書 | |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験、小テスト・レポートを総合的に評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法（評価割合：％） 1. 期末（年度末試験含む）：90％ 2. 小テスト：10％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験の評価を合計して 60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・専門分野 基礎あん摩マッサージ学、基礎はり学、基礎きゆう学・東洋医学 I の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 東洋医学の考え方による治療法を学ぶため、授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。授業では、ノートをとるだけでなく、話をよく聞いてください。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3 F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|----------------------------------|---|------|
| 1期 | 1 | 東洋医学の歴史 | 1. 東洋医学の起源、成立と発展について説明できる。 2. 日本における東洋医学の歴史と日中交流史について説明できる。 3. 日本における東洋医学の歴史と日中交流史について説明できる。 医学史 (あはき史) について説明できる。 | 講義 |
| | 2 | 人と自然の統一性 | 1. 天人合一思想、陰陽学説、五行学説について説明できる。 | 講義 |
| | 3 | 陰陽学説の基本内容と運用 | 1. 陰陽の相互関係について説明できる。 2. 人体における陰陽について説明できる。 3. 病と陰陽について説明できる。 4. 診断治療における陰陽について説明できる。 | 講義 |
| | 4 | 五行学説の基本内容 | 1. 五行学説の基本内容について説明できる。 | 講義 |
| | 5 | 東洋医学における五行学説の運用① | 1. 自然界の五行、人体の五行について説明できる。 | 講義 |
| | 6 | 東洋医学における五行学説の運用② | 1. 人体の五行、飲食物の五行について説明できる。 | 講義 |
| | 7 | 精の生理と病理 | 1. 精の生理と病理について説明できる。 | 講義 |
| | 8 | 気の生理と病理 | 1. 気の生理と病理について説明できる。 | 講義 |
| | 9 | 血の生理と病理 津液の生理と病理 | 1. 血の生理と病理について説明できる。 2. 津液の生理と病理について説明できる。 | 講義 |
| | 10 | 生体物質の相互関係 神の生理と病理 陰陽の生理と病理 | 1. 生体物質の相互関係について説明できる。 2. 神の生理と病理について説明できる。 3. 陰陽の生理と病理について説明できる。 | 講義 |
| | 11 | 期末試験 | | 試験 |
| | 12 | 期末試験の解説・解答まとめ | | 講義 |
| 2期 | 13 | 蔵象学説、肝の生理と病理と病証 | 1. 蔵象学説について説明できる。 2. 肝の生理と病理と病証について説明できる。 | 講義 |
| | 14 | 胆の生理と病理と病証 | 1. 胆の生理と病理と病証について説明できる。 2. 肝と胆の相互関係について説明できる。 | 講義 |
| | 15 | 心の生理と病理と病証 | 1. 心の生理と病理と病証について説明できる。 | 講義 |
| | 16 | 小腸の生理と病理と病証 | 1. 小腸の生理と病理と病証について説明できる。 2. 心と小腸相互関係について説明できる。 | 講義 |
| | 17 | 脾の生理と病理と病証 | 1. 脾の生理と病理と病証について説明できる。 | 講義 |
| | 18 | 胃の生理と病理と病証 | 1. 胃の生理と病理と病証について説明できる。 2. 脾と胃の相互関係について説明できる。 | 講義 |
| | 19 | 肺の生理と病理と病証 | 1. 肺の生理と病理と病証について説明できる。 | 講義 |
| | 20 | 大腸の生理と病理と病証 | 1. 大腸の生理と病理と病証について説明できる。 2. 肺と大腸の相互関係について説明できる。 | 講義 |
| | 21 | 腎の生理と病理と病証 | 1. 腎の生理と病理と病証について説明できる。 | 講義 |
| | 22 | 膀胱の生理と病理と病証 三焦の生理 | 1. 膀胱の生理と病理と病証について説明できる。 2. 腎と膀胱の相互関係について説明できる。 3. 腎と関係のある奇恒の腑について説明できる。 4. 三焦の生理について説明できる。 | 講義 |
| | 23 | 期末試験 | | 試験 |
| | 24 | 期末試験の解説・解答まとめ | | 講義 |
| 3期 | 25 | 五臓の相互関係① | 1. 心・脾・肝の相互関係、心・肺・脾の相互関係について説明できる。 2. 肺・脾・腎の相互関係について説明できる。 | 講義 |
| | 26 | 五臓の相互関係② | 1. 脾・肝・腎の相互関係、肺・脾・肝の相互関係について説明できる。 2. 心・脾・腎の相互関係について説明できる。 | 講義 |
| | 27 | 五臓の相互関係③ 六腑の協調関係 | 1. 六腑の協調関係の生理と病理について説明できる。 | 講義 |
| | 28 | 全身の気機 | 1. 五臓の関連領域の気機について説明できる。 2. 気機の相互関係について説明できる。 | 講義 |
| | 29 | 経絡の概念、機能、経絡の構成① | 1. 経絡の概念、機能について説明できる。 | 講義 |
| | 30 | 経絡の構成② | 1. 経脈について説明できる。 | 講義 |
| | 31 | 外感病因 | 1. 外感病因について説明できる。 | 講義 |
| | 32 | 内傷病因 | 1. 内傷病因について説明できる。 | 講義 |
| | 33 | 病理産物とその他の要因 | 1. 病理産物とその他の要因について説明できる。 | 講義 |
| | 34 | まとめ | | 講義 |
| | 35 | 期末試験 | | 試験 |
| | 36 | 期末試験の解説・解答まとめ | | 講義 |
| | 37 | 年度末試験 | | 試験 |

【科目】 東洋医学Ⅱ 【経絡経穴概論Ⅰ】

【基本情報】

| | | | | |
|------|--------|---------|-----------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 稲葉 千里 | |
| 単位数 | 3 単位 | | (いなば ちさと) | |
| 開講学期 | 1～3 学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 36 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|---|
| 授業概要 | あはき師において臨床では経穴を取穴出来ることは必須である。体表解剖・取穴実習では実際の身体で正確に経穴を取穴していくことを学び、ここでは経脈の名称や流注、経穴の名前を順番通りに覚え、さらに経穴の部位を正確に覚えることによって、取穴するために必要な経絡経穴の知識を学んでいく。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | あはき臨床において正確に取穴を行うために、全身を流れている経絡、全身に存在する経穴の概要を理解する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|---|
| 教科書 | 1. 新版 経絡経穴概論；東洋療法学校協会編（医道の日本社） |
| 参考書 | 1. WHO 経穴部位日本語公式版 2. 東洋医学概論；東洋療法学校協会編（医道の日本社） |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを期末試験で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法（評価割合：％） 1. 期末試験で評価（年度末試験含む）：100% |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験を 60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・基礎あん摩マッサージ指圧学、基礎はり学、基礎きゅう学・東洋医学Ⅱの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 東洋医学を理解し治療を行うための最も基本となるものである為、積極的な学習姿勢が望まれます。経絡経穴の名称や部位をしっかりと覚えないと国家試験合格や臨床に対応できません。覚えるのに時間のかかる教科なので毎日短時間でもいいのでコツコツ勉強していきましょう。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|-------------------|-------------------------------------|--|
| 1期 | 1 | 経脈・経穴の概論 | 正経十二経脈・奇経八脈、経絡・経穴の種類について概説できる。 | 講義 |
| | 2 | 経脈の流注 骨度法・体表解剖 | 正経十二経脈の流注を概説できる。 骨度法・体表指標を概説できる。 | 講義 |
| | 3 | 督脈① | 督脈の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 4 | 督脈② | 督脈の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 5 | 任脈① | 任脈の流注の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 6 | 任脈② | 任脈の流注の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 7 | 手の太陰肺経① | 手の太陰肺経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 8 | 手の陽明大腸経① | 手の陽明大腸経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 9 | 手の陽大腸経② | 手の陽明大腸経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 10 | 足の陽明胃経① | 足の陽明胃経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 11 | 期末試験 | | 試験 |
| | | 12 | 試験解説 足の陽明胃経② | 期末試験の解説 足の陽明胃経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 |
| 2期 | 13 | 足の陽明胃経③ | 足の陽明胃経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 14 | 足の太陰脾経① | 足の太陰脾経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 15 | 足の太陰脾経② | 足の太陰脾経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 16 | 手の少陰心経① | 手の少陰心経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 17 | 手の太陽小腸経① | 手の太陽小腸経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 18 | 手の太陽小腸経② | 手の太陽小腸経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 19 | 足の太陽膀胱経① | 足の太陽膀胱経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 20 | 足の太陽膀胱経② | 足の太陽膀胱経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 21 | 足の太陽膀胱経③ 背部横並び | 足の太陽膀胱経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 22 | 足の太陽膀胱経④ 背部横並び | 足の太陽膀胱経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 23 | 期末試験 | | 試験 |
| | | 24 | 試験解説 足の少陰腎経① | 足の少陰腎経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 |
| 3期 | 25 | 足の少陰腎経② 腹部横並び | 足の少陰腎経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 26 | 足の少陰腎経③ 腹部横並び | 足の少陰腎経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 27 | 手の厥陰心包経① | 手の厥陰心包経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 28 | 手の少陽三焦経① | 手の少陽三焦経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 29 | 手の少陽三焦経② | 手の少陽三焦経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 30 | 足の少陽胆経① | 足の少陽胆経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 31 | 足の少陽胆経② | 足の少陽胆経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 32 | 足の少陽胆経③ | 足の少陽胆経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 33 | 足の厥陰肝経① | 足の厥陰肝経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 34 | 足の厥陰肝経② | 足の厥陰肝経の流注と所属する経穴名・部位を概説できる。 | 講義 |
| | 35 | 期末試験 | | 試験 |
| | | 36 | 試験の解説・解答・まとめ | 期末試験の解説 |
| | 37 | 年度末試験 | | 試験 |

【科目】 あはき概論 I 【あはき概論】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|-----------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 相田 典子 | |
| 単位数 | 1 単位 | | (あいだ のりこ) | |
| 開講学期 | 1 学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 12 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | 担当講師が外部治療院や学校附属施術所での臨床経験を通じて、あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう（以下、あはき）の施術で用いる手技や道具に関する事柄や衛生概念を理解し、系統的な「あん摩マッサージ指圧」「はり」「きゅう」の各施術をおこなうための基礎的理論を養う科目です。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 衛生的で安全なあはき臨床を行うために、あん摩マッサージ指圧・鍼・灸の基本知識、施術の意義、基本手技を理解する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|--|
| 教科書 | 1. はりきゅう理論 東洋療法学校協会編 医道の日本社 2. あん摩マッサージ指圧理論 第3版 東洋療法学校協会編 医道の日本社 |
| 参考書 | 1. 鍼灸医療安全ガイドライン 医歯薬出版(株) |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法（評価割合：％） 期末試験の成績：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験60％以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・臨床あん摩マッサージ指圧学臨床はり学臨床きゅう学・あはき概論 I の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） HR での講義形式にて、用語の理解に重点を置き、解説を行います。授業内容をメモするのはもちろん、授業をよく聴いてください。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3 F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標（SBOs） | 講義形態 |
|----|-------|--|---|------|
| 1期 | 1 | 1. 概論：鍼灸施術の意義、鍼灸治療の特徴（治療効果が期待される疾患・症状） | 鍼灸施術の、意義・特徴を説明できる。 WHO、NIHによる鍼灸施術の効果が期待される疾患・症状を挙げられる。 日本における健康保険適応疾患を挙げられる。 | 講義 |
| | 2 | 2. 鍼の基礎知識：用具・鍼と鍼管 | 鍼施術で用いる用具（毫鍼と鍼管）について説明できる。 古代九鍼について名称、分類を説明できる。 | 講義 |
| | 3 | 3. 刺鍼の方式と術式：刺鍼の方法、刺鍼の術式（刺鍼中の術式） | 刺鍼の方式を説明できる。 刺鍼中の術式（17種類）を挙げられ、それぞれ説明できる。 | 講義 |
| | 4 | 3. 刺鍼の方式と術式：刺鍼の術式（刺鍼中の術式） | 刺鍼中の術式（17種類）を挙げられ、それぞれ説明できる。 | 講義 |
| | 5 | 4. 特殊鍼法：小児鍼、皮内鍼、円皮鍼、灸頭鍼、低周波通電療法、その他 | 特殊鍼法について、その種類を挙げられ、それぞれ説明できる。 | 講義 |
| | 6 | 5. 灸の基礎知識：灸の材料、艾の製造方法、線香 | 灸の材料について、説明できる。 灸の製造過程を理解し、説明できる。 線香について、材料やサイズを説明できる。 | 講義 |
| | 7 | 6. 灸術の種類：有痕灸、無痕灸 | 灸術の種類を説明できる。 有痕灸と無痕灸について、その違いとそれぞれの種類を説明できる。 | 講義 |
| | 8 | 7. 鍼灸の臨床応用：刺激量、感受性、鍼灸療法の適応症 | 鍼灸施術における、刺激量、感受性を説明できる。 鍼灸施術が適応となる場合や疾患（症状）を挙げられる。 鍼灸施術が不適応・禁忌となる場合や疾患（症状）を挙げられる。 | 講義 |
| | 9 | 8. リスク管理：リスク管理の基本、鍼療法の過誤と副作用 | 鍼灸施術のリスクを理解し、説明できる。 鍼施術の過誤と副作用について、説明できる。 灸施術の過誤と副作用について、説明できる。 | 講義 |
| | 10 | 8. リスク管理：消毒 9. あま指の基本手技の種類 | 施術における感染症対策について、その種類と目的を理解し、説明・実践できる。 あん摩・指圧・マッサージそれぞれの基本手技の種類を説明できる。 | 講義 |
| | 11 | 期末試験 | | 試験 |
| | 12 | 期末試験の解説・解答 まとめ | | 講義 |
| 13 | 年度末試験 | | 試験 | |

【科目】あはき概論Ⅱ【衛生実習】

【基本情報】

| | | | | |
|------|-----|---------|-------------------------|-----|
| 配当年次 | 1学年 | 担当教員 | 渋谷 砂恵子（しづや さえこ）（実務経験あり） | |
| 単位数 | 1単位 | | 稲葉 千里（いなば ちさと）（実務経験あり） | |
| 開講学期 | 1期 | 授業形態・回数 | 講義・演習 | 12回 |

【授業情報】

| | |
|--------------|--|
| 授業概要 | 鍼灸臨床において衛生的操作に対する考え方について、古くは皮膚への侵襲が極めて少ないことを逆に満足な衛生管理をされないままの臨床が一部行われていた。近年、感染予防に関する衛生管理はどの分野でも注目され実践されてきている。“あはき法”に記されている鍼施術に対する消毒操作の義務に限らず、医療に携わる一員として医療における最低限度の感染防御は出来なければならないと考えられる。そこで、ここでは担当講師が外部治療院や学校付属施術所での臨床経験をもとに、標準予防策に準ずる衛生管理と、鍼灸臨床において患者と施術者双方を守ることに主眼をおいた衛生的な知識と技術を教授し、それを学んでいく。 |
| 授業の一般目標（GIO） | 衛生的で安全な鍼灸臨床を実践するために、衛生管理と感染防御に関する知識と技能を身につける。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|---|
| 教科書 | 1. 「衛生学・公衆衛生学」第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) |
| 参考書 | 適宜、提示します。 |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを実技と学科の期末試験で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法（評価割合：％） 1. 手洗い・手指消毒の期末試験（実技）：50％ 2. 衛生管理・消毒法の期末試験（学科）：50％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験の評価60％以上の合格により履修とする。【年度末試験対象科目（公衆衛生学の科目にて行う）】この科目は専門分野・臨床あん摩マッサージ指圧学、臨床はり学、臨床きゅう学、あはき概論Ⅱ・衛生実習の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 1. 授業回数により授業教室が異なる為、毎回確認をしてください。 2. 欠席、遅刻、早退などは授業内容が理解できなくなるだけでなく、ペアとなるクラスメイトにも迷惑をかけます。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には十分留意してください。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の12：45～13：00 3F教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|---------------------------|--|------|
| 1期 | 1 | 医療における衛生管理とは 衛生上のリスク管理 | 医療における衛生管理の必要性を理解できる。 鍼灸臨床に関わる衛生上のリスクを理解し、リスク管理の方法を説明できる。 | 講義 |
| | 2 | 手洗い概説 | 手指衛生の歴史を理解できる。 手洗いの必要性について説明できる。 手洗いの種類を説明できる。 あはき師に必要な手洗いを説明できる。 | 講義 |
| | 3 | 手洗い実技演習① | 衛生的手洗い（スクラブ法）を実践できる。 | 演習 |
| | 4 | 手洗い実技演習② | 手指消毒（ラビング法）を実践できる。 患部消毒（スワブ法）を実践できる。 | 演習 |
| | 5 | 手洗い実技演習③ | 日常的手洗いによって洗い残りが発生しやすい箇所を説明できる。 | 演習 |
| | 6 | 消毒法について① | 滅菌と消毒(殺菌)の違いを説明できる。 物理的消毒法の種類と特徴を説明できる。 | 講義 |
| | 7 | 消毒法について② | 化学的消毒法の種類と特徴を説明できる。 | 講義 |
| | 8 | まとめ（手洗い実技演習） | | 演習 |
| | 9 | 期末試験（実技） | | 試験 |
| | 10 | まとめ | | 演習 |
| | 11 | 期末試験（学科） | | 試験 |
| | 12 | 期末試験(学科) の解説・解答 まとめ | | 講義 |
| | 13 | 年度末試験 | 『公衆衛生学』の科目にて年度末試験を行う。 | 試験 |

【科目】 あはき概論Ⅲ【身体診察学】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|--------------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 三浦 洋（実務経験あり） | |
| 単位数 | 1 単位 | | （みうら ひろし） | |
| 開講学期 | 3 学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 12 回 |

【授業情報】

| | |
|----------------|---|
| 授業概要 | 2 年次の「身体診察実習」と「運動器系疾患実習」から3年次の「あはき臨床実習」を履修する上で必要不可欠な鑑別診断能力を養うために運動器系疾患の病態やその病態に対する問診事項から身体診察方法について学ぶ。 |
| 授業の一般目標（G I O） | 鍼灸臨床で最も多く遭遇する主訴は、「腰痛」、「腰下肢痛」、「頸上肢痛」、「膝関節痛」、「肩関節痛」であるが、これらを引き起こす原因の中で鍼灸臨床で最も多く扱われる病態を学ぶと共にその病態を把握するために必要な「問診事項」と「身体診察法」について学習する。 |

【担当教員から】

| | |
|---|---|
| 教科書 | テキストを配布 |
| 参考書 | <ol style="list-style-type: none"> 『開業鍼灸師のための診察法と治療法 1 総論・腰痛』 医道の日本社 『開業鍼灸師のための診察法と治療法 2 坐骨神経痛』 医道の日本社 『開業鍼灸師のための診察法と治療法 3 膝関節痛』 医道の日本社 『開業鍼灸師のための診察法と治療法 4 頸・上肢痛』 医道の日本社 『開業鍼灸師のための診察法と治療法 5 五十肩』 医道の日本社 『運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢』 MEDICALVIEW 『運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹』 MEDICALVIEW |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法（評価割合：％） 期末試験（年度末試験含む）：100％ |
| 履修の条件留意点 | 期末試験の評価を合計して 60％以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・臨床あん摩マッサージ指圧学臨床はり学臨床きゅう学・あはき概論Ⅲの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） |
|  | <p>授業概要にも記されている通り、2 年次の「身体診察実習」と「運動器系疾患実習」から3年次の「あはき臨床実習」を行う上で必要不可欠な鑑別診断能力を養います。</p> <p>ここで配布するテキストは上記した2年次の実技と3年次の臨床実習でも使いますので、紛失しないように大切にしてください。</p> |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3 F 教員室 |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標（SBOs） | 講義形態 |
|----|----|--------|--------------------------------|-------|
| 3期 | 1 | 総論 | 「臨床とは何か」と「カルテの記載事項」について説明できる。 | 講義 |
| | 2 | 腰痛 | 「病態」及び「問診事項」と「身体診察法」について説明できる。 | 講義・演習 |
| | 3 | 腰下肢痛 | 「病態」及び「問診事項」と「身体診察法」について説明できる。 | 講義・演習 |
| | 4 | 腰下肢痛 | 「病態」及び「問診事項」と「身体診察法」について説明できる。 | 講義・演習 |
| | 5 | 頸上肢痛 | 「病態」及び「問診事項」と「身体診察法」について説明できる。 | 講義・演習 |
| | 6 | 頸上肢痛 | 「病態」及び「問診事項」と「身体診察法」について説明できる。 | 講義・演習 |
| | 7 | 膝関節痛 | 「病態」及び「問診事項」と「身体診察法」について説明できる。 | 講義・演習 |
| | 8 | 膝関節痛 | 「病態」及び「問診事項」と「身体診察法」について説明できる。 | 講義・演習 |
| | 9 | 疑問の構造化 | 「病態」及び「問診事項」と「身体診察法」について説明できる。 | 講義・演習 |
| | 10 | 疑問の構造化 | 「病態」及び「問診事項」と「身体診察法」について説明できる。 | 講義・演習 |
| | 11 | 期末試験 | | 試験 |
| | 12 | 期末試験解説 | | 講義 |
| | 13 | 年度末試験 | | 試験 |

【科目】 基本はりきゅう実技 I 【基本はり実技】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|---------------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 猪野 幸峰（実務経験あり） | |
| 単位数 | 2 単位 | | （いの ゆきほ） | |
| 開講学期 | 前・後期 | 授業形態・回数 | 実習 | 36 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | 外部治療院や学校付属施術所での臨床経験を活かして、はり施術における基本刺鍼手技を習得させることを目的とする。前期の前半では、①片手で鍼と鍼管を扱う片手挿管の習得、②押手および刺手の意義や実際の方法の習得、③管鍼法の手順の習得について刺鍼練習台を用いて行う。前期後半において、手指・施術野の衛生的な処理操作を行い自らの身体に刺鍼をさせ、どのような感覚が生じるのかを体験させることにより、痛みの発生を抑制した刺鍼法を習得させる。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 正確かつ衛生的で安全に刺鍼を行えるようになるために、基本的な操作や鍼の基礎知識、必要な衛生的知識、施術者としての心構えを修得する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|---|
| 教科書 | 1. はりきゅう理論；東洋療法学校協会編（医道の日本社） 2. はりきゅう実技〈実技編〉第2版；東洋療法学校協会編（医道の日本社） |
| 参考書 | 1. 図解 鍼灸臨床手技マニュアル 第2版；尾崎明弘著（医歯薬出版株式会社） |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを実技試験と、授業態度を総合的に評価する。 授業態度：授業毎の身だしなみ等の配慮の可不可、ペアでの練習時の受け手評価シートによる客観評価によって算定される。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法（評価割合：%） 実技試験の成績：100% |
| 履修の条件 留意点 | 実技試験が 60%以上で履修とする。【実技認定試験対象科目】この科目は専門分野・実習・基本はりきゅう実技 I の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 1. 技術習得ですので、毎日の反復練習を心掛けてください。 2. 少しずつレベルアップしていくためには毎回の授業内で確認が必要となるので、体調管理をしっかりと行い、欠席しないようにしてください。 3. 事故防止のため、指示された部位以外への刺鍼は禁止いたします。（身だしなみなど衛生的配慮等を施術者として心掛けてください。） |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 | |
|----|----|----------------------|--|--|----|
| 前期 | 1 | 授業概要 | 鍼実技を進めるにあたっての心構えが理解できる。 鍼を扱うにあたってのリスク管理が理解できる。 | 実習 | |
| | 2 | 刺鍼の基本手技 (術式) の紹介 | 擦鍼法、打鍼法、管鍼法、接触鍼法について説明できる。 | 実習 | |
| | 3 | 基本刺鍼練習 (刺鍼練習台上での挿管法) | 管鍼法の手順が説明できる。 片手挿管法を目視せずに行うことができる。 刺鍼練習台に対して、毫鍼を決められた方向、深度に刺入できる。 刺鍼するにあたって、姿勢正しく行うことができる。 鍼具を丁寧に取り扱い扱うことができる。 | 実習 | |
| | 4 | 基本刺鍼練習 (片手挿管法・管鍼法) | | 実習 | |
| | 5 | 基本刺鍼練習 (片手挿管法・管鍼法) | | 実習 | |
| | 6 | 基本刺鍼練習 (片手挿管法・管鍼法) | | 実習 | |
| | 7 | 基本刺鍼練習 (片手挿管法・管鍼法) | | 実習 | |
| | 8 | 基本刺鍼練習 (片手挿管法・管鍼法) | | 実習 | |
| | 9 | 中間実技試験 | | (片手挿管法、管鍼法) | 試験 |
| | 10 | 基本刺鍼練習 (衛生操作) | | 清潔な施術環境 (ハウスキーピング: 施術用ワゴン、ベッド、枕やタオル、床など) について、その手順とその意味を説明でき、実行できる。(以降共通) 施術前後の基本的な消毒の手順とその意味を説明でき、実行できる。(以降共通) 自分の下腿に対して、毫鍼を決められた方向、深度に刺入できる。 | 実習 |
| | 11 | 基本刺鍼練習 (自己下腿前脛部) | 実習 | | |
| | 12 | 基本刺鍼練習 (自己下腿前脛部) | 実習 | | |
| | 13 | 基本刺鍼練習 (自己下腿前脛部) | 実習 | | |
| | 14 | 基本刺鍼練習 (自己下腿内側面) | 実習 | | |
| | 15 | 基本刺鍼練習 (自己下腿内側面) | 実習 | | |
| | 16 | 基本刺鍼練習 (自己下腿内側面) | 実習 | | |
| | 17 | 期末実技試験 | (自己下腿への刺鍼) | 試験 | |
| | 18 | 試験フィードバック | | 実習 | |
| 後期 | 19 | 基本刺鍼練習 (対人刺鍼: 下腿後面) | 受け手の姿勢や枕の位置に配慮する事ができる。(以降共通) 自身の刺鍼しやすい姿勢・立ち位置で施術を行うことができる。(以降共通) | 実習 | |
| | 20 | 基本刺鍼練習 (対人刺鍼: 下腿後面) | | 実習 | |
| | 21 | 基本刺鍼練習 (対人刺鍼: 下腿前面) | 下腿後面に対して、毫鍼を決められた方向、深度に刺入できる。 | 実習 | |
| | 22 | 基本刺鍼練習 (対人刺鍼: 下腿前面) | | 実習 | |
| | 23 | 基本刺鍼練習 (対人刺鍼: 下腿前面) | | 実習 | |
| | 24 | 基本刺鍼練習 (対人刺鍼: 下腿内側面) | 下腿前面に対して、毫鍼を決められた方向、深度に刺入できる。 | 実習 | |
| | 25 | 基本刺鍼練習 (対人刺鍼: 下腿内側面) | | 実習 | |
| | 26 | 中間実技試験 | (対人刺鍼: 腓腹筋部) | 試験 | |
| | 27 | 試験フィードバック | | 実習 | |
| | 28 | 基本刺鍼練習 (対人刺鍼: 腰部) | 腰部に対して、毫鍼を決められた方向、深度に刺入できる。 殿部に対して、毫鍼を決められた方向、深度に刺入できる。 | 実習 | |
| | 29 | 基本刺鍼練習 (対人刺鍼: 腰部) | | 実習 | |
| | 30 | 基本刺鍼練習 (対人刺鍼: 腰殿部) | | 実習 | |
| | 31 | 基本刺鍼練習 (対人刺鍼: 肩背部) | 肩背部に対して、毫鍼を決められた方向、深度に刺入できる。 | 実習 | |
| | 32 | 基本刺鍼練習 (対人刺鍼: 肩背部) | | 実習 | |
| | 33 | 基本刺鍼練習 (対人刺鍼: 肩背部) | | 試験 | |
| | 34 | 基本刺鍼練習 (対人刺鍼: 腰部) | 腰部に対して、毫鍼を決められた方向、深度に刺入できる。 | 実習 | |
| | 35 | 期末実技試験 | (対人刺鍼: 腰部) | 試験 | |
| | 36 | 試験フィードバック | | 実習 | |

【科目】 基本はりきゅう実技Ⅱ 【基本きゅう実技】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|-------------------------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 渋谷 砂恵子（しづや さえこ）（実務経験あり） | |
| 単位数 | 2 単位 | | 稲葉 千里（いなば ちさと）（実務経験あり） | |
| 開講学期 | 前・後期 | 授業形態・回数 | 実習 | 36 回 |

【授業情報】

| | |
|--------------|--|
| 授業概要 | <p>外部治療院や学校付属施術所での臨床経験を活かして、きゅう施術における基本施灸手技を習得させることを目的とする。前期の前半では、刺鍼練習台や半竹筒を用いて、①モグサを捻り出す動作、②捻り出したモグサを切り取り施灸部位へ真っ直ぐ立つように置く動作、③艾炷が一定の大きさ（米粒大）に形成出来るようにさせ、④艾炷の作成速度を上げる訓練や艾炷の点火の仕方を習得させる。前期後半において、手指・施術野の衛生的な処理操作を行い自らの身体に施灸をさせ、どのような感覚が生じるのかを体験させることにより、熱痛の発生を抑制した施灸法を習得させる。後期からは、衛生的操作を含む半米粒大による対人施灸を修得させる。対人施灸の際には、医療過誤を引き起こすことがないよう施灸上の諸注意を理解し、過誤を未然に防ぐきゅう施術のスキルを身につけさせる。</p> |
| 授業の一般目標（GIO） | <p>正確かつ衛生的で安全に施灸を行えるようになるために、基本的な操作や灸の基礎知識、必要な衛生学的知識、施術者としての心構えを修得する。</p> |

【担当教員から】

| | |
|--------------|--|
| 教科書 | <p>1. はりきゅう理論；東洋療法学校協会編（医道の日本社） 2. はりきゅう実技〈実技編〉第2版；東洋療法学校協会編（医道の日本社）</p> |
| 参考書 | <p>1. 図解 鍼灸臨床手技マニュアル 第2版；尾崎明弘著（医歯薬出版株式会社）</p> |
| 成績評価基準 | <p>シラバスで明示した到達目標を達成しているかを期末実技試験で評価する。</p> |
| 成績評価方法 | <p>成績評価の算定方法（評価割合：％） 期末実技試験の成績：100％</p> |
| 履修の条件 留意点 | <p>期末実技試験60％以上で履修とする。【実技認定試験対象科目】この科目は専門分野・実習・基本はりきゅう実技Ⅱの単位として認定されます。</p> |
| 担当教員 | <p>★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対人施灸練習までは刺鍼練習台と竹を用いて施灸練習を行いますので、刺鍼練習台と竹を忘れないようにしてください。 2. 前期中間以降は自己下腿での施灸練習、後期からは対人による施灸練習となりますので、事前に指示される内容をしっかり把握してください。 3. 技術習得ですので、毎日の反復練習を心掛けてください。 4. 少しずつレベルアップしていくためには毎回の授業内で確認が必要となるので、体調管理をしっかりと行い、欠席しないようにしてください。 5. 事故防止のため、指示された部位以外への施灸は禁止いたします。 |
| オフィスアワー | <p>授業開講日の12：45～13：00 3F教員室</p> |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標（SBOs） | 講義形態 |
|-------|---------------------|---------------------------|---|------|
| 前期 | 1 | 授業概要 | きゅう実技を進めるにあたっての心構えが理解できる。 きゅうを扱うに当たってのリスク管理が理解できる。 | 実習 |
| | 2 | 施灸の基本手技（術式）の紹介 艾炷の作製 | 有痕灸、無痕灸について概説できる。 艾炷作成の為の指の使い方が理解できる。 | 実習 |
| | 3・4 | 刺鍼練習台上での艾炷(米粒大)作成 | 艾炷作成の手順が説明できる。 米粒大の艾炷を作成することができる。 刺鍼練習台の上に艾炷をまっすぐに据えることができる。 竹の上に艾炷をまっすぐに据えることができる。 | 実習 |
| | 5 | 半竹筒上での艾炷(米粒大)作成 | | 実習 |
| | 6～9 | 半竹筒上での艾炷への点火 | 線香の取り扱いが理解でき、安全に扱うことができる。 灰除法と固定法の違いが説明できる。 艾炷への点火が適切にできる。 灰の処理が適切にできる。 | 実習 |
| | 10 | 確認試験 | （竹上への米粒大の作成、艾炷への点火） | 試験 |
| | 11 | 試験フィードバック 半竹筒上での艾炷への点火 | | 実習 |
| | 12～15 | 基本施灸練習 （自己踵部内側面） | 清潔な施術環境（ハウスキーピング：施術用ワゴン、ベッド、枕やタオル、床など）について、その手順とその意味を説明でき、実行できる。（以降共通） 施灸前後の基本的な消毒の手順とその意味を説明でき、実行できる。（以降共通） 自分の下腿に対して、米粒大による八分施灸が適切にできる。 | 実習 |
| | 16 | 期末実技試験 | （自己踵部内側面への八分灸） | 試験 |
| | 17 | 試験フィードバック 半竹筒上での艾炷への点火 | 半米粒大の艾炷を作成することができる。 | 実習 |
| 後期 | 18 | 半竹筒上での艾炷(半米粒大)作成 | 半米粒大の艾炷を作成することができる。 竹の上に艾炷(半米粒大)をまっすぐに据えることができる。 | 実習 |
| | 19・20 | 半竹筒上での艾炷(半米粒大)作成 | 受け手の姿勢や枕の位置に配慮する事ができる。（以降共通） 自身の刺鍼しやすい姿勢・立ち位置で施術を行うことができる。（以降共通） 女膝穴・失眠穴へ適切に施灸することができる。 | 実習 |
| | 21 | 確認試験 | （竹上への半米粒大の作成、艾炷への点火） | 試験 |
| | 22～26 | 基本施灸練習（対人踵部） | 受け手の姿勢や枕の位置に配慮する事ができる。（以降共通） 自身の刺鍼しやすい姿勢・立ち位置で施術を行うことができる。（以降共通） 女膝穴・失眠穴へ適切に施灸することができる。 | 実習 |
| | 27 | 確認試験 | （対人施灸：女膝穴・失眠穴） | 試験 |
| | 28・29 | 基本施灸練習 （対人：下腿前面） | 下腿前面に対して適切に施灸することができる。 | 実習 |
| | 30・31 | 基本施灸練習 （対人：前腕外側） | 前腕外側に対して適切に施灸することができる。 | 実習 |
| | 32 | まとめ | （下腿前面・前腕外側への施灸） | 実習 |
| | 33 | 期末実技試験 | （対人施灸：足三里穴・手三里穴） | 試験 |
| | 34 | 試験フィードバック | | 実習 |
| 35・36 | 基本施灸練習 （対人：下腿後面） | 下腿後面に対して適切に施灸することができる。 | 実習 | |

【科目】 基本はりきゅう実技Ⅲ【体表解剖・取穴実習】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|---------------------------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 稲葉 千里 (いなば ちさと) (実務経験あり) | |
| 単位数 | 2 単位 | | 足立 昌彦 (あだち まさひこ) (実務経験あり) | |
| 開講学期 | 前・後期 | 授業形態・回数 | 実習 | 36 回 |

【授業情報】

| | |
|---------------|--|
| 授業概要 | 外部治療院や学校付属施術所での臨床経験を活かして、鍼灸施術において臨床上必要不可欠な取穴を習得させることを目的とする。経絡経穴概論では、経脈の名称や流注、経穴の名前を順番通りに覚え、さらに経穴の部位を正確に覚えるが、ここでは体表解剖を学ぶことによって取穴するために必要な骨、筋肉、血管などを実際の身体で触れ位置関係を理解し、各経脈の流注の場所や経穴の部位を正確に取穴することを学んでいく。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 鍼灸臨床の場で十分活躍できるようになるために、体表から触れることのできる骨、筋肉、動脈拍動部の正確な触れ方と、経絡の流注及び経穴の取穴方法の実際を修得する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|---|
| 教科書 | 1. 新版 経絡経穴概論；東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 2. 解剖学 第2版；東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) |
| 参考書 | 1. 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢；(株式会社メジカルビュー社) 2. 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹；(株式会社メジカルビュー社) 3. ボディ・ナビゲーション；(医道の日本社) 4. よくわかる筋の機能解剖 第2版；(メディカル・サイエンス・インターナショナル) 5. 触診解剖アトラス 頸部・体幹・上肢；(株式会社メジカルビュー) |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを期末実技試験で総合的に評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法 (評価割合：%) 期末実技試験の成績：100% |
| 履修の条件 留意点 | 期末実技試験 60%以上で履修とする。 【実技認定試験対象科目】この科目は専門分野・実習・基本はりきゅう実技Ⅲの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ) 1. 鍼灸施術の基本である取穴の実際を学習する科目です。体表部の観察や触診の要領と指先の触知力を高めるように心がけるとともに実習工技の内容を十分理解し、取穴の実際について指先と身体で覚えるように心がけて下さい。また、人体構造機能、経絡経穴概論とも密接な関連があるので、既習科目の理解を深めておくことが大切です。 2. 欠席、遅刻、早退などは授業内容が理解できなくなるだけでなくペアとなるクラスメイトにも迷惑をかけます。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には十分留意して下さい。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12:45~13:00 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|---------------|------------|---|------|
| 前期 | 1 | 体表解剖 概要 | 体表解剖とは何か概説できる。 | 実習 |
| | 2・3 | 上肢 体表解剖 | 上肢前面の筋肉の触診することができる。 | 実習 |
| | 4 | 上肢 体表解剖 | 上肢前面の筋肉の触診することができる。 | 実習 |
| | 5 | 上肢 流注 取穴 | 上肢にある主要な経穴名の読み方、取穴位置が説明できる。 上肢の経脈と骨・筋肉・血管・神経との位置関係を説明することができる。 | 実習 |
| | 6 | 上肢 流注 取穴 | 上肢にある主要な経穴名の読み方、取穴位置が説明できる。 上肢の経脈と骨・筋肉・血管・神経との位置関係を説明することができる。 | 実習 |
| | 7 | 上肢 流注 取穴 | 上肢にある主要な経穴名の読み方、取穴位置が説明できる。 上肢の経脈と骨・筋肉・血管・神経との位置関係を説明することができる。 | 実習 |
| | 8～ 10 | 下腿後面 体表解剖 | 膝窩動脈の拍動を確認できる。 下腿後面の筋肉を触診することができる。 | 実習 |
| | 11 ～ 13 | 下腿後面 流注 取穴 | 下腿後面にある主要な経穴名の読み方、取穴位置が説明できる。 下腿後面の経脈と骨・筋肉・血管・神経との位置関係を説明することができる。 | 実習 |
| | 14・ 15 | 下腿前面 体表解剖 | 下腿前面の骨の触診することができる。 | 実習 |
| | 16 | 下腿前面 体表解剖 | 下腿前面の筋肉の触診することができる。 | 実習 |
| | 17 | 期末実技試験 | (四肢の骨、筋肉、動脈拍動部の触知と取穴) | 試験 |
| 18 | 試験フィードバック | | 実習 | |
| 後期 | 19 | 大腿前面 流注 取穴 | 大腿前面にある主要な経穴名の読み方、取穴位置が説明できる。 大腿前面の経脈と骨・筋肉・血管・神経との位置関係を説明することができる。 | 実習 |
| | 20 | 腰殿部 体表解剖 | 腰殿部の骨、筋肉を説明できる。 腰殿部の筋肉を触診することができる。 | 実習 |
| | 21 ～ 23 | 腰殿部 流注 取穴 | 腰殿部にある主要な経穴名の読み方、取穴位置が説明できる。 腰殿部の経脈と骨・筋肉・血管・神経との位置関係を説明することができる。 | 実習 |
| | 24 | 腰殿部 流注 取穴 | 腰殿部にある主要な経穴名の読み方、取穴位置が説明できる。 腰殿部の経脈と骨・筋肉・血管・神経との位置関係を説明することができる。 | 実習 |
| | 25・ 26 | 腰殿部 流注 取穴 | 腰殿部にある主要な経穴名の読み方、取穴位置が説明できる。 腰殿部の経脈と骨・筋肉・血管・神経との位置関係を説明することができる。 | 実習 |
| | 27・ 28 | 上背部 体表解剖 | 上背部の骨、筋肉を説明できる。 上背部の筋肉を触診することができる。 | 実習 |
| | 29・ 30 | 上肢帯 体表解剖 | 上肢の骨、筋肉、動脈を説明できる。 上肢の筋肉、動脈拍動部を触診することができる。 | 実習 |
| | 31・ 32 | 上背部 流注 取穴 | 上背部にある主要な経穴名の読み方、取穴位置が説明できる。 上背部の経脈と骨・筋肉・血管・神経との位置関係を説明することができる。 | 実習 |
| | 33・ 34 | 上肢帯 流注 取穴 | 上肢にある主要な経穴名の読み方、取穴位置が説明できる。 上肢の経脈と骨・筋肉・血管・神経との位置関係を説明することができる。 | 実習 |
| | 35 | 期末実技試験 | (体幹部の骨、筋肉の触知と取穴) | 試験 |
| 36 | 試験フィードバック | | 実習 | |

【科目】 基本手技実技 I 【基本あん摩実技】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|---------------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 田中 文枝（実務経験あり） | |
| 単位数 | 2 単位 | | （たなか ふみえ） | |
| 開講学期 | 前・後期 | 授業形態・回数 | 実習 | 36 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | 外部治療院での臨床経験を活かして、按摩の基本手技を学び、人体各部位に合う手技を習得させることを目的とする。患者の体位に応じて安全かつ有効な施術方法を学んでいく。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 安全かつ有効な按摩の手技を行うために、人体各部位に合う基本的手技を習得する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|--|
| 教科書 | 1. 按摩・マッサージ・指圧—実技編—；学校法人呉竹学園編 |
| 参考書 | 1. あん摩マッサージ指圧実技；東洋療法学校協会編, 医道の日本社 2. あん摩マッサージ指圧理論；東洋療法学校協会編, 医道の日本社 |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、各期実技試験で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法（評価割合：％） ・実技試験の成績：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 実技試験の 60％以上で履修とする。【実技認定試験対象科目】この科目は専門分野・実習・基本手技実技 I の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 1. 按摩の手技の基本を理解し、繰り返し反復練習する。 2. 施術部位の十分な理解をする。 3. 予習→授業→復習のサイクルを守る。 4. 授業では、実技の前に講義とデモンストレーションがあるのでノートを取りながら、話をよく聞く。 5. 解剖学、経絡経穴概論、東洋医学概論、あん摩マッサージ指圧理論の科目とも密接な関連があるので、既習科目の理解を深めておく。 6. 授業は、講義・実習が組み合わせられ、実習は 2 人一組にて行われる。欠席、遅刻や早退などは授業内容が理解できなくなるだけでなく、組み合わせの相手にも迷惑をかけることになる。体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には十分留意する。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|---------------------------|--|------|
| 前期 | 1 | 施術上の注意、按摩の基本 基本手技①：軽擦法 | 1. 施術者の身だしなみ、白衣の着用に配慮できる。 2. 按摩の意義を説明できる。 3. 受け手の施術時の体位に配慮できる。 4. 施術者の基本姿勢に配慮できる。 5. 軽擦法（手掌、指腹、手根、指端）ができる。 | 実習 |
| | 2 | 基本手技②：揉捏法、圧迫法、振せん法 | 1. 揉捏法（把握、母指、二指、四指、手掌、手根）ができる。 2. 圧迫法（母指、手掌、手根、四指）ができる。 3. 振せん法（手掌、指頭、牽引）ができる。 | 実習 |
| | 3 | 基本手技③：叩打法、曲手 | 1. 叩打（拳打、切打、合掌打、拍打）ができる。 2. 曲手（車手、突手、横手、袋打、挫手）ができる。 | 実習 |
| | 4 | 座位按摩法：肩背部の施術① | 1. 受け手の施術時の体位に配慮できる。 2. 施術者の基本姿勢に配慮できる。 3. 安全かつ適切な圧で肩背部の施術ができる。 | 実習 |
| | 5 | 肩背部の施術② | | 実習 |
| | 6 | 肩背部の施術③ | | 実習 |
| | 7 | 上肢の施術① | 1. 受け手の施術時の体位に配慮できる。 2. 施術者の基本姿勢に配慮できる。 3. 安全かつ適切な圧で上肢の施術ができる。 | 実習 |
| | 8 | 上肢の施術② | | 実習 |
| | 9 | 中間実技試験 | 肩背部の按摩、叩打 | 試験 |
| | 10 | 試験フィードバック | | 実習 |
| | 11 | 頸部の按摩① | 1. 受け手の施術時の体位に配慮できる。 2. 施術者の基本姿勢に配慮できる。 3. 安全かつ適切な圧で頸部の施術ができる。 | 実習 |
| | 12 | 頸部の按摩② | | 実習 |
| | 13 | 頸部の按摩 | 1. 受け手の施術時の体位に配慮できる。 2. 施術者の基本姿勢に配慮できる。 3. 安全かつ適切な圧で頸部の施術ができる。 | 実習 |
| | 14 | 側臥位按摩法：肩背腰部の按摩① | 1. 受け手の施術時の体位に配慮できる。 2. 施術者の基本姿勢に配慮できる。 3. 安全かつ適切な圧で肩背腰部の施術ができる。 | 実習 |
| | 15 | 肩背腰部の按摩② | | 実習 |
| | 16 | 頸部の按摩 | 1. 受け手の施術時の体位に配慮できる。 2. 施術者の基本姿勢に配慮できる。 3. 安全かつ適切な圧で頸部の施術ができる。 | 実習 |
| | 17 | 期末実技試験 | 頸部の按摩、叩打、曲手 | 試験 |
| | 18 | 試験フィードバック | | 実習 |
| 後期 | 19 | 上肢の按摩① | 1. 受け手の施術時の体位に配慮できる。 2. 施術者の基本姿勢に配慮できる。 3. 安全かつ適切な圧で上肢の施術ができる。 | 実習 |
| | 20 | 上肢の按摩② | | 実習 |
| | 21 | 殿部の按摩 | 1. 受け手の施術時の体位に配慮できる。 2. 施術者の基本姿勢に配慮できる。 3. 安全かつ適切な圧で殿部の施術ができる。 | 実習 |
| | 22 | 下肢の按摩① | 1. 受け手の施術時の体位に配慮できる。 2. 施術者の基本姿勢に配慮できる。 3. 安全かつ適切な圧で下肢の施術ができる。 | 実習 |
| | 23 | 下肢の按摩② | | 実習 |
| | 24 | 背臥位按摩法：下肢の按摩① | | 実習 |
| | 25 | 下肢の按摩② | | 実習 |
| | 26 | 中間実技試験 | 下肢の按摩、叩打、曲手 | 試験 |
| | 27 | 試験フィードバック | | 実習 |
| | 28 | 腹部の按摩 | 1. 受け手の施術時の体位に配慮できる。 2. 施術者の基本姿勢に配慮できる。 3. 安全かつ適切な圧で腹部の施術ができる。 | 実習 |
| | 29 | 腹臥位按摩法： 肩・肩背及び腰部の按摩① | 1. 受け手の施術時の体位に配慮できる。 2. 施術者の基本姿勢に配慮できる。 3. 安全かつ適切な圧で肩・肩背及び腰部の施術ができる。 | 実習 |
| | 30 | 肩・肩背及び腰部の按摩② | | 実習 |
| | 31 | 全身の按摩① | 1. 受け手の施術時の体位に配慮できる。 2. 施術者の基本姿勢に配慮できる。 3. 安全かつ適切な圧で全身の施術ができる。 4. 指定された時間で施術ができる。 | 実習 |
| | 32 | 全身の按摩② | | 実習 |
| | 33 | 全身の按摩③ | | 実習 |
| | 34 | 全身の按摩④ | | 実習 |
| | 35 | 期末実技試験 | 全身の按摩、叩打、曲手 | 試験 |
| | 36 | 試験フィードバック | | 実習 |

【科目】 基本手技実技Ⅱ 【基本指圧実技】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|---------------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 島田 和樹（実務経験有り） | |
| 単位数 | 2 単位 | | （しまだ かずき） | |
| 開講学期 | 前・後期 | 授業形態・回数 | 実習 | 36 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | 指圧施術において、基本手技、人体各部位毎の押圧操作と運動操作、患者の体位に応じた安全かつ有効な施術方法と自身の体に負担を掛けない姿勢を会得する。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 安全かつ有効な指圧の手技を行うために、人体各部位に合う基本的手技を習得する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|--|
| 教科書 | 1. 指圧・マッサージ・指圧—実技編—；学校法人呉竹学園編 |
| 参考書 | |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、各期末実技試験で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法（評価割合：％） 期末実技試験：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末実技試験の評価が 60%以上で履修とする。【実技認定試験対象科目】この科目は専門分野・実習・基本手技実技Ⅱの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 1. 基本手技を理解・体得し、自身の体に負担を掛けない施術方法を会得することが大切です。 2. 技術はすぐには身につかないので、予習と復習を必ずおこなひましょう。 3. デモンストレーション等、説明をしっかりと聞き、無駄の無いよう、限られた時間内で有効に練習しましょう。 4. 授業は 2 人一組でおこなわれるので、欠席すると自身の修練が足りなくなります。また、相手にも迷惑が掛かります。体調管理をしっかりとおこない、欠席しない身体を作りましょう。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|--|--|------|
| 前期 | 1 | 按マ指の意義：意義と沿革、按マ指の違い 施術上の注意、指圧の基本、体表からのランドマークの確認 | あん摩・指圧・マッサージそれぞれの意義と沿革が概説できる。 押圧操作の基本操作の種類の説明ができる。 指圧に必要な部位とその名称を説明ができる。 | 実習 |
| | 2 | 基本圧法：押圧操作の三原則 | 基本圧法のうち、押圧操作の三原則が言える。 | 実習 |
| | 3 | 基本圧法：通常圧法、緩圧法、持続圧法 | 基本圧法のうち、通常圧法、緩圧法、持続圧法を説明できる。 | 実習 |
| | 4 | 基本圧法：衝圧法、振動圧法、吸圧法 | 基本圧法のうち、衝圧法、振動圧法、吸圧法を説明できる。 | 実習 |
| | 5 | 腹臥位指圧 背部の指圧 1 | 背部の指圧を 2 回に分け、手順の前半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。 | 実習 |
| | 6 | 背部の指圧 2 | 手順の後半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。 | 実習 |
| | 7 | 殿部の指圧 1 | 殿部の指圧の手順を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、患者に不愉快な思いをさせずに押圧操作をできる。 | 実習 |
| | 8 | 下肢の指圧 1 | 下肢の指圧を 3 回に分け、手順の前半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、患者に不愉快な思いをさせずに押圧操作をできる。 | 実習 |
| | 9 | 中間実技試験 | 指定された部位に対する施術をおこない、身体に負担をかけずに適切に押せているか、確認する。 | 試験 |
| | 10 | 試験フィードバック | 試験の結果を個別に伝え、今後の課題として練習に生かすことができる。 | 実習 |
| | 11 | 下肢の指圧 2 | 下肢の指圧を 3 回に分け、手順の中盤を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、患者に不愉快な思いをさせずに押圧操作をできる。 | 実習 |
| | 12 | 下肢の指圧 3 | 下肢の指圧を 3 回に分け、手順の後半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、患者に不愉快な思いをさせずに押圧操作をできる。 | 実習 |
| | 13 | 肩上部・肩背部の指圧 | 肩上部・肩背部の指圧の手順を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。 | 実習 |
| | 14 | 背臥位指圧：下肢の指圧 1 | 下肢の指圧を 3 回に分け、手順の前半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、患者に不愉快な思いをさせずに押圧操作をできる。 | 実習 |
| | 15 | 下肢の指圧 2 | 下肢の指圧を 3 回に分け、手順の中盤を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、患者に不愉快な思いをさせずに押圧操作をできる。 | 実習 |
| | 16 | 下肢の指圧 3 | 下肢の指圧を 3 回に分け、手順の後半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。 | 実習 |
| | 17 | 期末実技試験 | 指定された部位に対する施術をおこない、身体に負担をかけずに適切に押せているか、確認する。 | 実習 |
| | 18 | 試験フィードバック | 試験の結果を個別に伝え、今後の課題として練習に生かすことができる。 | 試験 |
| 後期 | 19 | 背臥位指圧：上肢の指圧 1 | 上肢の指圧を 2 回に分け、手順の前半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。 | 実習 |
| | 20 | 上肢の指圧 2 | 上肢の指圧を 2 回に分け、手順の後半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。 | 実習 |
| | 21 | 頭部・顔面部の指圧 | 頭部・顔面部の指圧の手順を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。 | 実習 |
| | 22 | 胸部の指圧 | 胸部の指圧の手順を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、患者に不愉快な思いをさせずに押圧操作をできる。 | 実習 |

| | | | |
|----|--------------------|--|----|
| 23 | 腹部の指圧 | 腹部の指圧の手順を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、患者に不愉快な思いをさせずに押圧操作をできる。 | 実習 |
| 24 | 側臥位指圧：頭部・頸部・背部の指圧1 | 頭部・頸部・背部の指圧2回に分け、手順の前半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。 | 実習 |
| 25 | 頭部・頸部・背部の指圧2 | 頭部・頸部・背部の指圧2回に分け、手順の後半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。 | 実習 |
| 26 | 中間実技試験 | 指定された部位に対する施術をおこない、身体に負担をかけずに適切に押せているか、確認する。 | 試験 |
| 27 | 試験フィードバック | 試験の結果を個別に伝え、今後の課題として練習に生かすことができる。 | 実習 |
| 28 | 側臥位指圧：殿部・下肢の指圧 | 殿部・下肢の指圧を2回に分け、手順の前半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。 | 実習 |
| 29 | 殿部・下肢の指圧 | 殿部・下肢の指圧を2回に分け、手順の後半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。 | 実習 |
| 30 | 座位指圧：頸部・肩上部の指圧 | 頸部・肩上部の指圧2回に分け、手順の前半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。 | 実習 |
| 31 | 頸部・肩上部の指圧 | 頸部・肩上部の指圧2回に分け、手順の後半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。 | 実習 |
| 32 | 総復習：腹臥位 | 腹臥位の施術について、一連の手順を教科書をみずにおこなえる。 | 実習 |
| 33 | 総復習：背臥位 | 背臥位の施術について、一連の手順を教科書をみずにおこなえる。 | 試験 |
| 34 | 総復習：側臥位 | 側臥位の施術について、一連の手順を教科書をみずにおこなえる。 | 実習 |
| 35 | 期末実技試験 | 指定された部位に対する施術をおこない、身体に負担をかけずに適切に押せているか、確認する。 | 試験 |
| 36 | 試験フィードバック | 試験の結果を個別に伝え、今後の課題として練習に生かすことができる。 | 実習 |

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|------------------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 楽野木 笑巳果 (実務経験有り) | |
| 単位数 | 2 単位 | | (らくのぎ えみか) | |
| 開講学期 | 前・後期 | 授業形態・回数 | 実習 | 36 回 |

【授業情報】

| | |
|---------------|--|
| 授業概要 | マッサージ施術において、基本手技、患者の体位に応じた安全かつ有効な施術方法と自身の体に負担を掛けない姿勢を会得する。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 安全かつ有効なマッサージの手技を行うために、人体各部位に合う基本的手技を習得する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|--|
| 教科書 | 1. 按摩・マッサージ・指圧―実技編―：学校法人呉竹学園編 2. あん摩マッサージ指圧実技：学校協会編 |
| 参考書 | |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、実技試験で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法 (評価割合：%) 期末試験：100% |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験の評価が 60%以上で履修とする。【実技認定試験対象科目】この科目は専門分野・実習・基本手技実技Ⅲの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ) マッサージの手技の基本を理解したうえで、体得することが大切です。施術部位の十分な理解をしてください。授業では、実技の前に講義とデモンストレーションがあるのでノートを取りながら話をよく聞いて、予習→授業→復習のサイクルを守ってください。さらに授業は、講義・実習が組み合わせられ、実習は2人1組にて行われますので、欠席遅刻や早退などは授業内容が理解できなくなるだけでなく、組み合わせの相手にも迷惑をかけることになるので注意してください。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12:45~13:00 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標（SBOs） | 講義形態 |
|----|----|----------------|-------------------------------|------|
| 前期 | 1 | 手技・施術部位の確認 | 手技の内容、施術部位について説明できる。 | 実習 |
| | 2 | 軽擦法・揉捏法 | 姿勢・体重移動・密着の基本動作を行うことができる。 | 実習 |
| | 3 | 上肢のマッサージ（手・手指） | 手部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 4 | 手関節のマッサージ | 手関節部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 5 | 上肢のマッサージ（前腕） | 前腕部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 6 | 上肢のマッサージ（前腕） | | 実習 |
| | 7 | 肘関節のマッサージ | 肘関節部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 8 | 上肢のマッサージ（上腕） | 上腕部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 9 | 中間実技試験 | （前腕部のマッサージ） | 試験 |
| | 10 | 上肢のマッサージ（上腕） | 上腕部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 11 | 肩関節のマッサージ | 肩関節部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 12 | 下肢のマッサージ（足部） | 足部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 13 | 下肢のマッサージ（足部） | | 実習 |
| | 14 | 足関節のマッサージ | 足関節部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 15 | 足関節のマッサージ | | 実習 |
| | 16 | 下肢のマッサージ（下腿） | 下腿部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 17 | 期末試験 | （足関節部のマッサージ） | 試験 |
| | 18 | 試験フィードバック | | 実習 |
| 後期 | 19 | 下肢のマッサージ（下腿） | 下腿部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 20 | 膝関節のマッサージ | 膝関節部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 21 | 下肢のマッサージ（大腿） | 大腿部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 22 | 下肢のマッサージ（大腿） | | 実習 |
| | 23 | 股関節のマッサージ | 股関節部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 24 | 下肢のマッサージ（殿部） | 殿部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 25 | 背部・腰部のマッサージ | 背部・腰部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 26 | 中間実技試験 | （大腿部のマッサージ） | 試験 |
| | 27 | 試験フィードバック | | 実習 |
| | 28 | 背部・腰部のマッサージ | 背部・腰部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 29 | 頸部のマッサージ | 頸部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 30 | 頭部・顔面のマッサージ | 頭部・顔面部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 31 | 胸部のマッサージ | 胸部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 32 | 腹部のマッサージ | 腹部のマッサージを安全かつ有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 33 | 腹部のマッサージ | | 試験 |
| | 34 | 乳房マッサージ | 乳房マッサージの目的を理解し、有効に行うことができる。 | 実習 |
| | 35 | 期末試験 | （腹部のマッサージ） | 試験 |
| | 36 | 試験フィードバック | | 実習 |

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|--|-------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 三浦 洋・西岡 岳之・武井 良之・田中 文枝・ 渋谷 砂恵子（実務経験あり） | |
| 単位数 | 1 単位 | | （みうら ひろし・にしおか たけゆき・ たけい ひろゆき・たなか ふみえ・ しぶや さえこ） | |
| 開講学期 | 通期 | 授業形態・回数 | 臨床実習 | 45 時間 |

【授業情報】

| | |
|--------------------|---|
| 授業概要 | <p>1 年生、2 年生、3 年生合同で行われる「症例検討会」に参加することで、1 年次での授業はもとより、2 年次から 3 年次で行われる実技や実習並びにそのために必要な知識の修得の必要性を理解する。</p> <p>安心安全なはりきゅう施術を行うための根拠となる身体診察の基本的技能を演習にて修得するとともに、2 年次から 3 年次で行われる授業へ繋がることを理解する。</p> <p>学校付属施術所での体験見学では、はりきゅう施術における基本的臨床能力を想起してもらうとともに、教員、施術所スタッフの臨床を見学することで、これから何を学習すべきなのかの理解を深める。</p> |
| 授業の一般目標 (G I O) | <p>はり師・きゅう師を目指す学生としての自覚を深めるために、鍼灸医学を学ぶことへの関心を高める。また、優れた医療人になるため、学生として備えておくべき基本的態度・姿勢や基本的臨床技能を理解し、修得する。</p> |

【担当教員から】

| | |
|--------------|---|
| 教科書 | — |
| 参考書 | — |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを実習への参加及び提出されたレポートと指導者からの評価で総合的に評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法（評価割合：％） <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習への参加：60％ 2. 提出レポート：20％ 3. 指導者の評価：20％ |
| 履修の条件 留意点 | 上記の成績評価を合計して 60％以上で履修とする。この科目は専門分野・臨床実習・臨床実習 I の単位として認定されます。本科目の単位取得のためには、出席が必要です。欠席することはもとより、欠席や遅刻に早退も欠席となりますので、体調管理をしっかり行い、授業の出欠には十分留意してください。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） <ol style="list-style-type: none"> 1. 附属施術所での行動内容の確認や身だしなみのチェックをグループ内で行うこと。 2. 実習終了後は、施術所内での行動等を各自並びにグループとして十分に振り返り、レポートの作成を行い、必ずレポートを提出すること。 3. 全ての臨床実習の出席前に欠席・遅刻となる事象が発生した場合は、事象が判明した時点で直ちに担任・副担任・臨床実習責任者へ連絡すること。 4. 授業の初回と各ガイダンスには必ず参加し、指示に従うこと。 5. 重要掲示板または教室に掲示する「早期臨床体験実習 I 臨床実習日一覧表」を確認して、指定された実習日・集合時間に参加すること。 |
| オフィスアワー | 適宜 3F 教員室を訪ねること。 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標（SBOs） | 講義形態 |
|----|----|--|---|--------------|
| 通期 | | <p>1. 施術所における見学実習</p> <p>1) 小グループによるローテーションとする。</p> <p>2) 指導教員の下で、施術所一般患者の施術を観察する。また、施術前後の付帯業務の補助、状況によっては施術補助を行う。</p> <p>3) 自己評価及び体験レポートを提出する。</p> <p>2. 症例検討会</p> <p>1) 3年生が臨床実習で作成した症例報告を発表する1年生、2年生、3年生合同の症例検討会に参加する。</p> <p>3. 身体診察演習</p> <p>1) バイタルサインの測定</p> <p>2) 胸部と腹部の診察</p> <p>3) 神経系の診察</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療人にふさわしい身だしなみを示すことができる。 ・ 患者、施術所スタッフ、研修生、指導者に対して、適切に挨拶と自己紹介ができる。 ・ 施術所スタッフ、研修生、指導者の指示に従い適切に行動できる。 ・ 付属施術所内での態度について事前に自己目標を立て、自己課題に気づきレポートを記録することができる。 ・ 2年次から3年次までの授業（座学、実技、演習、実習）の今後の流れと繋がりを理解して、今後の授業の意義と目的を理解し、目標を持った上での行動ができる。 | 臨床実習 又は演習 |

【基本情報】

| | | | | |
|------|-------|---------|--------------------------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員 | 稲葉 千里 (いなば ちさと) (実務経験あり) | |
| 単位数 | 2 単位 | | 相田 典子 (あいだ のりこ) (実務経験あり) | |
| 開講学期 | 2・3 期 | 授業形態・回数 | 講義、演習 | 24 回 |

【授業情報】

| | |
|---------------|--|
| 授業概要 | <p>鍼灸臨床の現場において、医療の専門性を発揮し、患者に適切な医療を行うためには、患者とのコミュニケーションは欠かすことができない。また、他の医療従事者と連携をして、患者の施術にあたるのが求められるが、コミュニケーションは連携のための重要な手段の1つである。授業では、患者や医療従事者とコミュニケーションをとるために必要なことを学んでいく。</p> <p>また、あはき師としてEBMに基づく臨床を行うためやチーム医療の一翼を担うことが出来るようになるために、グループワークによるあはき研究を通じて、医療人としてのリテラシーと論理的思考 (logical thinking) や批判的思考 (critical thinking) について学んでいく。</p> |
| 授業の一般目標 (GIO) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の人間関係を良好に保つ能力を身につけるために、自己理解を深め、コミュニケーションの知識と技法を修得する。 2. 医療の現場において様々な患者に接し対応するためには、患者の心理状態を理解し、思いやりのある心と態度が必要である。患者との様々な場面を想定し、患者への対応に必要なコミュニケーション技法の習得を目指す。 3. 医療人としてのリテラシーについて、あはき研究を通じて学習する。 4. 論理的思考 (logical thinking)、批判的思考 (critical thinking) を身に付け、医療人として、職業人としての態度を身に付ける。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|--|
| 教科書 | |
| 参考書 | <p>「はじめての医療面接・コミュニケーション技法とその学び方」 「鍼灸臨床における医療面接」 「医療者のためのコミュニケーション入門」</p> <p>『臨床研究の道標』 『リサーチ・クエッションの作り方』</p> |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、提出物、プレゼンテーションの内容、授業に対する参加意欲等を総合的に評価する。 |
| 成績評価方法 | <p>成績評価の算定方法 (評価割合: %)</p> <p>提出物、プレゼンテーションの内容、授業に対する参加意欲を総合的に判断する</p> |
| 履修の条件 留意点 | <p>提出物、プレゼンテーションの内容、授業に対する参加意欲を合計して60%以上で履修とする。この科目は専門分野 総合領域・臨床総合講座 I ・医療コミュニケーション学の単位として認定されます。</p> |
| 担当教員 | <p>★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全員参加型の授業にしたいので、何より積極性が必要になります。 2. 良好なコミュニケーションは医療の現場だけではなく、日常生活をより豊かなもの にすることが出来ますので、十分に理解を深めて下さい。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12:45~13:00 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|----------------------------|--|-------|
| 2期 | 1 | 医療コミュニケーション① | KJ法を用いて鍼灸師に必要な資質を理解することができる。 | 講義・演習 |
| | 2 | 医療コミュニケーション② | コミュニケーションの定義を理解することができる。 | 講義・演習 |
| | 3 | 医療コミュニケーション③ | 伝達図形のゲームを通して one way と two way コミュニケーションの違いを理解することができる。 | 講義・演習 |
| | 4 | コミュニケーションスキル① | エクササイズを通して自分を理解することとジョハリの窓を理解することができる。 | 講義・演習 |
| | 5 | コミュニケーションスキル② | コミュニケーションにおける聴くことの重要性を理解できる。 | 講義・演習 |
| | 6 | コミュニケーションスキル③ | 医療面接における傾聴の重要性を理解できる。 | 講義・演習 |
| | 7 | コミュニケーションスキル④ | 医療面接におけるうなずき、あいづちの技法を行える。 | 講義・演習 |
| | 8 | コミュニケーションスキル⑤ | 医療面接における繰り返しの技法を行える。 | 講義・演習 |
| | 9 | スピーチ① (頑張った証) | パブリックスピーキングを行える。 | 演習 |
| | 10 | スピーチ② (頑張った証) | | 演習 |
| | 11 | 医療面接① | ロールプレイを通して医療面接の技法を理解できる。 | 講義・演習 |
| | 12 | 医療面接② | | 講義・演習 |
| 3期 | 13 | 医療面接③ | | 講義・演習 |
| | 14 | 医療面接④ | | 講義・演習 |
| | 15 | 研究とは？臨床との関係性は？ | 臨床、症例報告、症例集積、観察研究、介入研究のステップと違いについてを理解して、臨床との関係性について説明できる。 | 演習 |
| | 16 | 臨床研究のPECOとPICOについて | 臨床研究に必要なリテラシーや批判的思考について理解して、PECOとPICOについて説明できる。PECOまたはPICOを作ることができる(CQからRQへ)。 | 講義・演習 |
| | 17 | 疑問を揉んでみる(グループ分かれて小発表と意見交換) | 客観的な意見の下、論理的、批判的に更にRQを考察してみる。また、グループワークを通じて、チームワークの重要性を認識できる。 | 講義・演習 |
| | 18 | 研究デザインに求められる要件 | 実施可能性・切実な問題、測定可能、倫理的について検討できる。 | 講義・演習 |
| | 19 | 論文検索法(先人に学ぶ) | 自身の疑問に関する論文を検索して自身のデザインと比較して、分かっていることと分かっていないことを明確にすることができる。 | 講義・演習 |
| | 20 | 測定方法 | アウトカム(変数)の測定方法(尺度)について、各種質問票や評価表および学内にある計器(発熱測定器・サーモグラフィ・深部体温計・基礎体温計など)を試用するなどして理解した上で検討できる。 | 講義・演習 |
| | 21 | 疑問の構造化 | 先行研究、測定方法も加え、より具体的なRQを考察できる。 | 講義・演習 |
| | 22 | 疑問の構造化 | 先行研究、測定方法も加え、より具体的なRQを考察できる。 | 講義・演習 |
| | 23 | 呉竹医学会のあはき研究デザイン案の発表及び検討 | 呉竹医学会で発表する研究デザインを案し、クラス全体で再度検討することができる。 | 講義・演習 |
| | 24 | 呉竹医学会のあはき研究デザイン案の発表及び検討 | 呉竹医学会で発表する研究デザインを案し、クラス全体で再度検討することができる。 | 講義・演習 |

【科目】 総合基礎Ⅱ 【総合基礎Ⅱ（医用英語Ⅰ）】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|-----------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員 | 平良 達夫 | |
| 単位数 | 2 単位 | | (たいら たつお) | |
| 開講学期 | 前期 | 授業形態・回数 | 講義 | 15 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | 初歩的なオーラル英語から始めて、教科書の内容を材料に外国人の患者とコミュニケーションがとれるようリスニング、スピーキングの訓練をする。 時折英語の文献にも触れ、高度な英文に接する機会も維持する。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 医療の現場でも英語を使って仕事ができることを目指す。また、医療に関する最新の新聞記事などを独力で読める力を伸ばす。 |

【担当教員から】

| | |
|---|---|
| 教科書 | |
| 参考書 | |
| 成績評価基準 | 期末試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準 (評価割合(%)) 期末試験-----95% 課題等-----5% (課題等を行った場合の加算割合) |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。 この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・医用英語Ⅰの単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容 知っている英単語でも、ナチュラルスピードで話されると耳でキャッチできないことが多い。そのため、普段からできるだけ英語を聞いて理解する訓練をしてほしい。 また、授業で扱う医療に関する英語の語彙はすべて聞き取れてさらに使えるよう練習してほしい。 |
|  | |
| オフィスアワー | 授業開講日の12:45~13:00 3F教員室 |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|-----------------------|--|-------|
| 前期 | 1 | 英語の4技能の基本的な確認、演習 1 | <p>オーラル英語を聞き取る上での基本を学び、専門に関わる英語を聞いて理解し、さらには使えることを目指す。また、専門に関わる語彙、表現を読んで理解できるようにする。</p> | 講義 |
| | 2 | 英語の4技能の基本的な確認、演習 2 | | 講義 |
| | 3 | 英語の4技能の基本的な確認、演習 3 | | 講義 |
| | 4 | 英語の4技能の基本的な確認、演習 4 | | 講義 |
| | 5 | 各部の名称から始まる施術の前段階の英語 1 | | 講義 |
| | 6 | 各部の名称から始まる施術の前段階の英語 2 | | 講義 |
| | 7 | 各部の名称から始まる施術の前段階の英語 3 | | 講義 |
| | 8 | 各部の名称から始まる施術の前段階の英語 4 | | 講義 |
| | 9 | 具体的な症状についての英語による対応 1 | | 講義 |
| | 10 | 具体的な症状についての英語による対応 2 | | 講義 |
| | 11 | 具体的な症状についての英語による対応 3 | | 講義 |
| | 12 | 具体的な症状についての英語による対応 4 | | 講義 |
| | 13 | 具体的な症状についての英語による対応 5 | | 講義 |
| | 14 | 期末試験 | | 講義/試験 |
| | 15 | 前期試験の解説、復習 | | 講義 |

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|-----------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員 | 平良 達夫 | |
| 単位数 | 2 単位 | | (たいら たつお) | |
| 開講学期 | 後期 | 授業形態・回数 | 講義 | 15 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | 教科書の内容を材料に外国人の患者とコミュニケーションがとれるようリスニング、スピーキングの訓練をする。 時折英語の文献にも触れ、高度な英文に接する機会も維持する。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 医療の現場でも英語を使って仕事ができることを目指す。また、医療に関する最新の新聞記事などを独力で読める力を伸ばす。 |

【担当教員から】

| | |
|---|---|
| 教科書 | |
| 参考書 | |
| 成績評価基準 | 期末試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準(評価割合(%)) 期末試験-----95% 課題等-----5%(課題等を行った場合の加算割合) |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。 この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・医用英語Ⅱの単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容 知っている英単語でも、ナチュラルスピードで話されると耳でキャッチできないことが多い。そのため、普段からできるだけ英語を聞いて理解する訓練をしてほしい。 また、授業で扱う医療に関する英語の語彙はすべて聞き取れてさらに使えるよう練習してほしい。 |
|  | |
| オフィスアワー | 授業開講日の12:45~13:00 3F教員室 |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|----------------------|--|-------|
| 前期 | 1 | 具体的な症状についてのオーラル演習 1 | <p>専門に関わる英語を聞いて理解し、さらには使えることを目指す。また、専門に関わる語彙、表現を読んで理解できるようにする。</p> | 講義 |
| | 2 | 具体的な症状についてのオーラル演習 2 | | 講義 |
| | 3 | 具体的な症状についてのオーラル演習 3 | | 講義 |
| | 4 | 具体的な症状についてのオーラル演習 4 | | 講義 |
| | 5 | 具体的な症状についてのオーラル演習 5 | | 講義 |
| | 6 | 具体的な症状についてのオーラル演習 6 | | 講義 |
| | 7 | 具体的な症状についてのオーラル演習 7 | | 講義 |
| | 8 | 具体的な症状についてのオーラル演習 8 | | 講義 |
| | 9 | 具体的な症状についてのオーラル演習 9 | | 講義 |
| | 10 | 具体的な症状についてのオーラル演習 10 | | 講義 |
| | 11 | 具体的な症状についてのオーラル演習 11 | | 講義 |
| | 12 | 具体的な症状についてのオーラル演習 12 | | 講義 |
| | 13 | 具体的な症状についてのオーラル演習 13 | | 講義 |
| | 14 | 期末試験 | | 講義/試験 |
| | 15 | 後期試験の解説、復習 | | 講義 |

【科目】 総合基礎Ⅱ 【総合基礎Ⅱ（化学Ⅰ）】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|------------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員 | 根岸 秀幸 | |
| 単位数 | 2 単位 | | (ねぎし ひでゆき) | |
| 開講学期 | 前期 | 授業形態・回数 | 講義 | 15 回 |

【授業情報】

| | |
|---------------|--|
| 授業概要 | 元素名と元素記号、さらに化学式を学び、物質の構造、状態変化・化学変化と物理変化の相違を説明できるように展開していく。また、生理学に結びつける事を念頭におき、酸性・アルカリ性と pH や無機化合物と有機化合物の相違も講義に取り入れて行く。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | まず、物質の性質やいろいろな反応などについての基礎的な化学知識を身につける。そして、専門基礎分野並びに専門分野へ繋がる幅広い知識を修得する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|--|
| 教科書 | |
| 参考書 | 改訂版 視覚でとらえる「フォトサイエンス 化学図録」数研出版編集部 編著 |
| 成績評価基準 | <p>期末試験：シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。</p> <p>課題（レポート・小テスト等）：レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。</p> |
| 成績評価方法 | <p>成績評価の基準（評価割合（%））</p> <p>期末試験：100%</p> <p>※課題等がある学期には評価に加算する。</p> |
| 履修の条件 留意点 | <p>期末試験、課題の評価を合計して 60%以上で履修とする。この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・化学の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の 70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。</p> |
| 担当教員 | <p>★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）</p> <p>授業後は復習の習慣をつけることが大事であります。予習→授業→復習のサイクルを守るように。分らない事をそのままにしないで、きちんと学習して、基礎的な知識を身につけましょう。</p> |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12:45~13:00 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|----------------------------|------------------------|----------------------|
| 前期 | 1 | サイエンスと化学(数値精度,単位) | 元素名と元素記号、さらに化学式を記述できる。 | 講義 |
| | 2 | 元素・原子・分子(原子の構造) | | 講義 |
| | 3 | 物質の構成と化学結合(物質の構成,化学結合) | 物質の構成や構造を説明できる。 | 講義 |
| | 4 | 物質の状態(1)(状態の定義) | 物質の状態変化を説明できる。 | 講義 |
| | 5 | 物質の状態(2)(気体,液体,固体) | | 講義 |
| | 6 | 溶液の化学(1)(溶液の定義,濃度) | 化学変化と物理変化の相違を説明できる。 | 講義 |
| | 7 | 溶液の化学(2)(溶液の性質) | | 講義 |
| | 8 | コロイド化学(1)(コロイド溶液の定義) | | 講義 |
| | 9 | コロイド化学(2)(コロイド溶液の性質) | | 講義 |
| | 10 | 酸と塩基(1)(酸と塩基の定義) | | 酸性・アルカリ性と pH を説明できる。 |
| | 11 | 酸と塩基(2)(pH の定義,中和反応) | 講義 | |
| | 12 | 酸と塩基(3)(緩衝溶液) | 講義 | |
| | 13 | 酸化と還元(酸化還元反応の定義) | 講義 | |
| | 14 | 有機化学(有機化合物とは何か) | 無機・有機化合物の相違を説明できる。 | 講義 |
| | 15 | 高分子化学(高分子化合物とは何か)・ 期末試験 | | 講義/試験 |

【科目】臨床医学 I 【臨床医学総論】

【基本情報】

| | | | | |
|------|--------|---------|------------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員 | 池崎 園江 | |
| 単位数 | 2 単位 | | (いけざき そのえ) | |
| 開講学期 | 2~3 学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 24 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--------------------------------------|
| 授業概要 | 臨床に必要な診察および治療に関する医学知識ならびに技能の概要を理解する。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 臨床医学総論の概要を理解する。 診察の方法と応用を概説できる。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|---|
| 教科書 | 1. 『臨床医学総論』 学校協会編 |
| 参考書 | 1. 『臨床医学各論』 学校協会編 2. 『リハビリテーション医学』 学校協会編 |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法 (評価割合 : %) 期末 (到達目標達成確認) 試験 (年度末試験含む) : 100% |
| 履修の条件 留意点 | 期末 (到達目標達成確認) 試験を合計して 60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進・臨床医学 I の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ) 1. 解剖学、生理学を理解していることを前提に授業を行います。各器官の名称および生理機能を復習しておいて下さい。 2. 復習が大事です。関連する他の科目と関連付けて理解します。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12 : 45~13 : 00 3 F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|----------------|------------------------|-------|
| 2期 | 1 | 診察の概要・医療面接(問診) | 診察の概要、問診についての概要が説明できる。 | 講義 |
| | 2 | 身体診察の方法 | 身体診察についての概説が説明できる。 | 講義 |
| | 3 | 生命徴候 | 生命徴候についての概説が説明できる。 | 講義 |
| | 4 | 生命徴候 | | 講義 |
| | 5 | 全身の診察 | 全身の診察についての概要が説明できる。 | 講義 |
| | 6 | 全身の診察 | | 講義 |
| | 7 | 全身の診察 | | 講義 |
| | 8 | 全身の診察 | | 講義 |
| | 9 | まとめ | 2学期期末試験に向けて復習 | 講義・演習 |
| | 10 | 期末(到達目標達成確認)試験 | | 試験 |
| | 11 | 期末試験の解説・解答 | | 講義 |
| | 12 | まとめ | 2学期範囲の復習 | 講義・演習 |
| 3期 | 13 | 感覚検査法 | 感覚検査についての概要が説明できる。 | 講義 |
| | 14 | 反射検査 | 反射についての概要が説明できる。 | 講義 |
| | 15 | 反射検査 | | 講義 |
| | 16 | 脳神経の検査 | 脳神経の検査についての概要が説明できる。 | 講義 |
| | 17 | 脳神経の検査 | | 講義 |
| | 18 | 運動機能検査 | 運動機能検査についての概要が説明できる。 | 講義 |
| | 19 | 運動機能検査 | | 講義 |
| | 20 | まとめ | 3学期期末試験に向けて復習 | 講義・演習 |
| | 21 | 期末(到達目標達成確認)試験 | | 試験 |
| | 22 | 期末試験の解説・解答 | | 講義 |
| | 23 | 全範囲まとめ | 年度末試験に向けて全範囲の復習 | 講義・演習 |
| | 24 | 全範囲まとめ | | 講義・演習 |
| | 25 | 年度末試験 | | 試験 |

【基本情報】

| | | | | |
|------|--------|---------|-----------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員 | 福本 彩季 | |
| 単位数 | 2 単位 | | (ふくもと あき) | |
| 開講学期 | 2~3 学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 24 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|---|
| 授業概要 | リハビリテーションは運動機能、日常生活活動の能力の障害を回復させ、社会・環境への適応を促進するために必要な第4の医学と呼ばれる。ここでは、リハビリテーション医学を理解し、障害と障害者への対応の概念を学ぶ。また、日本は4人に1人が高齢者となる超高齢社会を迎える。厚生労働省は2025年を目途に高齢者の尊厳の保持と自立生活支援の目的の元、地域包括ケアシステムの構築を推進しており、疾病予防と健康増進を目的にリハビリテーションの必要性は増し、さらに在宅医療推進の流れの中、あらゆる疾患経過時期における対応においてその重要性は高まっていることから、地域包括ケアシステムの構成要因としての、あはき師の役割を見据え、介護予防の分野における機能運動訓練を実践する。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 障害を理解し、リハビリテーションの各時期に応じた対応を学ぶと共に、あはき施術・介護分野・リハビリテーションにおける臨床・福祉の現場で活用できる、障害評価手法を学び実践をする。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------------|--|
| 教科書 | 1. 『リハビリテーション医学』学校協会編 |
| 参考書 | 1. 『標準リハビリテーション医学』医学書院 2. 『理学療法ハンドブック』協同医書出版社 3. 『障害と活動の測定・評価ハンドブック』南江堂 |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験を総合的に評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準と算定方法 (評価割合: %) 期末試験 (年度末試験含む) : 100% |
| 担当教員からの履修に当たっての留意点 | 期末試験の評価を合計して60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進・疾病治療論 I・リハビリテーション医学概論 Iの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ) 1. HRにて教科書や配布プリント等を用いて、講義形式で行います。 2. 授業ではノートを取ったり、プリントに記入したりしながら、話をよく聴いてください。 3. 授業中は机の上に飲み物や食べ物を置かないでください。 4. 携帯電話の電源は切ってください。どうしても携帯電話の使用が必要な場合は申し出てください。 5. 欠席した場合の配付資料はクラスメートにもらってもらおうか、次の授業までに教員室にもらいに来てください。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の12:45~13:00 3F教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標（SBOs） | 講義形態 |
|----|----|-------------------------------|---|------|
| 2期 | 1 | リハビリテーションと障害 | リハビリテーションと障害を説明出来る。 | 講義 |
| | 2 | リハビリテーション医学と医療 | リハビリテーションと医学と医療を説明出来る。 | 講義 |
| | 3 | リハビリテーション医学と医療 | リハビリテーションと医学と医療を説明出来る。 | 講義 |
| | 4 | 障害の評価 | 四肢長と周径、関節可動域測定法を説明できる。 | 講義 |
| | 5 | 障害の評価 | 徒手筋力テスト、粗大運動、運動の協調性のテストを説明できる。 | 講義 |
| | 6 | 障害の評価 | 四肢長と周径、関節可動域測定法、徒手筋力テストを実践できる。 | 実習 |
| | 7 | 障害の評価 | 活動の評価（ADLの評価）を説明出来る。 | 講義 |
| | 8 | 障害の評価 | 参加の評価、合併症の評価を説明できる。 | 講義 |
| | 9 | 障害の評価 | 運動麻痺の評価、運動年齢テストを説明出来る。 | 講義 |
| | 10 | 障害の評価 | 失行失認、心理的評価を説明出来る。 | 講義 |
| | 11 | 期末試験 | | 試験 |
| | 12 | 期末試験の解説・解答 まとめ | | 講義 |
| 3期 | 13 | 医学的リハビリテーション | 理学療法（運動療法）を説明できる。 | 講義 |
| | 14 | 医学的リハビリテーション | 理学療法（運動療法）を説明できる。 | 講義 |
| | 15 | 医学的リハビリテーション | 理学療法（物理療法）、作業療法、言語聴覚療法を説明できる。 | 講義 |
| | 16 | 医学的リハビリテーション 各疾患のリハビリテーション | ・装具療法、リハビリテーション看護、ソーシャルワーク、リハビリテーション工学が説明できる。 ・末梢神経のリハビリテーションが説明できる。 | 講義 |
| | 17 | 医学的リハビリテーション | 杖・松葉杖歩行、車椅子操作訓練を実践できる。 | 実習 |
| | 18 | 各疾患のリハビリテーション | 骨関節疾患のリハビリテーションを説明できる。 | 講義 |
| | 19 | 各疾患のリハビリテーション | 骨関節疾患のリハビリテーションを説明できる。 | 講義 |
| | 20 | 各疾患のリハビリテーション | 関節リウマチのリハビリテーションが説明できる。 | 講義 |
| | 21 | 障害の評価 | 姿勢とその異常、正常歩行を説明出来る。 | 講義 |
| | 22 | 障害の評価 | 異常歩行を説明出来る。 | 講義 |
| | 23 | 期末試験 | | 試験 |
| | 24 | 期末試験の解説・解答 まとめ | | 講義 |
| | 25 | 年度末試験 | | 試験 |

【科目】保健と医療Ⅱ 【医療概論】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|-----------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員 | 稲葉 千里 | |
| 単位数 | 1 単位 | | (いなば ちさと) | |
| 開講学期 | 1 期 | 授業形態・回数 | 講義 | 12 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|---|
| 授業概要 | <p>国民が医療施設で医療を受けた際、医療費の負担が軽減される医療保険制度をわが国は敷いている。残念ながら、あん摩マッサージ指圧、鍼灸（以下、あはき）の治療費はこの対象ではない。但し、現在は腰痛や五十肩などの限られた疾患に関しての鍼灸の治療費が保険適応される（医療保険療養費支給申請ができる）制度がある。この授業ではわが国の医療保険制度や療養費の支給申請のための具体的方法を学ぶ。また、昨今一般的に知られるようになった代替医療や統合医療はどういうものなのか、その中におけるあはきの位置づけや役割、他の手法との違いを学んでいく。</p> |
| 授業の一般目標 (GIO) | <p>免許を与えられて施術を行う責任感を持ち、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師として医療保険療養費支給申請の手続きをとれるように、わが国の社会保障制度について理解する。</p> <p>良質な医療連携を担えるようにあはき師としてどうあるべきかを考察するために、医療倫理について理解する。</p> |

【担当教員から】

| | |
|---|--|
| 教科書 | <ol style="list-style-type: none"> 「衛生学・公衆衛生学」第2版；東洋療法学校協会編, 医歯薬出版(株) 「社会あはき学」；東洋療法学校協会編, 医歯薬出版(株) |
| 参考書 | <ol style="list-style-type: none"> 「医療概論」；東洋療法学校協会編, 医歯薬出版(株) 「国民衛生の動向」；厚生労働統計協会 「療養費の支給基準」；社会保険研究所 「公衆衛生がみえる」；メディックメディア |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準と算定方法（評価割合：％） 期末試験（年度末試験含む）：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験の評価60％以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの理念・保健と医療Ⅱ・医療概論の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | <p>★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）</p> <ol style="list-style-type: none"> HRにて教科書や配布プリント等を用いて、講義形式で行います。 授業ではノートを取ったり、プリントに記入しながら、話をよく聴いてください。 |
|  | |
| オフィスアワー | 授業開講日の12:45～13:00 3F教員室 |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|-------|---------------|--|---|
| 1期 | 1 | わが国の社会保障制度 | わが国の社会保障制度を概説できる。 | 講義 |
| | 2 | わが国の医療保障制度① | 医療保険の種類を挙げ、説明できる。 公費医療について説明できる。 医療費の支払いについて概説できる。 あはきの療養費の取り扱いについて概説できる。 | 講義 |
| | 3 | わが国の医療保障制度② | | 講義 |
| | 4 | わが国の医療保障制度③ | | 講義 |
| | 5 | わが国の医療保障制度④ | | 講義 |
| | 6 | 国民医療費 | | 国民医療費について説明できる。 国民医療費増大の原因と対策を説明できる。 |
| | 7 | わが国の介護保険制度① | わが国の介護保険制度について概説できる。 | 講義 |
| | 8 | わが国の介護保険制度② | | 講義 |
| | 9 | 医療に携わる者としての倫理 | ヒポクラテスの誓い等、医療に携わる者としての倫理を理解できる。 患者の権利の宣言等、患者と医療に携わる者としての倫理を理解できる。 | 講義 |
| | 10 | 医療と社会の倫理 | 医療と社会の倫理を理解できる。 | 講義 |
| | 11 | 期末試験 | | 試験 |
| | 12 | 期末試験の解説・解答まとめ | | 講義 |
| 13 | 年度末試験 | | 試験 | |

【科目】 東洋医学Ⅲ 【東洋医学概論Ⅱ】

【基本情報】

| | | | | |
|------|--------|---------|-----------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員 | 小熊 勇人 | |
| 単位数 | 3 単位 | | (おぐま はやと) | |
| 開講学期 | 1～3 学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 36 回 |

【授業情報】

| | |
|-----------------|---|
| 授業概要 | 東洋医学の診断法である四診を理解し、四診から得られる情報を基に証を決定する。さらに、証に応じた治療法、治療穴について学ぶ。また、様々な刺法の特徴についても学んでいく。 |
| 授業の一般目標 (G I O) | 東洋医学による診断、治療ができるようになるために、東洋医学における人体の構造機能の基礎知識の概要を理解する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|--|
| 教科書 | 1. 新版 東洋医学概論；東洋療法学校協会編 |
| 参考書 | |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準（評価割合：％） 期末試験（年度末試験含む）：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験の評価 60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・基礎はり学、基礎きゆう学・東洋医学Ⅲの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 1. 東洋医学の考え方による治療に結びつく所であるため、授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれる。 2. 授業では、ノートをとるだけでなく、話をよく聞くこと。 3. 東洋医学には独特の考え方があるので、現代医学理論にこだわらないこと。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----------------|---|--|------|
| 1期 | 1 | 弁証① 1) 八綱弁証 | 1. 八綱弁証について説明できる。 | 講義 |
| | 2 | 望診① (神・色・形・態、舌診) | 1. 神・色・形・態について説明できる。 2. 舌診について説明できる。 | 講義 |
| | 3 | 望診② (舌診) | 1. 特徴的な舌と証について説明できる。 | 講義 |
| | 4 | 聞診 (声診・五音・五声・呼吸・発語・異常音・気味) | 1. 聞診について説明できる。 2. 特徴的な症状と証について説明できる。 | 講義 |
| | 5 | 問診① (問診の進め方・主訴・基本的問診事項) | 1. 問診について説明できる。 2. 寒熱と証について説明できる。 3. 飲食と証について説明できる。 | 講義 |
| | 6 | 問診② (基本的問診事項) | 4. 睡眠と証について説明できる。 5. 二便と証について説明できる。 6. 情志と証について説明できる。 | 講義 |
| | 7 | 問診③ (その他の問診事項) | 7. 生活環境と証について説明できる。 8. 身体各部位の症状と証について説明できる。 9. 汗と証について説明できる。 | 講義 |
| | 8 | 問診④ (その他の問診事項) | 10. 疼痛と証について説明できる。 11. 女性の症状と証について説明できる。 | 講義 |
| | 9 | 切診① (反応・腹診・切経・経穴診) | 1. 切診について説明できる。 2. 特徴的な症状と証について説明できる。 | 講義 |
| | 10 | 切診② (脈診・四診合参) | 1. 脈診について説明できる。 2. 特徴的な脈と証について説明できる。 | 講義 |
| | 11 | 期末試験 | | 試験 |
| | 12 | 期末試験の解説・解答 まとめ | | 講義 |
| 2期 | 13 | 弁証② 2) 気血津液弁証① | 1. 気の病証について説明できる。 2. 血の病証について説明できる。 3. 津液の病証について説明できる。 | 講義 |
| | 14 | 弁証③ 2) 気血津液弁証② | 4. 精の病証について説明できる。 5. 陰の病証について説明できる。 6. 陽の病証について説明できる。 | 講義 |
| | 15 | 弁証④ 2) 気血津液弁証③ | 7. 複合的な病証について説明できる。 | 講義 |
| | 16 | 弁証⑤ 2) 気血津液弁証④ | | 講義 |
| | 17 | 弁証⑥ 3) 臓腑弁証① | 1. 肝・胆の病証について説明できる。 | 講義 |
| | 18 | 弁証⑦ 3) 臓腑弁証② | 2. 心・小腸の病証について説明できる。 | 講義 |
| | 19 | 弁証⑧ 3) 臓腑弁証③ | 3. 脾・胃の病証について説明できる。 | 講義 |
| | 20 | 弁証⑨ 3) 臓腑弁証④ | 4. 肺・大腸の病証について説明できる。 | 講義 |
| | 21 | 弁証⑩ 3) 臓腑弁証⑤ | 5. 腎・膀胱の病証について説明できる。 | 講義 |
| | 22 | 弁証⑪ 3) 臓腑弁証⑥ | 6. 五臓の複合病証について説明できる。 | 講義 |
| | 23 | 期末試験 | | 試験 |
| | 24 | 期末試験の解説・解答 まとめ | | 講義 |
| 3期 | 25 | 弁証⑫ 3) 臓腑弁証⑦ | | 講義 |
| | 26 | 弁証⑬ 3) 臓腑弁証⑧ | 1. 五臓の複合病証について説明できる。 | 講義 |
| | 27 | 弁証⑭ 3) 臓腑弁証⑨ | | 講義 |
| | 28 | 弁証⑮ 4) 経絡弁証 | 1. 十二経脈の病証について説明できる。 | 講義 |
| | 29 | 弁証⑯ 5) 六淫弁証・6) 六経弁証 7) 衛気営血弁証・8) 三焦弁証・標本と主客 | 1. 六淫弁証について説明できる。 2. 六経弁証について説明できる。 3. 衛気営血弁証について説明できる。 4. 三焦弁証について説明できる。 5. 標本と主客について説明できる。 | 講義 |
| | 30 | 論治① (治則・治法) | 1. 医療人の心得について説明できる。 | 講義 |
| | 31 | 論治② (治則・治法) | 2. 治療原則について説明できる。 3. 治法について説明できる。 | 講義 |
| | 32 | 論治③ (治療法の概要) | 1. 治療法の概要について説明できる。 2. 補瀉法について説明できる。 | 講義 |
| | 33 | 論治④ (治療法の概要) | 1. 選穴の原則について説明できる。 2. 古代刺法について説明できる。 | 講義 |
| | 34 | まとめ | | 講義 |
| | 35 | 期末試験 | | 試験 |
| 36 | 期末試験の解説・解答 まとめ | | 講義 | |
| | 37 | 年度末試験 | | 試験 |

【科目】東洋医学Ⅳ【経絡経穴概論Ⅱ】

【基本情報】

| | | | | |
|------|-------|---------|-----------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員 | 黒田 達夫 | |
| 単位数 | 2 単位 | | (くるだ たつお) | |
| 開講学期 | 1～2 期 | 授業形態・回数 | 講義 | 24 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|---|
| 授業概要 | あはき師において臨床では経穴を取穴出来ることは必須である。1 年次には取穴に必要な経絡経穴の種類や名前、部位を学んだが、ここでは、さらに確実に取穴をするために人体の骨、筋肉、神経、血管などの場所を正確に覚える。また、特によく使われる要穴や奇穴を名前や部位を覚え、臨床に必要な経絡経穴の知識を学んでいく。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 人体各部の経穴を教科書に記載された通りに取穴するために、筋、神経、血管の場所を理解し、実際の取穴法を修得する。 |

【担当教員から】

| | |
|---|---|
| 教科書 | 1. 新版 経絡経穴概論；東洋療法学校協会編（医道の日本社） |
| 参考書 | 1. WHO 経穴部位日本語公式版 2. 東洋医学概論；東洋療法学校協会編（医道の日本社） |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準（評価割合：％） 1. 期末試験（年度末試験含む）：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験 60％以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・基礎あん摩マッサージ指圧学、基礎はり学、基礎きゆう学・東洋医学Ⅳの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） |
|  | 1. 治療を行うための最も基本的なものであるため、積極的な学習姿勢が望まれます。 2. 経穴の概要、経穴名、取穴部位、解剖学的知識の理解が必要になります。既習科目の理解を深めておくことが大切です。 3. 欠席、遅刻、早退などは授業内容が理解できなくなります。授業の出欠には十分留意してください。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3F 教員室 |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|-------------------------------------|--|------|
| 1期 | 1 | 奇穴の部位と主治 | 奇穴の主治、部位を説明できる。 | 講義 |
| | 2 | 奇穴の部位と主治組合せ穴 | 奇穴の主治、部位を説明できる。 組合せを概説できる。 | 講義 |
| | 3 | 五要穴の概要と部位 | 五要穴の意味を説明できる。 五要穴に属する経穴とその部位を説明できる。 | 講義 |
| | 4 | 五俞穴の概要と部位 | 五俞穴の意味を説明できる。 五俞穴に属する経穴とその部位を説明できる。 | 講義 |
| | 5 | 八会穴の概要と部位 四総穴の概要と部位 八総穴の概要と部位 | 八会穴・四総穴・八総穴の意味を説明できる。 八会穴・四総穴・八総穴に属する経穴とその部位を説明できる。 | 講義 |
| | 6 | 奇経八脈の概要と流注、所属経穴について | 奇経八脈の概要と流注、所属経穴について説明できる。 | 講義 |
| | 7 | 経絡経穴の現代的研究 | 経絡・経穴の現代的研究を説明できる。 | 講義 |
| | 8 | 上腕陰経、陽経の経穴の部位と取穴法、解剖について | 上腕陰経、陽経の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。 | 講義 |
| | 9 | 前腕陰経の経穴の部位と取穴法、解剖について | 前腕陰経の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。 | 講義 |
| | 10 | 前腕陽経の経穴の部位と取穴法、解剖について | 前腕陽経の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。 | 講義 |
| | 11 | 期末試験 | | 試験 |
| | 12 | 期末試験の解説・解答 まとめ | | 講義 |
| 2期 | 13 | 大腿陰経、陽経の経穴の部位と取穴法、解剖について | 大腿陰経、陽経の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。 | 講義 |
| | 14 | 下腿陽経の経穴の部位と取穴法、解剖について | 下腿陽経の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。 | 講義 |
| | 15 | 下腿陰経の経穴の部位と取穴法、解剖について | 下腿陰経の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。 | 講義 |
| | 16 | 腰背殿部の経穴の部位と取穴法、解剖について | 腰背殿部の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。 | 講義 |
| | 17 | 腰背殿部の経穴の部位と取穴法、解剖について | 腰背殿部の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。 | 講義 |
| | 18 | 胸腹部の経穴の部位と取穴法、解剖について | 胸腹部の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。 | 講義 |
| | 19 | 胸腹部の経穴の部位と取穴法、解剖について | 胸腹部の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。 | 講義 |
| | 20 | 頸部、顔面部の経穴の部位と取穴法、解剖について | 頸部、顔面部の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。 | 講義 |
| | 21 | 頸部、顔面部の経穴の部位と取穴法、解剖について | 頸部、顔面部の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。 | 講義 |
| | 22 | 頭部の経穴の部位と取穴法、解剖について | 頭部の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。 | 講義 |
| | 23 | 期末試験 | | 試験 |
| | 24 | 期末試験の解説・解答 まとめ | | 講義 |
| | 25 | 年度末試験 | | 試験 |

【科目】 あはき理論 I 【あはき理論 I】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|-------------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員 | 川畑 充伸 | |
| 単位数 | 1 単位 | | (かわはた みつのぶ) | |
| 開講学期 | 1 学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 12 回 |

【授業情報】

| | |
|--------------------|--|
| 授業概要 | あん摩マッサージ指圧、鍼、灸の施術が生体に対しどのように作用するか、なぜ体調や症状の変化が起こるのかを、解剖学・生理学を踏まえて、理解するための理論を学ぶ科目です。 |
| 授業の一般目標 (G I O) | あん摩マッサージ指圧・鍼・灸による生体の反応や作用について理解し、患者さんに説明できるようになるために、解剖学・生理学の知識を基に治効の理論を修得する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|---|
| 教科書 | 1. 「あん摩マッサージ指圧理論」第3版 東洋療法学校協会編 (株)医道の日本社 2. 「はりきゅう理論」東洋療法学校協会編 (株)医道の日本社 |
| 参考書 | 1. 「鍼灸医療安全ガイドライン」鍼灸安全性委員会 医歯薬出版(株) |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準(評価割合: %) 期末試験: 100% |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験で60%以上と年度末試験の合格により履修とする。 【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・臨床あん摩マッサージ指圧学・臨床はり学・きゅう学・あはき理論 I の単位として認定されます。 |
| 担当教員 |  <p>★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ) HRでの講義形式にて、機能・用語の理解に重点を置き、解説を行います。成績不良者もしくは希望者については適宜補習を行う予定です。授業中の私語、携帯電話などの不必要な使用に関しては対処します。</p> |
| オフィスアワー | |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|--|---|------|
| 1期 | 1 | 総論 鍼灸を理解するために必要な基礎知識 感覚 1. 体性感覚 総論、痛覚、温度覚、触覚 | 人体の感覚について説明できる。 (痛覚、温度覚、触覚についてとその伝達経路について)。 | 講義 |
| | 2 | 感覚 1. 体性感覚 圧覚、振動覚、固有感覚 | 人体の感覚について説明できる。 圧覚、振動覚、固有感覚についてとその伝達経路について) | 講義 |
| | 3 | 感覚 2. 内臓感覚 | 内臓感覚について説明できる。 (内臓求心路) | 講義 |
| | 4 | 熱傷 1. 熱傷の病理 炎症とは、内因性発痛物質、 | 熱傷について説明できる。 (炎症、内因性発痛物質、発痛増強物質、急性炎症) | 講義 |
| | 5 | 熱傷 2. 熱傷と分類 3. 熱傷と灸 | 熱傷について説明できる。 (熱傷の分類、灸との関連) | 講義 |
| | 6 | 生体の調整 1. 運動系 | 運動系について説明できる。 (随意運動、反射運動、筋トーンと α - γ 連関) | 講義 |
| | 7 | 生体の調整 2. 内臓系 | 内臓系について説明できる。 (自律神経系による調整、自律神経を介する反射) | 講義 |
| | 8 | 体表の反応 1. 体表の反応 | 体表面の反応について説明できる。 (筋緊張、発汗、発赤、痛覚過敏、硬結、圧痛、放散痛、関連痛) | 講義 |
| | 9 | 体表の反応 2. トリガーポイント | 体表面癒反応について説明できる。 (トリガーポイント) | 講義 |
| | 10 | 全体のまとめ | | 講義 |
| | 11 | 期末(到達度確認)試験 | | 試験 |
| | 12 | 期末試験の解説・解答 | | 講義 |

【科目】あはき臨床診察学Ⅰ【解剖生理学】

【基本情報】

| | | | | |
|------|-------|---------|--------------------|-----|
| 配当年度 | 2学年 | 担当教員 | 福本 彩季/武井 良之 | |
| 単位数 | 3単位 | | (ふくもと あき/たけい よしゆき) | |
| 開講学期 | 1～3学期 | 授業形態・回数 | 講義、演習 | 36回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | 生体の機能を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な機能が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な機能を学んでいく。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の機能について学習するとともに、その評価方法についても学習する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|--|
| 教科書 | 1. 解剖学第2版、生理学第2版 (公社)東洋療法学校協会編 医歯薬出版 |
| 参考書 | 1. 「標準生理学」 医学書院 2. 「人体の正常構造と機能」 日本医事新報社 |
| 成績評価基準 | 成績評価の算定方法(評価割合:%) 期末試験の成績:100% |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法(評価割合:%) 期末試験の成績(年度末試験含む):100% |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・人体の構造と機能・形態機能学Ⅱの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ) HRでの講義形式にて、機能・用語の理解に重点を置き、解説を行います。授業内容をメモするのはもちろん、授業をよく聴いてください。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の12:45～13:00 3F教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|--------------|-------------------------------|------|
| 1期 | 1 | 運動器①脊柱/胸郭の骨格 | 脊柱/胸郭の骨格について説明できる。 | 講義 |
| | 2 | 運動器②上肢の骨格 | 上肢の骨格について説明できる。 | 講義 |
| | 3 | 運動器③下肢の骨格 | 下肢の骨格について説明できる。 | 講義 |
| | 4 | 運動器④頭蓋骨 | 頭蓋骨の種類・部位・形について説明できる。 | 講義 |
| | 5 | 運動器⑤体幹部の筋 | 体幹部の筋について説明できる。 | 講義 |
| | 6 | 運動器⑥上肢の筋① | 上肢の筋と支配神経について説明できる。 | 講義 |
| | 7 | 運動器⑦上肢の筋② | 上肢の筋と支配神経について説明できる。 | 講義 |
| | 8 | 運動器⑧下肢の筋① | 下肢の筋と支配神経について説明できる。 | 講義 |
| | 9 | 運動器⑨下肢の筋② | 下肢の筋と支配神経について説明できる。 | 講義 |
| | 10 | 運動器⑩頭頸部の筋 | 頭部の筋 (表情筋と咀嚼筋) について説明できる。 | 講義 |
| | 11 | 運動器⑪頭頸部の筋 | 頭部の筋 (表情筋と咀嚼筋) について説明できる。 | 講義 |
| | 12 | 試験 | | |
| 2期 | 13 | フィードバック | | |
| | 14 | 運動器⑫頭頸部の筋 | 頸部の筋 (広頸筋・側頸筋・後頸筋) について説明できる。 | 講義 |
| | 15 | 運動器⑬頭頸部の筋 | 頸部の筋 (舌骨筋群) について説明できる。 | 講義 |
| | 16 | 運動器⑭頭頸部の筋 | 頸部の筋 (固有背筋・後頭下筋) について説明できる。 | 講義 |
| | 17 | 運動器⑮頭頸部の筋 | 頸部の筋 (舌筋、その他の筋) について説明できる。 | 講義 |
| | 18 | 末梢神経系① | 脳神経と頭蓋底の構造について説明できる。 | 講義 |
| | 19 | 末梢神経系② | 脳神経と頭蓋底の構造について説明できる。 | 講義 |
| | 20 | 末梢神経系③ | 脊髄神経 (頸神経・胸神経) の走行と分布を説明できる。 | 講義 |
| | 21 | 末梢神経系④ | 脊髄神経 (頸神経・胸神経) の走行と分布を説明できる。 | 講義 |
| | 22 | 末梢神経系⑤ | 脊髄神経 (腰神経・仙骨神経) の走行と分布を説明できる。 | 講義 |
| | 23 | 末梢神経系⑥ | 脊髄神経 (腰神経・仙骨神経) の走行と分布を説明できる。 | 講義 |
| | 24 | 試験 | | |
| 3期 | 25 | フィードバック | | |
| | 26 | 骨格筋の構造と機能① | 骨格筋の構造と機能について説明できる。 | 講義 |
| | 27 | 骨格筋の構造と機能② | 骨格筋の構造と機能について説明できる。 | 講義 |
| | 28 | 筋収縮の機構① | 骨格筋の収縮機構について説明できる。 | 講義 |
| | 29 | 筋収縮の機構② | 骨格筋の収縮機構について説明できる。 | 講義 |
| | 30 | 伝導路と運動調節① | 神経伝導路 (脊髄) について説明できる。 | 講義 |
| | 31 | 伝導路と運動調節② | 神経伝導路 (随意運動) について説明できる。 | 試験 |
| | 32 | 伝導路と運動調節③ | 神経伝導路 (運動の協調) について説明できる。 | 講義 |
| | 33 | 伝導路と運動調節④ | 神経伝導路 (運動の調節) について説明できる。 | 講義 |
| | 34 | 伝導路と運動調節⑤ | 神経伝導路 (言語機能) について説明できる。 | 講義 |
| | 35 | 試験 | | |
| | 36 | フィードバック | | |

【基本情報】

| | | | | |
|------|--------|---------|------------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員 | 池崎 園江 | |
| 単位数 | 3 単位 | | (いけざき そのえ) | |
| 開講学期 | 1～3 学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 36 回 |

【授業情報】

| | |
|--------------------|--|
| 授業概要 | 1 年時に学んだ人体についての解剖学・生理学をもとに、人体の機能が正常に働かなくなった状態である疾病についての概要を学んでいく。 |
| 授業の一般目標 (G I O) | 主要疾患の概念、原因、主症状、検査所見と類似する疾患との鑑別診断の要点を身につける。 |

【担当教員から】

| | |
|---|--|
| 教科書 | 1. 「臨床医学各論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版（株） |
| 参考書 | 1. 「臨床医学総論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版（株） |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験により評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法（評価割合：％） 期末試験：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験の評価を合計して 60％以上で履修とする。この科目は専門分野・臨床あん摩マッサージ指圧学・臨床はり学・臨床きゆう学・あはき臨床診察学Ⅱの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 授業内容は実技科目と臨床実習が関連するため、積極的な学習姿勢が望まれます。 |
|  | |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3 F 教員室 |

【授業計画】

| | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|------------|---|------|
| 1期 | 1 | 感染症① | 感染症 (細菌感染症・ウイルス感染症・性感染症) についての概要が説明できる。 | 講義 |
| | 2 | 感染症② | | 講義 |
| | 3 | 感染症③ | | 講義 |
| | 4 | 消化管疾患① | 口腔・胃腸系疾患 (口腔疾患・食道疾患・胃・十二指腸疾患・腸疾患・腹膜疾患) についての概要が説明できる。 | 講義 |
| | 5 | 消化管疾患② | | 講義 |
| | 6 | 消化管疾患③ | | 講義 |
| | 7 | 肝・胆・膵臓系疾患① | 肝・胆・膵臓系疾患 (肝臓疾患・胆道疾患・膵臓疾患) についての概要が説明できる。 | 講義 |
| | 8 | 肝・胆・膵臓系疾患② | | 講義 |
| | 9 | 肝・胆・膵臓系疾患③ | | 講義 |
| | 10 | まとめ | 学修範囲の総括 | 講義 |
| | 11 | 期末試験 | | 試験 |
| | 12 | 期末試験の解説・解答 | | 講義 |
| 2期 | 13 | 呼吸器疾患① | 呼吸器疾患 (感染性呼吸器疾患・閉塞性呼吸器疾患・拘束性呼吸器疾患等) についての概要が説明できる。 | 講義 |
| | 14 | 呼吸器疾患② | | 講義 |
| | 15 | 呼吸器疾患③ | | 講義 |
| | 16 | 腎・泌尿器疾患① | 泌尿器系疾患 (原発性糸球体腎炎・腎不全・感染症・腫瘍性疾患・結石症・前立腺疾患) についての概要が説明できる。 | 講義 |
| | 17 | 腎・泌尿器疾患② | | 講義 |
| | 18 | 内分泌疾患① | 内分泌系疾患 (下垂体疾患・甲状腺疾患・副腎疾患) についての概要が説明できる。 | 講義 |
| | 19 | 内分泌疾患② | | 講義 |
| | 20 | 内分泌疾患③ | | 講義 |
| | 21 | 代謝・栄養疾患① | 代謝系疾患 (糖代謝異常・脂質代謝異常・尿酸代謝異常等) についての概要が説明できる。 | 講義 |
| | 22 | 代謝・栄養疾患② | | 講義 |
| | 23 | 期末試験 | | 試験 |
| | 24 | 期末試験の解説・解答 | | 講義 |
| 3期 | 25 | 整形外科疾患① | 整形外科疾患 (関節疾患・骨代謝性疾患・骨腫瘍・狭窄性腱鞘炎・形態異常・脊椎疾患・脊髄損傷・外傷等) についての概要が説明できる。 | 講義 |
| | 26 | 整形外科疾患② | | 講義 |
| | 27 | 整形外科疾患③ | | 講義 |
| | 28 | 整形外科疾患④ | | 講義 |
| | 29 | 整形外科疾患⑤ | | 講義 |
| | 30 | 整形外科疾患⑥ | | 講義 |
| | 31 | 神経疾患① | 主な神経疾患 (脳血管疾患、感染性疾患、脳・脊髄腫瘍、変性疾患、認知症性疾患、筋疾患、運動ニューロン疾患、末梢神経疾患、神経痛、機能的疾患) についての概要が説明できる。 | 講義 |
| | 32 | 神経疾患② | | 講義 |
| | 33 | 神経疾患③ | | 講義 |
| | 34 | 神経疾患④ | | 講義 |
| | 35 | 期末試験 | | 試験 |
| | 36 | 期末試験の解説・解答 | | 講義 |
| | 37 | 年度末試験 | | 試験 |

【科目】 あはき臨床診察学Ⅲ 【東洋医学臨床論】

【基本情報】

| | | | | |
|------|--------|---------|-------------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員 | 西岡 岳之 | |
| 単位数 | 3 単位 | | (にしおか たけゆき) | |
| 開講学期 | 1～3 学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 36 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|---|
| 授業概要 | 東洋医学概論で学習した診断、治療を応用し、症状に対する考え方から証立て、配穴、治療法を学習する。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋医学概論で学習した診断、治療を応用し、患者の愁訴から証立てを行うために、各症候の東洋医学的な病態を理解する。 2. 経絡経穴概論で学習した経絡の流注、経穴の特徴を応用し選穴・配穴を行うために、各病証・証立てに応じた配穴を理解する。 |

【担当教員から】

| | |
|---|---|
| 教科書 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 新版 東洋医学概論；東洋療法学校協会編 2. 新版 経絡経穴概論；東洋療法学校協会編 3. 東洋医学臨床論（はりきゆう編）；東洋療法学校協会編 4. 東洋医学臨床論（あん摩マッサージ指圧編）；東洋療法学校協会編 |
| 参考書 | |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを定期試験で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準（評価割合：％） 期末試験（年度末試験）：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験が 60％以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・臨床あん摩マッサージ指圧、臨床はり学、臨床きゆう学・あはき臨床診察学Ⅲの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | <p>★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）</p> <p>東洋医学の考え方による治療法を学ぶため、授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。授業では、ノートをとるだけでなく、話をよく聞いてください。</p> |
|  | |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3F 教員室 |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|-------------------|--|------|
| 1期 | 1 | 頭痛 | 1.各症候の東洋医学的な考え方を述べることができる。 2.各症候の東洋医学的な病態を説明することができる。 3.適応となる疾患の治療方針、治療穴を列挙することができる。 | 講義 |
| | 2 | 顔面痛 | | 講義 |
| | 3 | 胸痛 | | 講義 |
| | 4 | 腹痛 | | 講義 |
| | 5 | 眼精疲労 | | 講義 |
| | 6 | 気分障害 | | 講義 |
| | 7 | めまい | | 講義 |
| | 8 | 動悸・息切れ | | 講義 |
| | 9 | 血圧異常 | | 講義 |
| | 10 | 睡眠障害 | | 講義 |
| | 11 | 期末試験 | | 試験 |
| | | 12 | 期末試験の解説・解答 まとめ | 講義 |
| 2期 | 13 | 食欲不振 | 1.各症候の東洋医学的な考え方を述べることができる。 2.各症候の東洋医学的な病態を説明することができる。 3.適応となる疾患の治療方針、治療穴を列挙することができる。 | 講義 |
| | 14 | 肥満・やせ | | 講義 |
| | 15 | 悪心・嘔吐 | | 講義 |
| | 16 | 便秘・下痢 | | 講義 |
| | 17 | 歯痛 | | 講義 |
| | 18 | 咳嗽と喀痰 | | 講義 |
| | 19 | 呼吸困難・鼻閉・鼻汁 | | 講義 |
| | 20 | 脱毛 | | 講義 |
| | 21 | 耳鳴り・難聴 | | 講義 |
| | 22 | 排尿障害・ED | | 講義 |
| | 23 | 期末試験 | | 試験 |
| | | 24 | 期末試験の解説・解答 まとめ | 講義 |
| 3期 | 25 | 疲労と倦怠感 | 1.各症候の東洋医学的な考え方を述べることができる。 2.各症候の東洋医学的な病態を説明することができる。 3.適応となる疾患の治療方針、治療穴を列挙することができる。 | 講義 |
| | 26 | 発熱・冷え・のぼせ | | 講義 |
| | 27 | 浮腫 | | 講義 |
| | 28 | 掻痒感・顔面麻痺 | | 講義 |
| | 29 | 歩行異常・口渇 | | 講義 |
| | 30 | 出血傾向・女性特有概説 | | 講義 |
| | 31 | 月経異常・性器出血・帯下 | | 講義 |
| | 32 | 不妊症・つわり | | 講義 |
| | 33 | 骨盤位(逆子)・乳汁分泌不全 | | 講義 |
| | 34 | 小児概説、疳の虫・夜尿症・小児喘息 | | 講義 |
| | 35 | 期末試験 | | 試験 |
| | | 36 | 期末試験の解説・解答 まとめ | 講義 |
| | 37 | 年度末試験 | 試験 | |

【科目】 応用はりきゅう実技 I 【身体診察実習】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|----------------------------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員 | 三浦 洋 (みうら ひろし) (実務経験あり) | |
| 単位数 | 2 単位 | | 西岡 岳之 (にしおか たけゆき) (実務経験あり) | |
| 開講学期 | 前・後期 | 授業形態・回数 | 実習 | 36 回 |

【授業情報】

| | |
|---------------|--|
| 授業概要 | あはき臨床の中で病態の鑑別をする上で医療面接 (Medical Interview) と身体診察 (Physical Examination) が的確にできるかが大きく影響します。ここでは、患者の身体の状態を総合的に診るための医療面接と身体診察の目的と意義並びにそれらの技術の基本を学んでいく。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | <ol style="list-style-type: none"> 1. あん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの臨床における基本的臨床技能として重要な位置にある医療面接を習得するために、医療面接・コミュニケーション技法を理解する。 2. 施術者としてお互いの立場を尊重した人間関係を構築して、適切な医療面接を習得するために、患者役と面接者役となってロールプレイを行い、医療面接技法を理解する。 3. あん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの臨床に必要な身体診察を実践するために、身体診察技能を修得する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|---|
| 教科書 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 1 年次「身体診察学」で配布したテキスト 2. その他、教材・資料プリント配布 |
| 参考書 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 開業鍼灸師のための診察法と治療法 1～5 ; 出端昭男著 (医道の日本社) 2. はじめての医療面接コミュニケーション技法とその学び方; 斎藤清二著 (医学書院) 3. 「臨床医学総論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) 4. 「臨床医学各論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを前期期末試験と後期の期末試験に該当させる「臨床実習前評価試験」の結果を総合的に判断して評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準 (評価割合 : %) 1. 期末試験 (臨床実習前評価試験含む) : 100% |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験 (臨床実習前評価試験試験含む) の評価を合計して 60% 以上により履修とする。【3 年次鍼灸臨床実習前評価試験対象科目】この科目は専門分野・鍼灸実習・応用はりきゅう実技 I・身体診察実習の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ) 3 年次に行う鍼灸臨床実習に必要な不可欠な授業であるため、出席状況が技術の習熟度に直結するといっても過言ではありません。また、グループを組んで行う内容もあるので、欠席や遅刻、早退などは授業内容が理解できなくなるだけでなく、クラスメイトにも迷惑をかけます。体調管理をしっかりと行い、欠席等しないようにしてください。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12 : 45～13 : 00 3 F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----------------|--|--|-----------------------------|
| 前期 | 1 | 1. 授業ガイダンス (鍼灸臨床の流れ) 2. バイタルサインの確認 (脈拍と血圧測定) 3. 腰痛の診察① | 医療面接・問診、身体診察から鍼灸施術に至る臨床の一連の流れが理解できる。 バイタルサインが確認できる。毎回の授業時に脈拍、血圧測定が実践できる。 | 講義・演習 |
| | 2 | 3. 腰痛の診察② | 主訴に対する主要疾患の特徴が説明できる。 主訴に対する問診事項の意義を理解して実践できる。 主訴に対する身体診察の意義を理解して実践できる。 | 講義・演習 |
| | 3 | 4. 腰下肢痛の診察① | | 講義・演習 |
| | 4 | 4. 腰下肢痛の診察② | | 講義・演習 |
| | 5 | 4. 腰下肢痛の診察③ | | 講義・演習 |
| | 6 | まとめ | | 講義・演習 |
| | 7 | 5. 頸上肢痛の診察① | | 講義・演習 |
| | 8 | 5. 頸上肢痛の診察② | | 講義・演習 |
| | 9 | 5. 頸上肢痛の診察③ | | 講義・演習 |
| | 10 | まとめ | | 講義・演習 |
| | 11 | 6. 膝関節痛の診察① | | 講義・演習 |
| | 12 | 6. 膝関節痛の診察② | | 講義・演習 |
| | 13 | 6. 膝関節痛の診察③ | | 講義・演習 |
| | 14 | まとめ | | 演習 |
| | 15 | 7. 肩関節痛の診察① | | 講義・演習 |
| | 16 | 7. 肩関節痛の診察② | | 講義・演習 |
| | 17 | 7. 肩関節痛の診察③ | | 講義・演習 |
| | 18 | まとめ | | 演習 |
| 後期 | 19 | 前期期末試験 | | (腰痛・腰下肢痛・頸上肢痛・膝関節痛・肩関節痛の診察) |
| | 20 | 前期期末試験フィードバック | | 演習 |
| | 21 | 8. 臨床推論概論 | 3年次鍼灸臨床実習を行う班(基本3人1組)内で協力して、腰痛・腰下肢痛・頸上肢痛・膝関節痛・肩関節痛それぞれの現病歴と診察所見から病態を推察し、あはき施術の適否を鑑別することができる。 | 講義・演習 |
| | 22 | 臨床推論演習① | | 講義・演習 |
| | 23 | 臨床推論演習② | | 講義・演習 |
| | 24 | 臨床推論演習③ | | 講義・演習 |
| | 25 | 臨床推論演習④ | | 講義・演習 |
| | 26 | 臨床推論演習⑤ | | 講義・演習 |
| | 27 | 臨床推論演習⑥ | | 講義・演習 |
| | 28 | 臨床推論演習⑦ | | 講義・演習 |
| | 29 | 臨床推論演習⑧ | | 講義・演習 |
| | 30 | 臨床推論演習⑨ | | 講義・演習 |
| | 31 | 臨床推論演習⑩ | 講義・演習 | |
| | 32 | 後期期末試験シミュレーション | 施術所にて実施される3年次鍼灸臨床実習での身体診察を安全かつ正確に行い所見を取ることができる。 | 講義・演習 |
| 33 | 後期期末試験シミュレーション | 講義・演習 | | |
| 34 | 後期期末試験シミュレーション | 講義・演習 | | |
| 35 | 後期期末試験シミュレーション | 講義・演習 | | |
| 36 | 臨床実習前評価試験 | 「後期期末試験」として実施 | 試験 | |

【科目】 応用はりきゅう実技Ⅱ 【診察法・特殊鍼灸実習】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|---------------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員 | 小熊 勇人（実務経験あり） | |
| 単位数 | 1 単位 | | （おぐま はやと） | |
| 開講学期 | 後期 | 授業形態・回数 | 実習 | 18 回 |

【授業情報】

| | |
|--------------|--|
| 授業概要 | <p>鍼灸医学の治療法には様々な対応方法がある。施術者は一つの治療法のみ固執することなく、患者の様々な愁訴、要望に合わせて最も効果的な治療方法を選択しなければならない。</p> <p>外部治療院や学校附属施術所での臨床経験を活かして、四診や証立てから伝統的な刺鍼法や施灸法を実践できるようにすることを目的とする。</p> |
| 授業の一般目標（GIO） | 患者の様々な愁訴や要望に合わせて最も効果的な治療を選択するために、1 年次で修得した東洋医学の基礎知識と基本技能をもとに、伝統的な刺鍼法・施灸法を修得する。 |

【担当教員から】

| | |
|---|--|
| 教科書 | <ol style="list-style-type: none"> はりきゅう理論；東洋療法学校協会編（医道の日本社） はりきゅう実技〈実技編〉第2版；東洋療法学校協会編（医道の日本社） |
| 参考書 | 1. 図解 鍼灸臨床手技マニュアル 第2版；尾崎明弘著（医歯薬出版株式会社） |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを実技試験にて判断する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準と算定方法（評価割合：％） 期末試験：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験の評価を合計して 60%以上により履修とする。この科目は専門分野・実習・鍼灸実習・応用はりきゅう実技Ⅱの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | |
|  | <p>★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）</p> <p>本授業では、特殊な鍼灸技術も学習します。場合によっては危険を伴う手技もあるので、教員のデモンストレーションをよく見て、話をよく聞き、注意を怠らないでください。また、事故防止のため、指示された部位以外への施灸を禁止します。指示された施灸が終了した時点で、必ず指導教員に確認を求め、次の指示に従ってください。</p> |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3F 教員室 |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|--------------------------------------|--|------|
| 後期 | 1 | 舌診 | 舌診について説明できる。 舌診から証立てができる。 | 実習 |
| | 2 | 腹診 | 腹診について説明できる。 舌診、腹診から証立てができる。 | 実習 |
| | 3 | 脈診 1 | 脈診について説明できる。 舌診、腹診、脈診から証立てができる。 | 実習 |
| | 4 | 脈診 2 | | 実習 |
| | 5 | 温筒灸・艾条灸 知熱灸・深谷灸法 隔物灸(生姜灸・塩灸など) | 温筒灸・艾条灸の使用用途を説明できる。 知熱灸・深谷灸法・隔物灸の使用用途を説明できる。 温筒灸・艾条灸を安全に行うことができる。 温筒灸・艾条灸・隔物灸を安全に行うことができる。 | 実習 |
| | 6 | 接触鍼法(散鍼) 小児鍼・灸法 皮内鍼・円皮鍼 耳鍼 | 散鍼・小児鍼・小児灸の使用用途を説明できる。 皮内鍼・円皮鍼・耳鍼の使用用途を説明できる。 散鍼・小児鍼を安全で衛生的に行うことができる。 皮内鍼・円皮鍼・耳鍼を安全で衛生的に行うことができる。 | 実習 |
| | 7 | 後期中間試験 | | 試験 |
| | 8 | 吸角 | 吸角の使用用途を説明できる。 | 実習 |
| | 9 | | 吸角を安全に行うことができる。 | 実習 |
| | 10 | 頭皮部(百会)・顔面部(胡桃灸・眼 瞼知熱灸)への施灸 | 頭皮部・顔面部への施灸の使用用途を説明できる。 頭皮部・顔面部への施灸を安全に行うことができる。 | 実習 |
| | 11 | 顔面部への刺鍼 | 顔面部への刺鍼の使用用途を説明できる。 顔面部への刺鍼を安全で衛生的に行うことができる。 | 実習 |
| | 12 | 八綱弁証と鍼灸実技 | 八綱弁証について説明できる。 証立てに応じた刺鍼、施灸ができる。 吸角についても実践できる。 | 実習 |
| | 13 | 気血津液弁証①と鍼灸実技 | 気血津液弁証について説明できる。 証立てに応じた刺鍼、施灸ができる。 | 実習 |
| | 14 | 気血津液弁証②と鍼灸実技 | 気血津液弁証について説明できる。 証立てに応じた刺鍼、施灸ができる。 | 実習 |
| | 15 | 期末試験 | 試験後フィードバック | 試験 |
| | 16 | 臓腑弁証①と鍼灸実技 | 臓腑弁証について説明できる。 証立てに応じた刺鍼、施灸ができる。 | 実習 |
| | 17 | 臓腑弁証②と鍼灸実技 | 臓腑弁証について説明できる。 証立てに応じた刺鍼、施灸ができる。 | 実習 |
| | 18 | 臓腑弁証③と鍼灸実技 | 臓腑弁証について説明できる。 証立てに応じた刺鍼、施灸ができる。 | 実習 |

【科目】 はき適応疾患実習 I 【運動器系疾患実習】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|----------------------------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員 | 三浦 洋 (みうら ひろし) (実務経験あり) | |
| 単位数 | 2 単位 | | 西岡 岳之 (にしおか たけゆき) (実務経験あり) | |
| 開講学期 | 前・後期 | 授業形態・回数 | 実習 | 36 回 |

【授業情報】

| | |
|---------------|---|
| 授業概要 | 外部治療院や学校付属施術所での臨床経験を活かして、運動器疾患に対する刺鍼法や施灸法を実践できるようにすることを目的としています。腰痛、腰下肢痛、頸上肢痛、肩痛、膝痛を始め、その他の運動器系疾患（スポーツ障害を含む）で、はき臨床において最も高頻度に扱われる症候・愁訴に対する施術の要点について学んでいきます。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 鍼灸にかかる患者の訴えで最も多い症状である腰痛・腰下肢痛・頸上肢痛・膝痛・五十肩などの整形外科系運動器疾患に対する正確かつ衛生的で安全な鍼灸施術を身につけるために、問診と身体診察による病能把握に基づいた具体的な治療方法の基礎を修得する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|--|
| 教科書 | 1. 「身体診察学テキスト」とその他、教材・資料プリント配布 |
| 参考書 | 1. 図解 鍼灸臨床手技マニュアル 第2版；尾崎明弘著（医歯薬出版株式会社） 2. 開業鍼灸師のための診察法と治療法1～5；出端昭男著（医道の日本社） 3. 臨床医学各論；東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社） 4. 臨床医学総論；東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社） |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを実技試験にて判断する。 ※臨床実習前評価試験は、後期の「期末試験」として実施する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準（評価割合：％） 期末試験（臨床実習前評価試験試験含む）：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験（臨床実習前評価試験試験含む）の評価を合計して 60％以上により履修とする。【3年次鍼灸臨床実習前評価試験対象科目】この科目は専門分野・実習・はき適応疾患実習 I の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 3年次に行く鍼灸臨床実習に必要な不可欠な授業であるため、出席状況が技術の習熟度に直結するといっても過言ではありません。また、グループを組んで行う内容もあるので、欠席や遅刻、早退などは授業内容が理解できなくなるだけでなく、クラスメイトにも迷惑をかけます。体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には十分留意してください。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|-----------------------------|--|-------|
| 前期 | 1 | 1. 授業ガイダンス 2. 刺鍼と施灸の基本確認 | 刺鍼の基本を確認して衛生的で安全な刺鍼ができる。 施灸の自主トレーニング方法を理解して実践できる。 | 講義・実習 |
| | 2 | 腰痛へのアプローチ① | 鍼灸適応となる腰痛に対する治療穴の選定ができる。 治療穴を含めた腰痛の触診を的確に行うことができる。 | 実習 |
| | 3 | 腰痛へのアプローチ② | 腰痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。 | 実習 |
| | 4 | 腰下肢痛へのアプローチ① | 鍼灸適応となる腰下肢痛に対する治療穴の選定ができる。 | 実習 |
| | 5 | 腰下肢痛へのアプローチ② | 治療穴を含めた腰下肢痛の触診を的確に行うことができる。 | 実習 |
| | 6 | 腰下肢痛へのアプローチ③ | 腰下肢痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。 | 実習 |
| | 7 | 頸上肢痛へのアプローチ① | 鍼灸適応となる頸肩背痛に対する治療穴の選定ができる。 | 実習 |
| | 8 | 頸上肢痛へのアプローチ② | 治療穴を含めた頸肩背痛の触診を的確に行うことができる。 | 実習 |
| | 9 | 頸上肢痛へのアプローチ③ | 頸上肢痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。 | 実習 |
| | 10 | まとめ | 腰下肢痛・頸上肢痛へのアプローチ | 実習 |
| | 11 | 膝関節痛へのアプローチ① | 鍼灸適応となる膝関節痛に対する治療穴の選定ができる。 | 実習 |
| | 12 | 膝関節痛へのアプローチ② | 治療穴を含めた膝関節痛の触診を的確に行うことができる。 | 実習 |
| | 13 | 膝関節痛へのアプローチ② | 膝関節痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。 | 実習 |
| | 14 | まとめ | 腰下肢痛・頸上肢痛・膝関節痛へのアプローチ | 実習 |
| | 15 | 肩関節痛へのアプローチ① | 鍼灸適応となる肩関節痛に対する治療穴の選定ができる。 | 実習 |
| | 16 | 肩関節痛へのアプローチ② | 治療穴を含めた肩関節痛の触診を的確に行うことができる。 | 実習 |
| | 17 | 肩関節痛へのアプローチ③ | 肩関節痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。 | 試験 |
| | 18 | まとめ | 腰下肢痛・頸上肢痛・膝関節痛・肩関節痛へのアプローチ | 実習 |
| 後期 | 19 | 前期期末試験 | (対人刺鍼と透熱灸) | 実習 |
| | 20 | 前期期末試験フィードバック | | 実習 |
| | 21 | その他の運動器系疾患及び 症例報告に基づく治療法 | 症例報告されている低周波鍼通電療法、灸頭鍼法、知熱灸法 などの各治療法を学び、それらの治療法が再現できる。 | 実習 |
| | 22 | | | 実習 |
| | 23 | | | 実習 |
| | 24 | | | 実習 |
| | 25 | | | 実習 |
| | 26 | | | 実習 |
| | 27 | | | 実習 |
| | 28 | | | 実習 |
| | 29 | | | 実習 |
| | 30 | | | 実習 |
| | 31 | | | 実習 |
| | 32 | 後期期末試験シミュレーション | 施術所にて実施される3年次鍼灸臨床実習での鍼灸施術を衛 生的で安全に行うことができる。 | 実習 |
| | 33 | 後期期末試験シミュレーション | | 実習 |
| | 34 | 後期期末試験シミュレーション | | 実習 |
| | 35 | 後期期末試験シミュレーション | | 実習 |
| | 36 | 臨床実習前評価試験 | 「期末試験」として実施 | 試験 |

【科目】 応用手技実技 I 【応用手技実技】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|-------------------|-------------------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員 | 坂本 辰徳 (実務経験あり) | 足立 昌彦 (実務経験あり) |
| 単位数 | 1 単位 | | (さかもと たつり) | (あだち まさひこ) |
| 開講学期 | 前期 | 授業形態・回数 | 実習 | 18 回 |

【授業情報】

| | |
|--------------------|---|
| 授業概要 | <p>あん摩実習 患者の体位に応じて、安全かつ有効な施術方法を学ぶ。後期からの臨床実習に向けて、患者の症状に則した治療が出来るよう、声かけ、気遣い等も学ぶ。</p> <p>マッサージ実習 人体各部の疾患に応じた安全かつ有効なオイルマッサージの施術方法を学ぶ。</p> |
| 授業の一般目標 (G I O) | <p>あん摩実習 人体各部位に合う、安全かつ有効な按摩の手技を行うために、各部位に応じた施術方法を修得する。</p> <p>マッサージ実習 人体各部の疾患に応じた安全かつ有効なオイルマッサージの施術を行うために、臨床応用後術を修得する。</p> |

【担当教員から】

| | |
|---|--|
| 教科書 | 1. 按摩・マッサージ・指圧—実技編—：学校法人呉竹学園編 |
| 参考書 | 1. あん摩マッサージ指圧実技；東洋療法学校協会編 2. あん摩マッサージ指圧理論；東洋療法学校協会編 |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準（評価割合：%） 1. 期末試験：100% |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験、身だしなみなど衛生的配慮、受け手評価シートの評価を合計して 60%以上により履修とする。【実技認定試験対象科目】この科目は専門分野・実習・あま指実習・応用手技実技 I の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） |
|  | <ol style="list-style-type: none"> 基本手技を理解・体得し、自身の体に負担を掛けない施術方法を会得することが大切である。 技術はすぐには身につかないので、予習と復習を必ずおこなう。 デモンストレーション等、説明をしっかりと聞き、効率的な練習をする。 授業は 2 人一組でおこなわれるので、欠席すると自身の修練が足りなくなるうえに、相手にも迷惑がかかる。体調管理をしっかりとおこない、欠席しない体を作る。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12:45~13:00 3F 教員室 |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|------------------|--|------|
| 前期 | 1 | 腹臥位按摩法：殿部の按摩 | 受け手の施術時の体位に配慮できる。 施術者の基本姿勢に配慮できる。 安全かつ適切な圧で施術ができる。 | 実習 |
| | 2 | 下肢の按摩 | | 実習 |
| | 3 | 頸部、上肢の按摩 | | 実習 |
| | 4 | 背臥位按摩法：頭部、顔面部の按摩 | | 実習 |
| | 5 | 頸部、胸部の按摩 | | 実習 |
| | 6 | 上肢の按摩 | | 実習 |
| | 7 | 関節拘縮・運動麻痺の按摩 | | 実習 |
| | 8 | 期末試験 | 全身の按摩、叩打、曲手 | 試験 |
| | 9 | 試験フィードバック | | 実習 |
| | 10 | 密着・姿勢・体重移動 | 密着・姿勢・体重移動を意識した施術ができる。 | 実習 |
| | 11 | オイルマッサージ | 患者に配慮したオイルの扱いができる。 | 実習 |
| | 12 | 下肢のマッサージ | 下肢の疾患に応じたオイルマッサージができる。 | 実習 |
| | 13 | 下肢のマッサージ | | 実習 |
| | 14 | 背部、腰部のマッサージ | 背部、腰部の疾患に応じたオイルマッサージができる。 | 実習 |
| | 15 | 背部、腰部のマッサージ | | 実習 |
| | 16 | 腰下肢患者への施術 | 制限時間内に腰下肢のオイルマッサージができる。 | 実習 |
| | 17 | 期末試験 | (腰下肢のオイルマッサージ) | 試験 |
| | 18 | 試験フィードバック | (試験における改善点の確認) | 実習 |

【科目】 応用手技実技Ⅱ 【あま指早期臨床体験実習】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|-------------------------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員 | 足立昌彦・相田典子・坂本辰徳 | |
| 単位数 | 1 単位 | | 川畑充伸・田中文枝・平井顯徳 渋谷砂恵子 | |
| 開講学期 | 後期 | 授業形態・回数 | 実習 | 18 回 |

【授業情報】

| | | |
|--------------------|---|-------------|
| 授業概要 | <p>指圧実習 年次に実施した指圧実習を基に臨床に用いられる（症状に応じた）施術をおこなうための技術を習得するための科目です。</p> <p>あま指早期臨床体験実習 者の体位に応じて、安全かつ有効な施術方法を学ぶ。患者の症状に則した治療が出来るよう、声かけ、気遣い等も学ぶ。</p> | 1 あ 患 |
| 授業の一般目標 (G I O) | <p>指圧実習 者の症状等の状態に応じた指圧を総合的に行うために、部位に適した指圧術を修得する。</p> <p>あま指早期臨床体験実習 1. 医療施設内で従事するために、行動規範の基本を身につける。 2. 状況に応じた体位、姿勢、手技が選択するために、医療面接を含むフィジカルアセスメント、安全面を配慮した施術法のバリエーションを身につける。</p> | 患 習 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|--|
| 教科書 | 1. 按摩・マッサージ・指圧—実技編—：学校法人呉竹学園編 |
| 参考書 | 1. あん摩マッサージ指圧実技；東洋療法学校協会編 2. あん摩マッサージ指圧理論；東洋療法学校協会編 |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。 |
| 成績評価方法 | <p>成績評価の基準（評価割合：％）</p> <p>1. 期末（到達目標達成確認）試験：90％ 2. 身だしなみなど衛生的配慮、受け手評価シート：10％</p> |
| 履修の条件 留意点 | 期末（到達目標達成確認）試験、身だしなみなど衛生的配慮、受け手評価シートの評価を合計して 60％以上により履修とする。【実技認定試験対象科目】この科目は専門分野・実習・あま指実習・応用手技実技Ⅱの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | <p>1. 1・2 年生で修得した按摩、指圧、マッサージの基本手技を、臨床応用できる技術を身につけることが大切である。</p> <p>2. 施術部位を十分理解すること。</p> <p>3. 実技の前に講義とデモンストレーションがあるのでノートをとりながら、話をよく聞くこと。</p> <p>4. 1 回だけの授業では修得は困難であるため、復習をして授業に臨むこと。</p> <p>5. 本科目の単位取得のためには、全授業数の 70％以上の出席かつ全臨床実習への出席が必要である。</p> <p>6. 授業は、講義・実習が組み合わせられ、実習は 2 人 1 組にて行われるので、欠席、遅刻や早退などは授業内容が理解できなくなるだけでなく、組み合わせの相手にも迷惑をかけることになる。その為、体調管理をしっかり行い、授業の出欠には十分留意すること。</p> <p>7. 実習では身だしなみなど衛生的配慮ができていない場合は実習に参加することができないので、十分に注意すること。</p> |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12:45～13:00 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|--------------------------------|---|-------|
| 後期 | 1 | 取り扱う疾患(症状)について① | 施術の適否を鑑別できる。 運動器疾患において、骨性と筋性を区別できる。 末梢神経障害の概略が説明できる。 | 実習 |
| | 2 | 取り扱う疾患(症状)について② | 施術録の記入ができる。 | 実習 |
| | 3 | 頸部・胸郭出口症候群・肩関節部・上肢(上半身)に対する指圧① | 施術対象疾患を理解し、その疾患に対する施術(1年次の応用)ができる。 | 実習 |
| | 4 | 頸部・胸郭出口症候群・肩関節部・上肢(上半身)に対する指圧② | | 実習 |
| | 5 | 腰部・殿部・下肢(下半身)の症状に対する指① | | 実習 |
| | 6 | 腰部・殿部・下肢(下半身)の症状に対する指圧② | | 実習 |
| | 7 | 自律神経系・循環器系・呼吸器系(全身)の症状に対する指圧 | | 実習 |
| | 8 | 期末(到達目標達成確認)試験 | | 試験 |
| | 9 | 試験フィードバック | | 実習 |
| | 10 | オリエンテーション | 1.臨床実習の意義を理解できる。 2.医療人にふさわしい身だしなみを示すことができる。 3.施術録の記入の仕方、施術上の注意点、臨床上の注意点を理解できる。 | 講義・実習 |
| | 11 | 臨床体験実習① | 1.臨床実習の意義を理解できる。 2.患者、施術所スタッフ、研修生、指導者に対して、適切に挨拶と自己紹介ができる。 3.施術録を作成することができる。 4.受け手の施術時の体位に配慮できる。 5.施術者の基本姿勢に配慮できる。 6.安全かつ適切な圧で主訴に応じた施術ができる。 | 実習 |
| | 12 | 臨床体験実習② | | 実習 |
| | 13 | 臨床体験実習③ | | 実習 |
| | 14 | 臨床体験実習④ | | 実習 |
| | 15 | 臨床体験実習⑤ | | 実習 |
| | 16 | 臨床体験実習⑥ | | 実習 |
| | 17 | 臨床体験実習⑦ | | 実習 |
| | 18 | 臨床体験実習⑧ | | 実習 |

【科目】 臨床実習Ⅱ 【早期臨床体験実習Ⅱ】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|-----------|-------|
| 配当年次 | 2 学年 | 主担当教員 | 三浦 洋 | |
| 単位数 | 1 単位 | | (みうら ひろし) | |
| 開講学期 | 通期 | 授業形態・回数 | 臨床実習 | 45 時間 |

【授業情報】

| | |
|--------------------|---|
| 授業概要 | 学内の附属施術所や外部の施術所、呉竹メディカルクリニック、学外の診療所、大学附属病院などの現代西洋医学の医療施設、および介護関連施設（デイケア、デイサービス等）、スポーツ関連施設での見学実習を行う。医療・介護・スポーツ現場の見学を通じて、医療人としてのあん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の役割について理解し、どのように医療に係わるべきかを学習することを目的とする。 |
| 授業の一般目標 (G I O) | 将来あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師として自立するために、事業形態や事業内容について見学・体験をすることにより、将来の活躍の場となる自分の姿を想起し、医療人としての自覚を高める。また臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに臨床に必要な知識と技能の基本を習得する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|---|
| 教科書 | — |
| 参考書 | — |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを下記の内容を総合的に判断する。 自ら選択した全ての事業所への出席を必要とする。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準（評価割合：％） 1. レポート提出と実習参加：100% |
| 履修の条件 留意点 | レポート提出と実習参加の評価を合計して 60%以上により履修とする。 この科目は専門分野・臨床実習・臨床実習Ⅱの単位として認定される。 |
| 担当教員 |  <p>★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先での行動内容の確認や身だしなみのチェックは事前に行うこと。 2. 実習終了後は、行動や実習内容等を各自で十分に振り返り、ポートフォリオの作成を行い、後日指示に従って提出すること。 3. 全ての臨床実習の出席前に<u>欠席・遅刻となる事象が発生した場合は</u>、事象が判明した時点で直ちに担任・副担任・臨床実習責任者へ連絡すること。 4. 自身の健康管理に留意すること。 5. 各自に手渡される「臨床実習日一覧表」を確認して、指定された実習日・集合時間に遅れることの無いよう実習先に到着すること。 |
| オフィスアワー | 質問がある場合は、事前にご相談ください。 |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|---|--|--------------|
| 通期 | | <p>1. 学外施設での見学実習</p> <p>①学外での診療所・病院での外来 見学実習</p> <p>②スポーツ関連施設での見学実習</p> <p>③介護老人保健施設での見学実習</p> <p>④スポーツ関連イベントにおけるケアステーション活動での見学実習</p> <p>1) 2～8時間/施設(イベント)の見学 実習を行う。</p> <p>2)指導者の下で、施術、一般業務 を観察する。また、施設内の付帯 業務の補助、状況によっては施術 補助を行う。</p> <p>3)指定のポートフォリオを作成し 提出する。</p> <p>2.カンファレンス ※指導担当者が必要と判断した場 合に実施する。</p> <p>1)観察・施術補助した症例あるい は与えられた課題疾患について調 べる。</p> <p>2)指導者と症例あるいは課題につ いて討論して意見交換を行う。</p> <p>3)指定のポートフォリオを作成し 提出する。</p> <p>3.振り返り</p> <p>1)上記 1、2 で提出したポートフ ォリオから指定された課題につい てKJ法により各自抽出し、グル ープ内で共通事項をまとめる。</p> <p>2)課題について発表する。</p> <p>3)討論して意見交換を行う。</p> <p>4.症例検討会</p> <p>1)3年生が臨床実習で作成した症 例報告を発表する 1年生、2年 生、3年生合同の症例検討会に参 加する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・早期臨床体験実習Ⅱの意義と目的を理解できる。 ・能動的・積極的な姿勢で実習に参加できる。 ・体験して感じたこと振り返り、考える習慣を身につけることができる。 ・医療人として相応しい行動を実践できる。 ・各施設の役割、地域における医療・福祉体制を理解できる。 ・患者、利用者、参加者、家族、スタッフと積極的かつ適切なコミュニケーションを図ることができる。 ・患者、利用者、参加者、家族、スタッフに対し、適切な接遇・共感的な態度を表現できる。 ・各施設・現場の専門家・スタッフの役割を理解し、共に働く意識を涵養できる。 ・医療者・患者・利用者関係における多様なコミュニケーションの重要性について討議できる。 | 臨床実習 又は演習 |

【科目】 臨床実習Ⅲ【外部施設臨床実習】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|----------|-------------|-------|
| 配当年次 | 2 学年 | 主臨床実習調整者 | 西岡 岳之 | |
| 単位数 | 1 単位 | | (にしおか たけゆき) | |
| 開講学期 | 通期 | 授業形態・回数 | 臨床実習 | 45 時間 |

【授業情報】

| | |
|-----------------|---|
| 授業概要 | <p>市中のあはき治療院での見学実習を行う。医療人としてのあん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の役割について理解し、どのように施術に係わるべきかを学習することを目的とする。</p> <p>実務経験のある臨床実習指導者講習会修了の開業鍼灸師の指導のもと臨床実習を行う。</p> |
| 授業の一般目標 (G I O) | <p>将来あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師として自立するために、事業形態や事業内容について見学・体験をすることにより、将来の活躍の場となる自分の姿を想起し、医療人としての自覚を高める。また臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに臨床に必要な知識と技能の基本を習得する。</p> |

【担当教員から】

| | |
|---|---|
| 教科書 | — |
| 参考書 | — |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを下記の内容を総合的に判断する。自ら選択した全ての事業所への出席を必要とする。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準（評価割合：％） 1. レポート提出と実習参加：100% |
| 履修の条件 留意点 | レポート提出と実習参加の評価を合計して 60%以上により履修とする。 この科目は専門分野・臨床実習・臨床実習Ⅲの単位として認定される。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） |
|  | <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先での行動内容の確認や身だしなみのチェックは事前に行うこと。 2. 実習終了後は、行動や実習内容等を各自で十分に振り返り、ポートフォリオの作成を行い、後日指示に従って提出すること。 3. 全ての臨床実習の出席前に欠席・遅刻となる事象が発生した場合は、事象が判明した時点で直ちに担任・副担任・臨床実習責任者へ連絡すること。 4. 自身の健康管理に留意すること。 5. 各自に手渡される「臨床実習日一覧表」を確認して、指定された実習日・集合時間に遅れることの無いよう実習先に到着すること。 |
| オフィスアワー | 質問がある場合は、事前にご相談ください。 |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|---|--|--------------|
| 通期 | | <p>1. 事前カンファレンス</p> <p>1) 市中施術所について、紹介動画、ホームページなどで事前学習をする。(外観、1日の業務の流れ、施術法や治療機器など)</p> <p>2) 事前学習をもとに、自らの将来像を考え、実習先を選択する。</p> <p>3) 実習の注意点、持ち物、レポート課題、緊急時の連絡を確認する。</p> <p>2. 市中施術所での見学実習</p> <p>1) 4～8時間/施設の実習を行う。</p> <p>2) 指導者のもとで、施術、業務を観察する。また、施術所内の付帯業務の補助、状況によっては施術補助を行う。</p> <p>3) 指定のポートフォリオを作成し提出する。</p> <p>3. カンファレンス</p> <p>※指導担当者が必要と判断した場合に実施する。</p> <p>1) 観察・施術補助した症例あるいは与えられた課題疾患について調べる。</p> <p>2) 指導者と症例あるいは課題について討論して意見交換を行う。</p> <p>3) 指定のポートフォリオを作成し提出する。</p> <p>4. 振り返り</p> <p>提出したポートフォリオを学内の臨床実習担当者と意見交換し評価を受ける。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部施設臨床実習の意義と目的を理解できる。 ・ 能動的・積極的な姿勢で実習に参加できる。 ・ 体験して感じたこと振り返り、考える習慣を身につけることができる。 ・ 医療人として相応しい行動を実践できる。 ・ 各施設の役割、地域における医療・福祉体制を理解できる。 ・ 患者、利用者、参加者、家族、スタッフと積極的かつ適切なコミュニケーションを図ることができる。 ・ 患者、利用者、参加者、家族、スタッフに対し、適切な接遇・共感的な態度を表現できる。 ・ 各施設・現場の専門家・スタッフの役割を理解し、共に働く意識を涵養できる。 ・ 医療者・患者・利用者関係における多様なコミュニケーションの重要性について討議できる。 | 臨床実習 又は演習 |

【科目】臨床総合講座Ⅱ【臨床医学各論Ⅱ】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|------------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員 | 池崎 園江 | |
| 単位数 | 1 単位 | | (いけざき そのえ) | |
| 開講学期 | 3 学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 12 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|---|
| 授業概要 | あはき臨床でも遭遇する疾患のあはき治療の適応と不適応の鑑別ができる能力を取得するために、各疾患の概念、原因、主症状、検査所見、予後について学習していく。 また、臨床に必要な診察および治療に関する医学知識ならびに技能の概要を理解する。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | あはき臨床において遭遇する不適応を判定できる能力を習得するために、不適応疾患の特徴や病歴聴取のポイントを理解する。 また、診察学の概要を理解し、診察の方法と応用を概説できる。 |

【担当教員から】

| | |
|---|--|
| 教科書 | 1. 「臨床医学各論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) |
| 参考書 | 1. 「臨床医学総論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、定期試験により評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法(評価割合: %) 定期(到達目標達成確認)試験: 100% |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験(卒業試験)の「臨床医学各論」の範囲の評価 60%以上により履修とする。 【卒業試験対象科目】この科目は総合領域・臨床総合講座Ⅱの単位として認定されま す。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ) 授業内容は実技科目と臨床実習が関連するため、積極的な学習姿勢が望まれます。 |
|  | |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12:45~13:00 3F 教員室 |

【授業計画】

| | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|-----|----|----------------|---|------|
| 3学期 | 1 | 循環器系疾患① | 循環器系疾患 (心臓疾患・冠動脈疾患・動脈疾患・血圧異常) についての概要が説明できる。 | 講義 |
| | 2 | 循環器系疾患② | | 講義 |
| | 3 | 循環器系疾患③ | | 講義 |
| | 4 | 循環器系疾患④ | | 講義 |
| | 5 | 循環器系疾患⑤ | | 講義 |
| | 6 | 血液・造血器系疾患① | 血液・造血器系疾患 (赤血球疾患・白血球疾患・リンパ網内系疾患・出血性素因) についての概要が説明できる。 | 講義 |
| | 7 | 血液・造血器系疾患② | | 講義 |
| | 8 | 血液・造血器系疾患③ | | 講義 |
| | 9 | 血液・造血器系疾患④ | | 講義 |
| | 10 | まとめ | | 講義 |
| | 11 | 期末(到達目標達成確認)試験 | | 試験 |
| | 12 | 期末試験の解説・解答 まとめ | | 講義 |
| | 13 | 学年末試験 | | 試験 |

【科目】 形態機能学Ⅲ 【解剖学演習】

【基本情報】

| | | | | |
|------|-------|---------|-----------|----|
| 配当年次 | 3 学年 | 担当教員 | 李 英俊 | |
| 単位数 | 3 単位 | | (い よんじゅん) | |
| 開講学期 | 1～3 期 | 授業形態・回数 | 講義演習 | 36 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | 生体の構造機能を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な構造機能が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造機能を学んでいく。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の機能について理解するとともに、その評価方法についても学習する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|---|
| 教科書 | 1. 「解剖学」第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) |
| 参考書 | 1. 「人体の正常構造と機能」 日本医事新報社 |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験の「解剖学」の範囲の結果で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法 (評価割合 : %) 期末試験 : 100% |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験 (卒業試験) の解剖学の範囲の評価 60%以上により履修とする。【卒業試験対象科目】この科目は専門基礎分野・人体の構造と機能・形態機能学Ⅲ・人体構造学演習の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ) HR での講義形式にて、機能・用語の理解に重点を置き、解説を行います。成績不良者もしくは希望者については適宜補習を行う予定です。授業中の私語、携帯電話などの不必要な使用に関しては対処します。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12 : 45～13 : 00 3 F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|---------|---------------------|--|--------------------|
| 1期 | 1 | 細胞の構造・細胞分裂と遺伝子 | 細胞の構造と細胞分裂・遺伝子について説明することができる | 講義 |
| | 2 | 組織 1 (上皮組織_結合組織) | 上皮組織について器官ごとの特徴を説明することができる | 講義 |
| | 3 | 組織 2 (筋組織_神経組織) | 結合組織について器官ごとの特徴を説明することができる | 講義 |
| | 4 | 運動器系 1 | 体幹・上肢の骨について概説できる | 講義 |
| | 5 | 運動器系 2 | 下肢の骨・連結について概説できる | 講義 |
| | 6 | 運動器系 3 | 筋・神経・運動について概説できる | 講義 |
| | 7 | 運動器系 4 | 筋・神経・運動について概説できる | 講義 |
| | 8 | 運動器系 5 | 筋・神経・運動について概説できる | 講義 |
| | 9 | 運動器系 6 | 筋・神経・運動について概説できる | 試験 |
| | 10 | まとめ | | 講義 |
| | 11 | 期末試験 | | 試験 |
| | | 12 | 期末試験の解説・解答・まとめ | 到達目標達成のために各自で評価を行う |
| 2期 | 13 | 循環器系の構造 1 | 血管系概論・心臓について説明できる | 講義演習 |
| | 14 | 循環器系の構造 2 | 動脈系・静脈系・リンパ系・胎児循環について説明できる | 講義演習 |
| | 15 | 呼吸器系の構造 | 呼吸器系 (鼻腔・喉頭・気管・肺) について説明できる | 講義演習 |
| | 16 | 消化器系の構造 1 | 消化器系 (中腔性臓器) について説明できる | 講義演習 |
| | 17 | 消化器系構造 2 | 消化器系 (実質性臓器) について説明できる | 講義演習 |
| | 18 | 泌尿器系の構造 | 泌尿器 (腎臓・尿管・膀胱・尿道) について説明できる | 講義演習 |
| | 19 | 生殖器系の構造 | 男性生殖器・女性生殖器について説明できる | 講義演習 |
| | 20 | 内分泌系の構造 | 内分泌器系について説明できる | 講義演習 |
| | 21 | 感覚器系の構造 | 感覚器系について説明できる | 講義演習 |
| | 22 | 体幹部の構造 | 体幹の運動器について説明できる | 講義演習 |
| | 23 | 上肢の構造 | 上肢の運動器について説明できる | 講義演習 |
| 3期 | 24 | 下肢の構造 | 下肢の運動器について説明できる | 講義演習 |
| | 25 | 頭部・頸部の構造 | 顔面部・頸部の運動器について説明できる | 講義演習 |
| | | 定期試験 (一次卒業試験) | | 試験 |
| | 26 | 試験の解説・解答・まとめ | 到達目標達成のために各自で評価を行う | |
| | 27 | 問題演習① | 四者択一の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。 | 演習 |
| | 28 | 問題演習② | | 演習 |
| | 29 | 問題演習③ | | 演習 |
| | 30 | 問題演習④ | | 演習 |
| | 31 | 問題演習⑤ | | 演習 |
| | 32 | 問題演習⑥ | | 演習 |
| | 33 | 問題演習⑦ | | 演習 |
| | | 定期試験 (二次卒業試験) | | 試験 |
| | 34 | 試験の解説・解答・まとめ | 到達目標達成のために各自で評価を行う | |
| 35 | まとめ演習 1 | 四者択一の解答を導き出すことができる。 | 演習 | |
| 36 | まとめ演習 2 | | 演習 | |

【基本情報】

| | | | | |
|------|--------|---------|-------------|------|
| 配当年次 | 3 学年 | 担当教員 | 福本 彩季 | |
| 単位数 | 3 単位 | | (ふくもと あき) | |
| 開講学期 | 1~3 学期 | 授業形態・回数 | 講義演習 | 36 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | 生体の機能を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な機能が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な機能を学んでいく。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の機能について学習するとともに、その評価方法についても学習する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|--|
| 教科書 | 1. 「生理学」第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) |
| 参考書 | 1. 「標準生理学」 医学書院 2. 「人体の正常構造と機能」 日本医事新報社 |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験、卒業試験を総合的に評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法(評価割合: %) 期末試験: 100% |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験(卒業試験)の生理学の範囲の評価 60%以上により履修とする。【卒業試験対象科目】この科目は専門基礎分野・人体の構造と機能・形態機能学Ⅳ・人体機能学演習の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ) HR での講義形式にて、機能・用語の理解に重点を置き、解説を行います。成績不良者もしくは希望者については適宜補習を行う予定です。授業中の私語、携帯電話などの不必要な使用に関しては対処します。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12:45~13:00 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 | |
|-----|---------------|---------------|--|----------------------|----|
| 1 期 | 1 | 身体活動の協調 1 | 生体の適応・ホメオスタシス・循環調節・体液・血糖値・体温・バイオリズムについて各器官系について説明できる | 講義 | |
| | 2 | 身体活動の協調 2 | | 講義 | |
| | 3 | 身体活動の協調 3 | | 講義 | |
| | 4 | 生体の防御機構 1 | 生体の防御機構について説明できる | 講義 | |
| | 5 | 生体の防御機構 2 | | 講義 | |
| | 6 | 代謝 1 | A T P 産生の過程と運動の仕組みを説明できる | 講義 | |
| | 7 | 代謝 2 | 栄養・代謝・産熱について説明できる | 講義 | |
| | 8 | 神経 1 | 神経系の機能を説明できる | 講義 | |
| | 9 | 神経 2 | | 試験 | |
| | 10 | 神経 3 | | 講義 | |
| | | 11 | 期末試験 | | 試験 |
| | | 12 | 期末試験の解説・解答・まとめ | 到達目標を達成するために各自で評価を行う | 実習 |
| 2 期 | 13 | 生理学の基礎 | 体液の pH・浸透圧について各器官の働きを説明できる | 講義演習 | |
| | 14 | 循環のしくみ 1 | 血液と循環器系の働きを説明できる | 講義演習 | |
| | 15 | 循環のしくみ 2 | | | |
| | 16 | 呼吸のしくみ | 呼吸器系の働きを説明できる | 講義演習 | |
| | 17 | 消化と吸収のしくみ | 消化器系の働きを説明できる | 講義演習 | |
| | 18 | 腎臓のはたらき | 泌尿器系の働きを説明できる | 講義演習 | |
| | 19 | 内分泌のはたらき | 内分泌系の働きを説明できる | 講義演習 | |
| | 20 | 神経のはたらき 1 | 中枢神経系・末梢神経系の働きを説明できる | 講義演習 | |
| | 21 | 神経のはたらき 2 | | 講義演習 | |
| | 22 | 運動 1 | 筋と運動のしくみを説明できる | 講義演習 | |
| | 23 | 運動 2 | | 講義演習 | |
| 3 期 | 24 | 感覚 1 | 感覚について説明できる | 講義演習 | |
| | 25 | 感覚 2 | | 講義演習 | |
| | | 期末試験 (一次卒業試験) | | 試験 | |
| | 26 | 試験の解説・解答・まとめ | 到達目標達成のために各自で評価を行う | 実習 | |
| | 27 | 問題演習① | 四者択一の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。 | 演習 | |
| | 28 | 問題演習② | | 演習 | |
| | 29 | 問題演習③ | | 演習 | |
| | 30 | 問題演習④ | | 演習 | |
| | 31 | 問題演習⑤ | | 演習 | |
| | 32 | 問題演習⑥ | | 演習 | |
| | 33 | 問題演習⑦ | | 演習 | |
| | 期末試験 (二次卒業試験) | | 試験 | | |
| | 34 | 試験の解説・解答・まとめ | 到達目標達成のために各自で評価を行う | 実習 | |
| | 35 | まとめ演習 1 | 四者択一の解答を導き出すことができる | 演習 | |
| | 36 | まとめ演習 2 | | | |

【科目】臨床医学Ⅱ【病理学概論】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|--------------|------|
| 配当年次 | 3 学年 | 担当教員 | 山本 寛 | |
| 単位数 | 1 単位 | | (やまもと ひろし) | |
| 開講学期 | 1 学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 12 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | 病理学とは、生体に起こる病的な状態、すなわち疾病の本態を解明する学問です。疾病はその成り立ちから、先天異常、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍の五つの病変カテゴリーに分類されますが、それらの病変カテゴリーを学び、疾病を起こす原因、それぞれの疾病で生じる変化、その経過、疾病がたどる転帰を総合的にとらえるように学んでいく。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 疾病の全体像、すなわち原因、経過、治療法、予後、および結末を総合的に理解するために、疾病における形態と機能の変化、および本態を学習する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|---|
| 教科書 | 1. 「病理学概論」第2版；東洋療法学校協会編,医歯薬出版(株) |
| 参考書 | |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法（評価割合：％） 期末試験：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験評価で 60%以上で履修とする。この科目は専門基礎分野・疾病の成り立ちとその予防及び回復の促進・臨床医学Ⅱの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 授業では、ノートをとるだけでなく、話をよく聞くことに努めてください。疾病各論の基礎となる科目ですので、各論の理解のためにも十分な学習が必要です。そのためにも、教科書は講義内容が理解できるようによく読んで準備してください。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12 : 45 ~ 13 : 00 3 F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|---|---|------|
| 1期 | 1 | 病理学とはどのような学問か 疾病についての基本的な考え方 病因① 内因 (素因・遺伝・内分泌・免疫・心因性疾患) | 病理学とはどのような学問かを理解できる。 疾病についての基本的な考え方を説明できる。 内因についてそれぞれ説明できる。 | 講義 |
| | 2 | 免疫異常・アレルギー 1)免疫の一般 2)液性免疫と細胞性免疫 3)アレルギーの分類 4)免疫不全 5)自己免疫疾患 | 免疫異常・アレルギーについてそれぞれ説明できる。 | 講義 |
| | 3 | 病因② 外因 1)栄養素の供給障害 2)物理的病因 3)化学的病因 4)生物学的病因 5)小児の疾患 | 外因についてそれぞれ説明できる。 | 講義 |
| | 4 | 循環障害① 1)ヒトの循環器系 2)充血・うっ血 3)貧血・虚血 4)出血 | 循環障害についてそれぞれ説明できる。 | 講義 |
| | 5 | 循環障害② 5)血栓症 6)塞栓症 7)梗塞 8)水腫・浮腫・脱水 9)ショック | | 講義 |
| | 6 | 退行性病変 1)萎縮 2)変性 3)壊死と死 進行性病変 1)肥大と増殖 2)再生 3)化生 4)移植 5)創傷治癒・組織内異物の処理 | 退行性病変についてそれぞれ説明できる。 進行性病変についてそれぞれ説明できる。 | 講義 |
| | 7 | 炎症 1)炎症の一般 2)炎症の分類 | 炎症についてそれぞれ説明できる。 | 講義 |
| | 8 | 腫瘍① 1)腫瘍の一般 | 腫瘍についてそれぞれ説明できる。 | 講義 |
| | 9 | 腫瘍② 2)良性腫瘍 3)悪性腫瘍 | | 講義 |
| | 10 | 先天性異常 1)先天性異常総論 2)遺伝性疾患 3)染色体異常 | 先天性異常について説明できる。 遺伝性疾患について説明できる。 染色体異常について説明できる。 | 講義 |
| | 11 | 期末試験 | | 試験 |
| | 12 | 期末試験の解説・解答 まとめ | | 講義 |

【科目】臨床医学Ⅲ【臨床医学各論演習】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|------------|-----|
| 配当年次 | 3学年 | 担当教員 | 池崎 園江 | |
| 単位数 | 2単位 | | (いけざき そのえ) | |
| 開講学期 | 2～3期 | 授業形態・回数 | 講義 | 24回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|---|
| 授業概要 | 今までに学んだ「臨床医学各論」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につけてもらいます。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 国家試験に合格するために、臨床医学各論について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|---|
| 教科書 | 「臨床医学各論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) |
| 参考書 | |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験(卒業試験)の「臨床医学各論」の範囲の結果で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定基準(評価割合:%) 1. 期末試験:100% |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験(卒業試験)の「臨床医学各論」の範囲の評価60%以上により履修とする。 【卒業試験対象科目】この科目は疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進・臨床医学Ⅲの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ) 1. 今までに学んだ「臨床医学各論」の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておくこと。 2. 授業前に各単元の問題を配付し、各自事前に問いてきたものを基に、総復習をして行きます。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の12:45～13:00 3F教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 | |
|----------|-------------|------------------|--|------|----|
| 2・3 期 | 1 | 循環器系疾患① | 循環器系疾患（心臓疾患・冠動脈疾患・動脈疾患・血圧異常）についての概要が説明できる。 | 講義 | |
| | 2 | 循環器系疾患② | | 講義 | |
| | 3 | 循環器系疾患③ | | 講義 | |
| | 4 | 循環器系疾患④ | | 講義 | |
| | 5 | 血液・造血器系疾患① | 血液・造血器系疾患（赤血球疾患・白血球疾患・リンパ網内系疾患・出血性素因）についての概要が説明できる。 | 講義 | |
| | 6 | 血液・造血器系疾患② | | 講義 | |
| | 7 | 血液・造血器系疾患③ | | 講義 | |
| | 8 | 問題演習① | 問題演習をとおして、科目全体の履修内容を振り返ることで、類似した課題に取り組んだ際に、適切に正答を導き出すことができる。 | 講義 | |
| | 9 | 問題演習② | | 講義 | |
| | 10 | 問題演習③ | | 講義 | |
| | 11 | 問題演習④ | | 講義 | |
| | 12 | 問題演習⑤ | | 講義 | |
| | 13 | 問題演習⑥ | | 講義 | |
| | 14 | 問題演習⑦ | | 講義 | |
| | | | 期末試験 (一次卒業試験) | | 試験 |
| | 15 | 期末試験フィードバック | | | 講義 |
| | 16 | 問題演習⑧ | 問題演習をとおして、科目全体の履修内容を振り返ることで、類似した課題に取り組んだ際に、適切に正答を導き出すことができる。 | | 講義 |
| | 17 | 問題演習⑨ | | 講義 | |
| | 18 | 問題演習⑩ | | 講義 | |
| | 19 | 問題演習⑪ | | 講義 | |
| | 20 | 問題演習⑫ | | 講義 | |
| | 21 | 問題演習⑬ | | 講義 | |
| | 22 | 問題演習⑭ | | 講義 | |
| | 23 | 問題演習⑮ | | 講義 | |
| | | 期末試験 (二次卒業試験) | | 試験 | |
| 24 | 期末試験フィードバック | | | 講義 | |

【科目】臨床医学Ⅳ【臨床医学（臨各Ⅲ・臨総、病理演習）】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|------------|------|
| 配当年次 | 3 学年 | 担当教員 | 池崎 園江 | |
| 単位数 | 1 単位 | | (いけざき そのえ) | |
| 開講学期 | 1 学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 12 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|---|
| 授業概要 | あはき臨床でも遭遇する疾患のあはき治療の適応と不適応の鑑別ができる能力を取得するために、各疾患の概念、原因、主症状、検査所見、予後について学習していく。 また、臨床に必要な診察および治療に関する医学知識ならびに技能の概要を理解する。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | あはき臨床において遭遇する不適応を判定できる能力を習得するために、不適応疾患の特徴や病歴聴取のポイントを理解する。 また、診察学の概要を理解し、診察の方法と応用を概説できる。 |

【担当教員から】

| | |
|---|---|
| 教科書 | 1. 「臨床医学各論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版（株） |
| 参考書 | 1. 「臨床医学総論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版（株） |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、定期試験により評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法（評価割合：％） 定期（到達目標達成確認）試験：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 定期（到達目標達成確認）試験の評価を合計して 60％以上で履修とする。この科目は専門基礎分野・疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進・臨床医学Ⅳの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 授業内容は実技科目と臨床実習が関連するため、積極的な学習姿勢が望まれます。 |
|  | |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3F教員室 |

【授業計画】

| | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|------|----|---|--|------|
| 1 学期 | 1 | 神経疾患① | 主な神経疾患（脳血管疾患、感染性疾患、脳・脊髄腫瘍、変性疾患、認知症性疾患、筋疾患、運動ニューロン疾患、末梢神経性疾患、神経痛、機能的疾患）について説明できる。 神経系の診察（各種検査法）について概説できる。 運動機能検査について概説できる。 | 講義 |
| | 2 | 神経疾患② | | 講義 |
| | 3 | 神経疾患③ | | 講義 |
| | 4 | 神経疾患④ | | 講義 |
| | 5 | リウマチ性疾患・膠原病① | 主なリウマチ性疾患について説明できる。 リウマチ性疾患に関する上肢の診察について説明できる。 免疫血清学的検査について説明できる。 | 講義 |
| | 6 | 膠原病② | | 講義 |
| | 7 | 膠原病③ | | 講義 |
| | 8 | 一般外科（損傷概論・ショック）、麻酔科（全身麻酔・局所麻酔・ペインクリニック） | 損傷概論について説明できる。 ショックについて説明できる。 救急処置・救急蘇生法について説明できる。 麻酔について説明できる。 ペインクリニックについて説明できる。 バイタルサインについて概説できる。 | 講義 |
| | 9 | 婦人科疾患（子宮筋腫・子宮癌・乳癌・更年期障害） 皮膚科（接触性皮膚炎・じんま疹・アトピー性皮膚炎） 眼科（目の診察・結膜炎・角膜炎・麦粒腫（ものもらい）・白内障・緑内障） 耳鼻科（メニエール病・中耳炎・突発性難聴・アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎） | 子宮筋腫、子宮癌、乳癌、更年期障害についてそれぞれ説明できる。 接触性皮膚炎、じんま疹、アトピー性皮膚炎についてそれぞれ説明できる。 目の診察、結膜炎、角膜炎、麦粒腫（ものもらい）、白内障、緑内障についてそれぞれ説明できる。 メニエール病、中耳炎、突発性難聴、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎についてそれぞれ説明できる。 | 講義 |
| | 10 | 小児科 精神科（神経症・統合失調症・躁鬱病（気分障害）） 心療内科（心身症・神経性食思不振症・神経性過食症） | 主な小児科疾患について説明できる。 神経症について説明できる。 統合失調症について説明できる。 躁鬱病（気分障害）について説明できる。 心身症、神経性食思不振症、神経性過食症について説明できる。 | 講義 |
| | 11 | 期末(到達目標達成確認)試験 | | 試験 |
| | 12 | 期末試験の解説・解答 | | 講義 |

【基本情報】

| | | | | |
|------|-----|---------|-----------|-----|
| 配当年次 | 3学年 | 担当教員 | 福本 彩季 | |
| 単位数 | 1単位 | | (ふくもと あき) | |
| 開講学期 | 1期 | 授業形態・回数 | 講義 | 12回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | リハビリテーションは運動機能、日常生活活動の能力の障害を回復させ、社会・環境への適応を促進するために必要な第4の医学と呼ばれる。ここでは、リハビリテーション医学を理解し、障害と障害者への対応の概念を疾患別に学ぶ。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | リハビリテーションの概念を理解するために、疾患別の障害の定義、分類について習得する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|--|
| 教科書 | 1. 『リハビリテーション医学』 学校協会編 |
| 参考書 | 1. 『標準リハビリテーション医学』 医学書院 2. 『理学療法ハンドブック』 協同医書出版社 3. 『障害と活動の測定・評価ハンドブック』 南江堂 |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験を総合的に評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法（評価割合：％） 期末試験：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験の評価を合計して60％以上で履修とする。この科目は専門基礎分野・疾病の成り立ちとその予防及び回復の促進・疾病治療論Ⅱ・リハビリテーション医学概論Ⅱの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） リハビリテーション医学は「人間たるにふさわしい状態になる」という意味です。中世では「名誉の回復」という法律用語として使用されてきました。従って、本学問は「人間たるにふさわしい状態になる」ために行うアプローチ（対応）の体系です。疾病や障害によって、出来ないことができるようになるといった単なる機能の回復という狭い意味ではなく、権利・資格・名誉の回復など人間らしく生きる権利の回復を目指すものです。 本科目を通じて、疾病や障害をもちながらもそこで生活する「その人」とどう関わり、その関わりから何を学ぶかをという基本姿勢を軸に学習してください。 また、授業毎に前回授業分の小テストを実施し、授業の習熟度を確認します。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の12：45～13：00 3F教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標（SBOs） | 講義形態 |
|----|----|---------------|--------------------------|------|
| 1期 | 1 | 各疾患のリハビリテーション | 脳卒中のリハビリテーションが説明できる。 | 講義 |
| | 2 | 各疾患のリハビリテーション | 脳卒中のリハビリテーションが説明できる。 | 講義 |
| | 3 | 各疾患のリハビリテーション | 脊髄損傷のリハビリテーションが説明できる。 | 講義 |
| | 4 | 各疾患のリハビリテーション | 脊髄損傷のリハビリテーションが説明できる。 | 講義 |
| | 5 | 各疾患のリハビリテーション | 切断のリハビリテーションが説明できる。 | 講義 |
| | 6 | 各疾患のリハビリテーション | 小児のリハビリテーションが説明できる。 | 講義 |
| | 7 | 各疾患のリハビリテーション | 小児のリハビリテーションが説明できる。 | 講義 |
| | 8 | 各疾患のリハビリテーション | パーキンソン病のリハビリテーションが説明できる。 | 講義 |
| | 9 | 各疾患のリハビリテーション | 呼吸器疾患のリハビリテーションが説明できる。 | 講義 |
| | 10 | 各疾患のリハビリテーション | 心疾患のリハビリテーションが説明できる。 | 講義 |
| | 11 | 期末試験 | | 試験 |
| | 12 | 期末試験の解説・解答まとめ | | 講義 |

【基本情報】

| | | | | |
|------|-------|---------|-----------|------|
| 配当年次 | 3 学年 | 担当教員 | 福本 彩季 | |
| 単位数 | 2 単位 | | (ふくもと あき) | |
| 開講学期 | 2・3 期 | 授業形態・回数 | 講義 | 24 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|---|
| 授業概要 | 今までに学んだ「リハビリテーション医学概論Ⅰ・Ⅱ」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につけてもらいます。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 国家試験に合格するために、リハビリテーション医学について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|---|
| 教科書 | 『リハビリテーション医学』東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) |
| 参考書 | 『標準リハビリテーション医学』医学書院 |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験(卒業試験)の「リハビリテーション医学」の範囲の結果で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定基準(評価割合: %) 1. 期末試験: 100% |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験(卒業試験)の「リハビリテーション医学」の範囲の評価 60%以上により履修とする。【卒業試験対象科目】この科目は専門基礎分野・疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進・疾病治療論Ⅱ・リハビリテーション医学概論演習の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ) 1. 今までに学んだ「リハビリテーション医学概論Ⅰ・Ⅱ」の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておくこと。 2. 授業前に各単元の問題を配付し、各自事前に問いてきたものを基に、総復習をして行きます。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12:45~13:00 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 | |
|----------|-----|-------------------------------|---|-------|----|
| 2・3 期 | 1 | リハビリテーションの概要 | リハビリテーションの基本理念について概説できる。 国際生活機能分類について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 2 | リハビリテーション医学と医療 | リハビリテーション医学の概要について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 3 | 障害の評価① | 心身機能・身体構造の評価について概説できる。 活動の評価について概説できる。 合併症の評価について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 4 | 障害の評価② | 運動年齢テストについて概説できる。 高次脳機能評価について概説できる。 摂食嚥下障害の評価について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 5 | 医学的リハビリテーション | 理学療法について概説できる。 作業療法について概説できる。 言語聴覚療法について概説できる。 装具療法について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 6 | 脳卒中のリハビリテーション | 脳卒中のリハビリテーションについて概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 7 | 脊髄損傷のリハビリテーション | 脊髄損傷のリハビリテーションについて概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 8 | 切断のリハビリテーション | 切断のリハビリテーションについて概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 9 | 小児のリハビリテーション | 小児のリハビリテーションについて概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 10 | 骨関節疾患、関節リウマチ のリハビリテーション | 骨関節疾患のリハビリテーションについて概説できる。 関節リウマチのリハビリテーションについて概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 11 | 末梢神経障害のリハビリテーション | 末梢神経障害のリハビリテーションについて概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 12 | パーキンソン病、呼吸器、心疾患 のリハビリテーション | パーキンソン病のリハビリテーションについて概説できる。 呼吸器のリハビリテーションについて概説できる。 心疾患のリハビリテーションについて概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 13 | 運動学の基礎、身体各部の機能 | 運動学の基礎について概説できる。 身体各部の機能について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 14 | 正常歩行と異常歩行 | 正常歩行について概説できる。 異常歩行について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | | | 期末試験 (一次卒業試験) | | 試験 |
| | 15 | 問題演習① | 四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。 | | 演習 |
| | 16 | 問題演習② | | | 演習 |
| | 17 | 問題演習③ | | | 演習 |
| | 18 | 問題演習④ | | | 演習 |
| | 19 | 問題演習⑤ | | | 演習 |
| | 20 | 問題演習⑥ | | | 演習 |
| | 21 | 問題演習⑦ | | | 演習 |
| | 22 | 問題演習⑧ | | | 演習 |
| | 23 | 問題演習⑨ | | | 演習 |
| | | 期末試験 (二次卒業試験) | | 試験 | |
| 24 | まとめ | | | 講義 | |

【科目】あはき理論Ⅱ【あはき理論Ⅱ】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|-------------|------|
| 配当年次 | 3 学年 | 担当教員 | 川畑 充伸 | |
| 単位数 | 1 単位 | | (かわはた みつのぶ) | |
| 開講学期 | 1 期 | 授業形態・回数 | 講義 | 12 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | 鍼灸刺激に対する生体の反応を学ぶことで鍼灸施術の治効を理解する。刺激に対する感受性、反応(反射)、などの自然治癒力にかかわる西洋医学的な生体メカニズムを理解する |
| 授業の一般目標 (GIO) | 鍼灸施術の刺激に対する生体反応を理解するために、治効メカニズムを学修する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|---|
| 教科書 | 1. はりきゅう理論 東洋療法学校協会編 医道の日本社 |
| 参考書 | 1. 鍼灸医療安全ガイドライン 医歯薬出版(株) |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、年間の定期試験を総合的に評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法(評価割合: %) 定期試験: 100% |
| 履修の条件 留意点 | 定期(到達目標達成確認)試験の評価を合計して 60%以上で履修とする。この科目は専門分野・臨床あん摩マッサージ指圧学・臨床はり学・臨床きゅう学・治効理論Ⅱの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ) HR での講義形式にて、機能・用語の理解に重点を置き、解説を行います。成績不良者もしくは希望者については適宜補習を行う予定です。授業中の私語、携帯電話などの不必要な使用に関しては対処します。 なお、本科目の単位取得のためには、授業の 70%以上の出席が必要ですので、体調管理をしっかり行い、出欠には十分に留意してください。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12:45~13:00 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標（SBOs） | 講義形態 |
|----|----|---|--|------|
| 1期 | 1 | 鍼灸治効機序 1. はじめに 2. 鍼鎮痛 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 鍼鎮痛の概要について説明できる。 ・ 内因性痛覚抑制系－全身性鎮痛－、－脊髄分節性鎮痛－について説明できる。 ・ 末梢性鎮痛について説明できる。 ・ 鍼鎮痛の個人差について説明できる。 | 講義 |
| | 2 | 鍼灸治効機序 3. 循環系と鍼灸 4. 運動系と鍼灸 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 皮膚循環と鍼灸の関わりについて説明できる。 ・ 筋循環と鍼灸の関わりについて説明できる。 ・ 心拍数及び血圧と鍼灸の関わりについて説明できる。 ・ 侵害刺激による運動反射の抑制について説明できる。 ・ 振動刺激による運動反射について説明できる。 ・ 自原抑制と拮抗抑制による筋緊張の抑制について説明できる。 | 講義 |
| | 3 | 鍼灸治効機序 5. 消化器系と鍼灸 6. 泌尿器系と鍼灸 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒト消化管機能障害に対する鍼灸治療について説明できる。 ・ 消化管運動に対する鍼灸の作用について説明できる。 ・ ヒト下部尿路機能障害に対する鍼灸治療について説明できる。 ・ 下部尿路機能と鍼灸について説明できる。 | 講義 |
| | 4 | 鍼灸治効機序 7. リラクゼーションと鍼灸 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 鍼灸によるリラクゼーション効果について説明できる。 ・ 脳波を用いたリラクゼーション効果について説明できる。 ・ 脳報酬系に対する鍼灸の作用について説明できる。 | 講義 |
| | 5 | 鍼灸治効機序 8. 生体防御系と鍼灸 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 神経系による免疫系の調整について説明できる。 ・ 内分泌系による免疫系調整について説明できる。 ・ 鍼灸刺激による自然免疫の調整について説明できる。 ・ 鍼灸刺激による獲得免疫の調整について説明できる。 | 講義 |
| | 6 | 鍼灸治効機序と臨床の接点 1. 刺激部位 2. 刺激入力 3. 鍼灸刺激による治効機序 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 刺激部位と腧穴の関係・解釈について説明できる。 ・ 受容器、・効果器、として、ポリモーダル受容器について説明できる。 ・ 受容器と神経線維について説明できる。 ・ 刺入深度について説明できる。 ・ 局所治療における、鎮痛作用、循環促進作用、筋緊張緩和作用について説明できる。 ・ 遠隔治療における、鎮痛作用、内臓機能の調節、精神機能、内分泌系及び生体防御系の調節について説明できる。 | 講義 |
| | 7 | あま指の生体に及ぼす作用 運動法の生体に及ぼす作用、 按摩・マッサージ・指圧の治 療効果 | あま指が各組織・器官に及ぼす作用について概説できる。 運動法が生体に及ぼす作用について概説できる。 あま指の治療効果について概説できる。 | 講義 |
| | 8 | あま指と東洋医学 | あま指の基本手技について概説できる。 古法按摩と導引について概説できる。 | 講義 |
| | 9 | あま指の応用分野 | 運動法・結合組織マッサージ・リンパドレナージについて概説できる。 あま指がどのような分野で用いられているかについて概説できる。 併用する物理療法の効果と相乗効果について概説できる。 | 講義 |
| | 10 | あま指の臨床応用とリスク管 理 あま指治効の基礎 | あま指の適応疾患（症状）と禁忌疾患（症状）について概説できる。 あま指のリスク管理について概説できる。 あま指治効の基礎について概説できる。 | 講義 |
| | 11 | 期末(到達目標達成確認)試験 | | 試験 |
| | 12 | 期末試験の解説・解答まとめ | | 講義 |

【科目】あはき臨床診察学Ⅳ【臨床医学総論演習】

【基本情報】

| | | | | |
|------|-----|---------|-----------|-----|
| 配当年次 | 3学年 | 担当教員 | 三浦 洋 | |
| 単位数 | 1単位 | | (みうら ひろし) | |
| 開講学期 | 3学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 12回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|---|
| 授業概要 | 今までに学んだ「臨床医学総論」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につけてもらいます。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 国家試験に合格するために、臨床医学総論について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。 |

【担当教員から】

| | |
|---|--|
| 教科書 参考書 | 「臨床医学総論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験(卒業試験)の「臨床医学総論」の範囲の結果で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法(評価割合:%) 期末試験:100% |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験(卒業試験)の「臨床医学総論」の範囲の評価60%以上により履修とする。 【卒業試験対象科目】この科目は専門基礎分野・疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進・臨床医学Ⅳの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ) |
|  | <ol style="list-style-type: none"> 今までに学んだ「臨床医学総論」の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておくこと。 授業前に各単元の問題を配付し、各自事前に問いてきたものを基に、総復習をしていきます。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の12:45~13:00 3F教員室 |

【授業計画】

| | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|-------------|--------------------------------|---|----------|
| 3期 | 1 | 問題演習① | <p>四者択一問題の解答を導き出すことができる。</p> <p>誤解答の場合、その理由を理解することができる。</p> | 講義・演習 |
| | 2 | 問題演習② | | 講義・演習 |
| | 3 | 問題演習③ | | 講義・演習 |
| | 4 | 問題演習④ | | 講義・演習 |
| | 5 | 問題演習⑤ | | 講義・演習 |
| | 6 | 問題演習⑥ | | 講義・演習 |
| | 7 | 問題演習⑦ | | 講義・演習 |
| | 8 | 問題演習⑧ | | 講義 演習 |
| | 1/13 (土) | <p>期末試験</p> <p>(二次卒業試験)</p> | 試験 | |
| | 9 | <p>期末試験</p> <p>(二次卒業試験) 解説</p> | 講義 | |
| | 10 | 問題演習⑨ | <p>四者択一問題の解答を導き出すことができる。</p> <p>誤解答の場合、その理由を理解することができる。</p> | 講義・演習 |
| | 11 | 問題演習⑩ | | 講義・演習 |
| 12 | まとめ | 講義・演習 | | |

【科目】 社会あはき学 I 【社会あはき学】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|------------|------|
| 配当年次 | 3 学年 | 担当教員 | 足立 昌彦 | |
| 単位数 | 1 単位 | | (あだち まさひこ) | |
| 開講学期 | 1 期 | 授業形態・回数 | 講義 | 12 回 |

【授業情報】

| | |
|---------------|--|
| 授業概要 | 現代社会において、特に高齢者、子ども、女性、スポーツ傷害に対するあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の業務、役割、特有な疾患の治療について概説します。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 現代社会において鍼灸、按摩・マッサージ・指圧治療の需要が増えている高齢者、子ども、女性、スポーツ傷害の治療に対応するために、その世代や状況にみられる身体の特徴や特有な疾患について学び、安全かつ有効に治療するための知識を習得する。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|---|
| 教科書 | 1. 社会あはき学：東洋療法学校協会 編 2. 東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉：東洋療法学校協会 編 |
| 参考書 | 1. 『コメディカルのための専門基礎分野テキスト』老年医学：中外医学社 |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験を総合的に評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法（評価割合：％） 期末試験：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験の評価を合計して 60%以上で履修とする。この科目は専門分野・社会あはき学 I の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 1. 授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。 2. 授業では、ノートをとるだけでなく、話をよく聞くこと。 3. 東洋医学・現代医学の両側面から授業を行うことがあるので、混同しないように注意して下さい。 4. 体調管理をしっかりと行い、授業の出席には十分留意して下さい。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標（SBOs） | 講義形態 |
|----|----|--------------------|-----------------------------|------|
| 1期 | 1 | 高齢社会におけるあはき師の役割① | 高齢者特有の疾患の特徴、症状、治療を列挙できる。 | 講義 |
| | 2 | 高齢社会におけるあはき師の役割② | | 講義 |
| | 3 | 高齢社会におけるあはき師の役割③ | | 講義 |
| | 4 | スポーツ傷害に対するあはき師の役割① | 身体各部のスポーツ傷害の特徴、症状、治療を列挙できる。 | 講義 |
| | 5 | スポーツ傷害に対するあはき師の役割② | | 講義 |
| | 6 | スポーツ傷害に対するあはき師の役割③ | | 講義 |
| | 7 | 小児の健康管理 | 小児特有の疾患の特徴、症状、治療を列挙できる。 | 講義 |
| | 8 | 女性の健康管理① | 女性特有の疾患の特徴、症状、治療を列挙できる。 | 講義 |
| | 9 | 女性の健康管理② | | 講義 |
| | 10 | 女性の健康管理③ | | 講義 |
| | 11 | 期末試験 | | 試験 |
| | 12 | 期末試験の解説・解答 まとめ | | 講義 |

【科目】社会あはき学Ⅱ【関係法規】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|-----------|------|
| 配当年次 | 3 学年 | 担当教員 | 相田 典子 | |
| 単位数 | 1 単位 | | (あいだ のりこ) | |
| 開講学期 | 1 期 | 授業形態・回数 | 講義 | 12 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|---|
| 授業概要 | あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師という医療従事者としてわが国で活動していく上で必要な法律「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律（以下、あはき法）」上の規定を学んでいく。例えば、免許を申請するにはどのような書類が必要か、臨床の場である施術所に必要とされる要件は何か、広告できることなどを取り上げる。また医療の一翼を担う者として、医療法・医薬品医療機器等法・医師法など私達を取り巻く医療関係の法規を学ぶ。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 免許を与えられて施術を行う責任感を持てるように、あはき法や他の医療関係者の法規、医療関係の法規について理解する。 |

【担当教員から】

| | |
|---|---|
| 教科書 | 1. 「関係法規」第7版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) |
| 参考書 | |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法（評価割合：％） 期末試験：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験の評価60％以上で履修とする。 この科目は専門分野・社会あん摩マッサージ指圧学、社会はり学、社会きゅう学・社会あはき学Ⅱ・関係法規の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 授業では、ノートをとるだけでなく、話をよく聞くことに努めてください。 |
|  | |
| オフィスアワー | 授業開講日の12：45～13：00 3F教員室 |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|-------------------|---|------|
| 1期 | 1 | わが国の法の体系 | わが国の法規を優先順位の高いものから並べ、概説できる。 | 講義 |
| | 2 | あはき法① | あはき法による免許について概説できる。 あはき師として行える業務と行えない業務を説明できる。 あはきの施術所の構造設備・届出・行政指導について説明できる。 出張専業や滞在業務の届出について概説できる。 あはき法による広告の制限について説明できる。 あはき師に関わる罰金について説明できる。 | 講義 |
| | 3 | あはき法② | | 講義 |
| | 4 | あはき法③ | | 講義 |
| | 5 | あはき法④ | | 講義 |
| | 6 | あはき法⑤ | | 講義 |
| | 7 | あはき法⑥ | | 講義 |
| | 8 | 医師法・その他の医療関係者の身分法 | 医師法について説明できる。 その他の医療関係者の身分法を挙げ、概説できる。 | 講義 |
| | 9 | 医療法 | 医療法により規定されている医療施設を挙げ、概説できる。 | 講義 |
| | 10 | 医薬品医療機器等法 | 医薬品医療機器等法が規定しているものを挙げ、概説できる。 医薬品を分類できる。 | 講義 |
| | 11 | 期末試験 | | 試験 |
| | 12 | 期末試験の解説・解答まとめ | | 講義 |

【科目】 はき適応疾患実習Ⅱ 【はき適応疾患実習】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|------------------|------|
| 配当年次 | 3 学年 | 担当教員 | 堀部 豪 (実務経験あり) | |
| 単位数 | 2 単位 | | (ほりべ ごう) | |
| 開講学期 | 前・後期 | 授業形態・回数 | 講義・実習 | 36 回 |

【授業情報】

| | |
|--------------------|--|
| 授業概要 | 最終学年での応用実技授業として、臨床に出た際に直ぐに使える技術の習得を目指す授業です。2 年までの基本的な技術を踏まえて、種々の症候・疾患を想定して具体的な治療を実践するために開業または病院勤務されている教員・講師に教授してもらいます。 |
| 授業の一般目標 (G I O) | 臨床に出た際に直ぐに使える技術を習得するために、基礎理論をふまえて各疾患に対し、診察・診断・治療ができる。 |

【担当教員から】

| | |
|---|---|
| 教科書 | 1. 『東洋医学臨床論 はりきゅう編』；東洋療法学校協会編（医道の日本社） |
| 参考書 | 1. 『臨床医学各論』；東洋療法学校協会編（医師薬出版株式会社） 2. 『臨床医学総論』；東洋療法学校協会編（医師薬出版株式会社） 他、授業内で適宜提示します。 |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを期末試験にて判断する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法（評価割合：％） 期末試験：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験の評価を合計して 60％以上で履修とする。【実技認定試験対象科目】この科目は専門分野・鍼灸実習・はき適応疾患実習Ⅱの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 授業は各疾患に対し、現代医学と東洋医学両方の内容から行います。 『臨床医学各論』、『臨床医学総論』『東洋医学臨床論』などを参考に行います。 授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。授業では、ノートをとるだけでなく、話をよく聞くこと。 また、東洋医学的考察と現代医学的考察の両方を用います、混同しないようにしてください。 |
|  オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3 F 教員室 |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----------|----|-------------------|--|-------|
| 前期 後期 | 1 | 頭痛① | 頭痛に対する基本的な診察を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 2 | 頭痛② | 頭痛に対する治療を行うことができる。 | |
| | 3 | 耳鳴り・目眩・難聴① | 耳鳴り・目眩・難聴に対する基本的な診察を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 4 | 耳鳴り・目眩・難聴② | 耳鳴り・目眩・難聴に対する治療を行うことができる。 | |
| | 5 | 眼精疲労・眼痛 | 眼精疲労・眼痛に対する基本的な診察を行うことができる。 眼精疲労・眼痛に対する治療を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 6 | 顔面神経麻痺 | 顔面神経麻痺に対する基本的な診察を行うことができる。 顔面神経麻痺に対する治療を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 7 | 顔面痛 | 顔面痛に対する基本的な診察を行うことができる。 顔面痛に対する治療を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 8 | 鼻閉・鼻汁 | 鼻閉・鼻汁に対する基本的な診察を行うことができる。 鼻閉・鼻汁に対する治療を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 9 | 咳嗽・喉の痛み | 咳嗽・喉の痛みに対する基本的な診察を行うことができる。 咳嗽・喉の痛みに対する治療を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 10 | 歯痛 | 歯痛に対する基本的な診察を行うことができる。 歯痛に対する治療を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 11 | 腹痛・悪心嘔吐① | 腹痛・悪心嘔吐に対する基本的な診察を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 12 | 腹痛・悪心嘔吐② | 腹痛・悪心嘔吐に対する治療を行うことができる。 | |
| | 13 | 食欲不振 | 食欲不振に対する基本的な診察を行うことができる。 食欲不振に対する治療を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 14 | 下痢・便秘① | 下痢・便秘に対する基本的な診察を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 15 | 下痢・便秘② | 下痢・便秘に対する治療を行うことができる。 | |
| | 16 | まとめ | | 講義・実習 |
| | 17 | 期末試験 | | 試験 |
| | 18 | 期末試験の講評 まとめ | | 講義・実習 |
| | 19 | 婦人科疾患① | 婦人科疾患に対する基本的な診察を行うことができる。 婦人科疾患に対する治療を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 20 | 婦人科疾患② | | |
| | 21 | 婦人科疾患③ | | |
| | 22 | アレルギー疾患① | アレルギー疾患に対する基本的な診察を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 23 | アレルギー疾患② | アレルギー疾患に対する治療を行うことができる。 | |
| | 24 | 高血圧・低血圧 | 高血圧・低血圧に対する基本的な診察を行うことができる。 高血圧・低血圧に対する治療を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 25 | 皮膚疾患① | 皮膚疾患に対する基本的な診察を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 26 | 皮膚疾患② | 皮膚疾患に対する治療を行うことができる。 | |
| | 27 | 泌尿器疾患(排尿困難・頻尿など)① | 泌尿器症状に対する基本的な診察を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 28 | 泌尿器疾患(排尿困難・頻尿など)② | 泌尿器症状に対する治療を行うことができる。 | |
| | 29 | 不眠症① | 不眠症に対する基本的な診察を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 30 | 不眠症② | 不眠症に対する治療を行うことができる。 | |
| | 31 | 倦怠感・疲労 | 倦怠感・疲労に対する基本的な診察を行うことができる。 倦怠感・疲労に対する治療を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 32 | 高齢者疾患 | 高齢者疾患に対する基本的な診察を行うことができる。 高齢者疾患に対する治療を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 33 | 小児疾患 | 小児疾患に対する基本的な診察を行うことができる。 小児疾患に対する治療を行うことができる。 | 講義・実習 |
| | 34 | まとめ | | 講義・実習 |
| | 35 | 期末試験 | | 試験 |
| | 36 | 期末試験の講評 まとめ | | 講義・実習 |

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|--|-------|
| 配当年次 | 3 学年 | 担当教員 | 三浦 洋・足立昌彦・相田典子・坂本辰徳・川畑充伸・田中文枝・島田和樹・西岡岳之・武井良之・稲葉千里・平井顯徳・渋谷砂恵子 | |
| 単位数 | 1 単位 | | | |
| 開講学期 | 前・後期 | 授業形態・回数 | 臨床実習 | 45 時間 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | <p>外部治療院や学校付属施術所での臨床経験を活かして、あはき施術における基本的臨床能力を想起させるために付属施術所内にて臨床実習を行う。</p> <p>2年次までに学んだ知識や技能を、附属はり・きゅう施術所に通われている一般患者に対して、学生が診療チームの一員として参加し、教員・臨床実習指導者の指導のもとに許容される一定範囲のあはき施術を行い、将来あはき師となるために必要な知識、技能、態度を修得することを目指すものである。</p> |
| 授業の一般目標 (GIO) | <p>あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師としての自立に向け、施術チームの一員として教員の指導・監督の下、外来患者の診察、あはき治療の適不適の鑑別、治療計画、基本的治療技能、診療録への記録を含む患者マネジメントを実践し、臨床に携わる者としての態度、ならびに臨床能力の基礎を理解する。</p> |

【担当教員から】

| | |
|--------------|---|
| 教科書 | — |
| 参考書 | — |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを総合的に評価する。 |
| 成績評価方法 | <p>成績評価の算定方法（評価割合：％）</p> <p>ベッドサイド実習・カルテ作成・症例報告作成・症例報告発表：100％</p> |
| 履修の条件 留意点 | <p>本科目の単位取得のためには、全出席が必要です。欠席、遅刻や早退などは認められないので、体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には十分留意すること。この科目は専門分野・臨床実習Ⅳ・あはき臨床実習の単位として認定されます。</p> |
| 担当教員 | <p>★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 附属施術所での行動内容の確認や身だしなみのチェックをグループ内で行うこと。 2. 施術所で行う臨床実習での遅刻は欠席扱いとします。また、この科目は出席を重視しますので、1回の欠席は通常の2～3倍の総合評価の減点につながりますので、十分に自身の健康管理に留意すること。 3. 全ての臨床実習の出席前に欠席・遅刻となる事象が発生した場合は、事象が判明した時点で直ちに担任・副担任・担当教員へ連絡すること。 4. 重要掲示板または教室に掲示する「臨床実習日一覧表」を確認して、指定された実習日・集合時間に出席すること。 |
| オフィスアワー | 適宜3F教員室を訪ねること。 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|--|--|-----------------------------------|
| 通期 | | <p>1.施術所における臨床実習</p> <p>1)指導教員の下で、全5回のベッドサイド実習を行う。小グループによるローテーションとする。(見学1回・学生施術4回)</p> <p>①医療面接</p> <p>②身体診察</p> <p>③治療</p> <p>*①～③を小グループ内にて役割分担</p> <p>2)指導教員の下で、施術所一般患者の施術、施術前後の付帯業務を行う。また、状況によっては施術補助を行う。</p> <p>3)毎回カルテの下書きを作成し、不明な点を調べて加筆した後、施術所カルテへ記録する。カルテの書き方はSOAP方式に沿って記載する。</p> <p>4)カルテは翌週施術日前日までに清書する。</p> <p>2.症例報告作成・症例検討会実施</p> <p>1)カルテ記載内容を元に、症例報告作成の手引きに基づき小グループで症例報告を作成する。</p> <p>2)症例検討会にて発表し、クラス内にて質疑応答を実施する。</p> <p>(1～3年生も参加)</p> | <p>1) 診療を通して患者と良好な人間関係を確立することができる。</p> <p>2) 患者の抱える問題点に共感することができる。</p> <p>3) 面接所見をもとに、患者の抱える問題点に対する身体診察を実施できる。</p> <p>4) 受け持ち患者の抱える問題点に対する治療の適否判断し、施術計画の立案、治療穴の選定ができる。</p> <p>5) 患者に対し、インフォームド・コンセントが行える。</p> <p>6) 患者に不快な思いを与えずに、安全に配慮し、あまし施術、刺鍼・施灸することができる。</p> <p>7) 各症例に基づいて問題解決を行うことができる。</p> <p>8) 治療効果を判定することができる。</p> <p>9) 治療中のアクシデントに適切に対応することができる。</p> <p>10) 一般患者臨床の診療録を POMR と SOAP で作成できる。</p> <p>11) 受け持ち患者の情報を要約して、簡潔に提示できる。</p> <p>12) 症例報告を作成し検討・考察することができる。</p> <p>13) 自己の臨床能力を評価できる。</p> <p>14) 他からの臨床能力評価を受け入れる。</p> <p>15) 他の症例検討を通じた気づきを得る。</p> | <p>臨床実習 又は 演習・グループワーク</p> |

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|------------|------|
| 配当年次 | 3 学年 | 担当教員 | 平井 顯徳 | |
| 単位数 | 1 単位 | | (ひらい あきのり) | |
| 開講学期 | 3 期 | 授業形態・回数 | 講義 | 12 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|---|
| 授業概要 | 今までに学んだ「病理学」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につける。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 国家試験に合格するために、病理学について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|--|
| 教科書 | 「病理学概論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) |
| 参考書 | |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験(卒業試験)の「病理学」の範囲の結果で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法(評価割合:%) 1. 期末試験:100% |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験(卒業試験)の「病理学」の範囲の評価 60%以上により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・総合領域・臨床総合講座Ⅲ・病理学演習の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ) 1. 今までに学んだ「病理学」の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておくこと。 2. 授業前に各単元の問題を配付し、各自事前に問いてきたものを基に、総復習をして行きます。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12:45~13:00 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|-----|------------|--|-------|
| 3期 | 1 | 病因 | 病因について概説できる。 | 講義・演習 |
| | 2 | 循環障害 | 循環障害について概説できる。 | 講義・演習 |
| | 3 | 退行性病変 | 退行性病変について概説できる。 | 講義・演習 |
| | 4 | 進行性病変 | 進行性病変について概説できる。 | 講義・演習 |
| | 5 | 炎症 | 炎症について概説できる。 | 講義・演習 |
| | 6 | 腫瘍 | 腫瘍について概説できる。 | 講義・演習 |
| | 7 | 免疫異常・アレルギー | 免疫異常について概説できる。 アレルギーについて概説できる。 | 講義・演習 |
| | 8 | 先天性異常 | 先天性異常について概説できる。 | 講義・演習 |
| | 9 | 問題演習① | 四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。 | 講義・演習 |
| | 10 | 問題演習② | | 講義・演習 |
| | 11 | 問題演習③ | | 講義・演習 |
| | | | 期末試験 (二次卒業試験) | |
| 12 | まとめ | | | 講義・演習 |

【科目】 臨床総合講座Ⅳ【臨床総合演習】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|-----------|------|
| 配当年次 | 3 学年 | 担当教員 | 黒田 達夫 | |
| 単位数 | 1 単位 | | (くろだ たつお) | |
| 開講学期 | 1 学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 12 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | 今までに学んだ専門基礎分野・専門分野の科目のうち、東洋系の科目（東洋医学概論・経絡経穴概論・東洋医学臨床論）の国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につけてもらいます。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 国家試験に合格するために、東洋系の科目について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。 |

【担当教員から】

| | |
|---|---|
| 教科書 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 新版 東洋医学概論；東洋療法学校協会編 医道の日本社 2. 新版 経絡経穴概論；東洋療法学校協会編 医道の日本社 3. 東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉；東洋療法学校協会編 医道の日本社 4. 東洋医学臨床論〈あん摩マッサージ指圧編〉；東洋療法学校協会編 医道の日本社 |
| 参考書 | |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験の結果で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定基準（評価割合：％） <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題提出と期末試験：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験の評価 60％以上により履修とする。 この科目は専門分野・総合領域・臨床総合講座Ⅳの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） |
|  | <ol style="list-style-type: none"> 1. 今までに学んだ東洋系の科目の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておくこと。 2. 授業前に各単元の課題を配付し、各自事前に問いてきたものを基に、総復習をして行きます。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3F 教員室 |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|---------------|--|-------------|
| 1期 | 1 | 経絡経穴概論 問題演習① | 四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。 | 講義・演習 試験 |
| | 2 | 問題演習② | | |
| | 3 | 問題演習③ | | |
| | 4 | 東洋医学概論 問題演習① | | |
| | 5 | 問題演習② | | |
| | 6 | 問題演習③ | | |
| | 7 | 東洋医学臨床論 問題演習① | | |
| | 8 | 問題演習② | | |
| | 9 | 問題演習③ | | |
| | 10 | 問題演習④ | | |
| | 11 | 1学期期末試験 | | |
| | 12 | フィードバック | | |

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|-----------|-----|
| 配当年次 | 3学年 | 担当教員 | 相田 典子 | |
| 単位数 | 2単位 | | (あいだ のりこ) | |
| 開講学期 | 2・3期 | 授業形態・回数 | 講義 | 24回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | 「国民衛生の動向」のデータを参考にしながら、様々な統計を確認し、重要なデータを理解してもらいます。「医療概論・公衆衛生学・関係法規」として国家試験に出題される範囲を中心に講義と問題演習を行い、合格する為に必要な力を身につけてもらいます。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 国家試験に合格するために「医療概論・公衆衛生学・関係法規」について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。 |

【担当教員から】

| | |
|--|--|
| 教科書 | 1. 「衛生学・公衆衛生学」第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) |
| 参考書 | 1. 「国民衛生の動向」 厚生統計協会 2. 「公衆衛生がみえる」 メディックメディア |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験(卒業試験)の「医療概論・公衆衛生学・関係法規」の範囲の結果で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定方法(評価割合:%) 1. 期末試験(卒業試験): 100% |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験(卒業試験)の「医療概論・公衆衛生学・関係法規」の範囲の評価60%以上により履修とする。【卒業試験対象科目】この科目は専門分野・総合領域・臨床総合講座Ⅴの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ) 1. 今までに学んだ「医療概論」「公衆衛生学」「関係法規」の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておいてください。 |
|  オフィスアワー | 授業開講日の12:45~13:00 3F教員室 |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 | |
|----------|-----|------------------|--|-------|----|
| 2・3 期 | 1 | 衛生学的統計① | わが国の衛生学的統計を概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 2 | 衛生学的統計② | | 講義・演習 | |
| | 3 | 環境と健康 | 疾病予防について概説できる。 公害について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 4 | 産業保健、精神保健 | 産業保健について概説できる。 精神保健について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 5 | 母子保健、成人・高齢者保健 | 母子保健について概説できる。 成人・高齢者保健について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 6 | 感染症、消毒法 | 感染症について概説できる。 消毒法について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 7 | 疫学 | 疫学について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 8 | あはき法 | あはき法について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 9 | 医療法 | 医療法が規定している医療施設を挙げ、概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 10 | 医薬品医療機器等法 | 医薬品医療機器等法が規定しているものを挙げ、概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 11 | 医療保険・介護保険 | 医療保険の種類を挙げ、概説できる。 公費医療について概説できる。 国民医療費について概説できる。 介護保険について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 12 | | | 講義・演習 | |
| | 13 | | | 講義・演習 | |
| | 14 | 医療倫理 | 医療倫理について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | | | 期末試験 (一次卒業試験) | | 試験 |
| | 15 | 問題演習① | 四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。 | 演習 | |
| | 16 | 問題演習② | | 演習 | |
| | 17 | 問題演習③ | | 演習 | |
| | 18 | 問題演習④ | | 演習 | |
| | 19 | 問題演習⑤ | | 演習 | |
| | 20 | 問題演習⑥ | | 演習 | |
| | 21 | 問題演習⑦ | | 演習 | |
| | 22 | 問題演習⑧ | | 演習 | |
| | 23 | 問題演習⑨ | | 演習 | |
| | | 期末試験 (二次卒業試験) | | 試験 | |
| 24 | まとめ | | | 講義 | |

【基本情報】

| | | | | |
|------|-------|---------|-------------|------|
| 配当年次 | 3 学年 | 担当教員 | 西岡 岳之 | |
| 単位数 | 2 単位 | | (にしおか たけゆき) | |
| 開講学期 | 2・3 期 | 授業形態・回数 | 講義 | 24 回 |

【授業情報】

| | |
|---------------|--|
| 授業概要 | 今までに学んだ「東洋医学概論 I・II」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につけてもらいます。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 国家試験に合格するために、東洋医学概論について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|--|
| 教科書 | 新版 東洋医学概論；東洋療法学校協会編 医道の日本社 |
| 参考書 | 1. 新版 経絡経穴概論；東洋療法学校協会編 医道の日本社 2. 「東洋医学臨床論」〈はりきゅう編〉；東洋療法学校協会編 医道の日本社 3. 「東洋医学臨床論」〈あん摩マッサージ指圧編〉；東洋療法学校協会編 医道の日本社 |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験（卒業試験）の「東洋医学概論」の範囲の結果で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定基準（評価割合：％） 1. 期末試験：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末（卒業試験）の「東洋医学概論」の範囲の評価 60%以上により履修とする。【卒業試験対象科目】この科目は専門分野・総合領域・臨床総合講座VIの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 1. 今までに学んだ「東洋医学概論」の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておくこと。 2. 授業中に各単元の問題を配付し、解答を作成した上で、解答解説の総復習をしていきます。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標（SBOs） | 講義形態 | |
|----------|-------|---------------|--|-------|----|
| 2・3 期 | 1 | 基礎理論・陰陽論・五行学説 | 基礎理論・陰陽論・五行学説について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 2 | 気血津液の生理 | 気血津液の生理について概説できる。 | | |
| | 3 | 臓腑の生理 | 臓腑の生理について概説できる。 | | |
| | 4 | 病因論 | 病因論について概説できる。 | | |
| | 5 | 病理と病証① | 病理と病証について概説できる。 | | |
| | 6 | 病理と病証② | 病理と病証について概説できる。 | | |
| | 7 | 東洋医学的診察法 | 東洋医学的診察法について概説できる。 | | |
| | 8 | 治療法（補瀉法） | 治療法（補瀉法）について概説できる。 | | |
| | 9 | 治療法（刺法） | 治療法（刺法）について概説できる。 | | |
| | 10 | まとめ① | 四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。 | | |
| | 11 | まとめ② | | | |
| | 12 | まとめ③ | | | |
| | 13 | まとめ④ | | | |
| | | | 期末試験（一次卒業試験） | | 試験 |
| | 14 | 一次卒業試験解答解説 | 四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。 | 講義・演習 | |
| | 15 | 問題演習① | | | |
| | 16 | 問題演習② | | | |
| | 17 | 問題演習③ | | | |
| | 18 | 問題演習④ | | | |
| | 19 | 問題演習⑤ | | | |
| | 20 | 問題演習⑥ | | | |
| | | | 期末試験（二次卒業試験） | | 試験 |
| | 21 | 二次卒業試験解答解説 | 四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。 | 講義・演習 | |
| | 22 | 問題演習⑦ | | | |
| 23 | 問題演習⑧ | | | | |
| 24 | 問題演習⑨ | | | | |

【基本情報】

| | | | | |
|------|-------|---------|-----------|------|
| 配当年次 | 3 学年 | 担当教員 | 黒田 達夫 | |
| 単位数 | 2 単位 | | (くろだ たつお) | |
| 開講学期 | 2・3 期 | 授業形態・回数 | 講義 | 24 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | 今までに学んだ「経絡経穴概論Ⅰ・Ⅱ」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につけてもらいます。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 国家試験に合格するために、経絡経穴概論について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|---|
| 教科書 | 経絡経穴概論：東洋療法学校協会編 医道の日本社 |
| 参考書 | WHO 経穴部位日本語公式版 |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験（卒業試験）の「経絡経穴概論」の範囲の結果で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定基準（評価割合：％） 1. 期末試験：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験（卒業試験）の「経絡経穴概論」の範囲の評価 60％以上により履修とする。 【卒業試験対象科目】この科目は専門分野・総合領域・臨床総合講座Ⅶの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 1. 今までに学んだ「経絡経穴概論」の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておくこと。 2. 授業前に各単元の問題を配付し、各自事前に問いてきたものを基に、総復習をして行きます。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3 F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 | |
|----------|----|------------------|---------------------------|--|----|
| 2・3 期 | 1 | 経絡の概要・骨度法 | 経絡の概要・骨度法について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 2 | 経穴の概要① | 経穴（五腧穴・五要穴）について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 3 | 経穴の概要②・奇経八脈 | 経穴（その他の要穴）・奇経八脈について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 4 | 現代医学 | 現代医学について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 5 | 上肢の経穴① | 上肢の経穴について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 6 | 上肢の経穴② | 上肢の筋・神経について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 7 | 下肢の経穴① | 下肢の経穴について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 8 | 下肢の経穴② | 下肢の筋・神経について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 9 | 体幹部の経穴① | 体幹部（背側）の経穴について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 10 | 体幹部の経穴② | 体幹部（腹側）の経穴について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 11 | 体幹部の経穴③ | 体幹部の筋・神経について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 12 | 顔面・頸部の経穴 | 顔面・頸部の経穴について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 13 | 奇穴 | 奇穴について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 14 | まとめ | | 講義・演習 | |
| | | | 期末試験 （一次卒業試験） | | 試験 |
| | | 15 | 問題演習① | 四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。 | 演習 |
| | | 16 | 問題演習② | | 演習 |
| | | 17 | 問題演習③ | | 演習 |
| | | 18 | 問題演習④ | | 演習 |
| | | 19 | 問題演習⑤ | | 演習 |
| | | 20 | 問題演習⑥ | | 演習 |
| | | 21 | 問題演習⑦ | | 演習 |
| | | 22 | 問題演習⑧ | | 演習 |
| | | 23 | 問題演習⑨ | | 演習 |
| | | 期末試験 （二次卒業試験） | | 試験 | |
| | 24 | まとめ | | 講義 | |

【基本情報】

| | | | | |
|------|-------|---------|-----------|------|
| 配当年次 | 3 学年 | 担当教員 | 小熊 勇人 | |
| 単位数 | 2 単位 | | (おぐま はやと) | |
| 開講学期 | 2・3 期 | 授業形態・回数 | 講義 | 24 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|--|
| 授業概要 | 今までに学んだ「東洋臨床診察治療学」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につけてもらいます。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 国家試験に合格するために、東洋医学臨床論について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|--|
| 教科書 | 1. 「東洋医学臨床論」〈はりきゅう編〉；東洋療法学校協会編 医道の日本社 2. 「東洋医学臨床論」〈あん摩マッサージ指圧編〉；東洋療法学校協会編 医道の日本社 |
| 参考書 | 1. 新版 東洋医学概論；東洋療法学校協会編 2. 新版 経絡経穴概論；東洋療法学校協会編 3. リハビリテーション医学 第4版；東洋療法学校協会編 |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験（卒業試験）の「東洋医学臨床論」の範囲の結果で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定基準（評価割合：％） 1. 期末試験：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末（卒業試験）の「東洋医学臨床論」の範囲の評価 60％以上により履修とする。 【卒業試験対象科目】この科目は専門分野・総合領域・臨床総合講座Ⅷの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 1. 今までに学んだ「東洋医学臨床論」の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておくこと。 2. 授業前に各単元の問題を配付し、各自事前に問いてきたものを基に、総復習をしていきます。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----------|---------------|------------------------|--|-------|
| 2・3 期 | 1 | 治療原則 | 治療原則について概説できる。 | 講義・演習 |
| | 2 | 頭痛・顔面痛 | 頭痛・顔面痛について概説できる。 | 講義・演習 |
| | 3 | 顔面麻痺・歯痛・眼精疲労 | 顔面麻痺について概説できる。 歯痛について概説できる。 眼精疲労について概説できる。 | 講義・演習 |
| | 4 | 脱毛症・めまい・鼻閉・鼻汁 | 脱毛症について概説できる。 めまいについて概説できる。 鼻閉・鼻汁について概説できる。 | 講義・演習 |
| | 5 | 耳鳴り・難聴・咳嗽・喘息 | 耳鳴り・難聴について概説できる。 咳嗽・喘息について概説できる。 | 講義・演習 |
| | 6 | 胸痛・腹痛・悪心と嘔吐 | 胸痛について概説できる。 腹痛について概説できる。 悪心と嘔吐について概説できる。 | 講義・演習 |
| | 7 | 便秘と下痢・月経異常・排尿障害・インポテンツ | 便秘と下痢について概説できる。 月経異常について概説できる。 排尿障害・インポテンツについて概説できる。 | 講義・演習 |
| | 8 | 肩こり・頸肩腕痛 | 肩こり・頸肩腕痛について概説できる。 | 講義・演習 |
| | 9 | 肩関節痛・上肢痛 | 肩関節痛について概説できる。 上肢痛について概説できる。 | 講義・演習 |
| | 10 | 腰下肢痛・膝痛 | 腰下肢痛について概説できる。 膝痛について概説できる。 | 講義・演習 |
| | 11 | 運動麻痺・高血圧・低血圧 | 運動麻痺について概説できる。 高血圧・低血圧について概説できる。 | 講義・演習 |
| | 12 | 食欲不振・肥満・発熱 | 食欲不振・肥満について概説できる。 発熱について概説できる。 | 講義・演習 |
| | 13 | のぼせと冷え・不眠・疲労と倦怠・発疹 | のぼせと冷えについて概説できる。 不眠について概説できる。疲労と倦怠・発疹について概説できる。 | 講義・演習 |
| | 14 | スポーツ傷害、小児の症状・老年医学 | スポーツ傷害について概説できる。 小児の症状について概説できる。 老年医学について概説できる。 | 講義・演習 |
| | | 期末試験 (一次卒業試験) | | 試験 |
| | 15 | 問題演習① | 四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。 | 演習 |
| | 16 | 問題演習② | | 演習 |
| | 17 | 問題演習③ | | 演習 |
| | 18 | 問題演習④ | | 演習 |
| | 19 | 問題演習⑤ | | 演習 |
| | 20 | 問題演習⑥ | | 演習 |
| | 21 | 問題演習⑦ | | 演習 |
| | 22 | 問題演習⑧ | | 演習 |
| | 23 | 問題演習⑨ | | 演習 |
| | 期末試験 (二次卒業試験) | | 試験 | |
| 24 | まとめ | | 講義 | |

【基本情報】

| | | | | |
|------|-------|---------|-------------|------|
| 配当年次 | 3 学年 | 担当教員 | 川畑 充伸 | |
| 単位数 | 2 単位 | | (かわはた みつのぶ) | |
| 開講学期 | 2・3 期 | 授業形態・回数 | 講義 | 24 回 |

【授業情報】

| | |
|------------------|---|
| 授業概要 | 今までに学んだ「あはき理論Ⅰ・Ⅱ」をもとに、「はり理論」「きゅう理論」「あまし理論」として国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につけてもらいます。また、はり理論、きゅう理論、あまし理論、生理学、その他関連科目とのつながりを確認し、解説をしつつ補充していきます。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 国家試験に合格するために、あはき理論について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。 |

【担当教員から】

| | |
|--------------|---|
| 教科書 | 1. はりきゅう理論 東洋療法学校協会編 医道の日本社 |
| 参考書 | 1. 鍼灸医療安全ガイドライン 医歯薬出版(株) |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験に代わって実施される卒業試験の「あはき理論」の範囲の結果で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の算定基準 (評価割合: %) 1. 期末(到達目標達成確認)試験: 100% |
| 履修の条件 留意点 | 期末(到達目標達成確認)試験に代わって実施される卒業試験の「はり理論」の範囲の評価 60%以上により履修とする。【卒業試験対象科目】この科目は専門分野・総合領域・臨床総合講座Ⅹの単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ) 1. 今までに学んだ「はり理論」の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておくこと。 2. 授業前に各単元の問題を配付し、各自事前に問いてきたものを基に、総復習をして行きます。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12:45~13:00 3F 教員室 |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 | |
|----------|----|-------------------------------|--|--|----|
| 2・3 期 | 1 | 鍼・灸の基礎知識 | 鍼・灸の基礎知識について概説できる。 灸の種類を概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 2 | 刺鍼の方式と術式、特殊鍼法 | 刺鍼の方式と術式について概説できる 特殊鍼法について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 3 | 鍼・灸の臨床応用とリスク管理 | 鍼・灸の臨床応用について概説できる。 鍼・灸のリスク管理について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 4 | 鍼・灸の治効の基礎① | 鍼・灸治効の基礎について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 5 | 鍼・灸の治効の基礎② | 鍼・灸の禁忌について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 6 | 鍼・灸療法の一般治効理論① | 鍼・灸療法の一般治効理論について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 7 | あま指の生体に及ぼす作用 | あま指が各組織・器官に及ぼす作用について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 8 | 運動法の生体に及ぼす作用、按摩・マッサージ・指圧の治療効果 | 運動法が生体に及ぼす作用について概説できる。 あま指の治療効果について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 9 | あま指と東洋医学 | あま指の基本手技について概説できる。 古法按摩と導引について概説できる。 運動法・結合織マッサージ・リンパドレナージについて概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 10 | あま指の応用分野 | あま指がどのような分野で用いられているかについて概説できる。 併用する物理療法の効果と相乗効果について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 11 | あま指の臨床応用とリスク管理 | あま指の適応疾患（症状）と禁忌疾患（症状）について概説できる。 あま指のリスク管理について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 12 | あま指治効の基礎 | あま指治効の基礎について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 13 | あま指の生体に及ぼす作用 | あま指が各組織・器官に及ぼす作用について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 14 | 運動法の生体に及ぼす作用、按摩マッサージ・指圧の治療効果 | 運動法が生体に及ぼす作用について概説できる。 あま指の治療効果について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | 15 | 関連学説 | 関連学説について概説できる。 | 講義・演習 | |
| | | | 到達目標達成確認試験 (一次卒業試験) | | 試験 |
| | | 16 | 問題演習① | 四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。 | 演習 |
| | | 17 | 問題演習② | | 演習 |
| | | 18 | 問題演習③ | | 演習 |
| | | 19 | 問題演習④ | | 演習 |
| | | 20 | 問題演習⑤ | | 演習 |
| | | 21 | 問題演習⑥ | | 演習 |
| | | 22 | 問題演習⑦ | | 演習 |
| | | 23 | 問題演習⑧ | | 演習 |
| | | 到達目標達成確認試験 (二次卒業試験) | | 試験 | |
| | 24 | まとめ | | 講義 | |

【科目】 病態生理 I 【内科診断学】

【基本情報】

| | | | | |
|------|------|---------|-----------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員 | 村瀬 訓生 | |
| 単位数 | 1 単位 | | (むらせ のりお) | |
| 開講学期 | 1 学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 12 回 |

【授業情報】

| | |
|-----------------|---|
| 授業概要 | あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師（以下、あはき師）が医療連携を行っていく上で、病院等の医療関係者が患者にどのような視点で関わっているのかを理解する必要がある。そこで、内科医が普段どのような視点で診察を行っているかを理解し、あはき臨床に応用できる診察法を学んでいくために、学園付属の呉竹メディカルクリニックの医師に内科診断のポイントを教授していただく。 |
| 授業の一般目標 (G I O) | あはき師が医療連携を行っていくために、内科の診察法を理解するとともに、その評価方法についても学習する。 |

【担当教員から】

| | |
|---|--|
| 教科書 | 特に指定しない。 |
| 参考書 | <ol style="list-style-type: none"> 「フィジカルアセスメントがみえる 第1版」；メディックメディア 「ビジュアルノート 第5版」；メディックメディア 「内科診断学第3版」；医学書院 「メルクマニュアル医学百科 家庭版」；URL:http://mmh.banyu.co.jp/index.html |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準（評価割合：％） 期末試験：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験の評価を合計して 60%以上により履修とする。この科目は選択科目・内科診断学の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） |
|  | <ol style="list-style-type: none"> 西洋医学と東洋医学、それぞれの特徴（長所と欠点）を理解してほしい。また、西洋医学における診断に至るまでの過程を理解してほしい。 試験問題は講義中に紹介する。また、練習問題からも出題する。 講義は 8 F 実技室で行うが、AED 実習は 5 F 講堂・柔道場で行う。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12：45～13：00 3 F 教員室 |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標（SBOs） | 講義形態 |
|----|----|----------------------------------|---|-------|
| 1期 | 1 | 内科診断の進め方と医療面接 | 西洋医学における診察の基礎が理解できる。 内科的問診のとり方を理解できる。 | 講義 |
| | 2 | バイタルサイン | バイタルサインが説明できる。 バイタルサインの確認が実践できる。 | 講義・実習 |
| | 3 | 感染予防と標準予防策 | 感染予防と標準予防策について理解できる。 | 講義・実習 |
| | 4 | 理学的診断法① 心疾患の病態と診断の基本 | 主な心疾患の病態が理解できる。 心疾患の診断の基本が理解できる。 | 講義・実習 |
| | 5 | 理学的診断法② 呼吸器の病態と診断の基本 | 主な呼吸器疾患の病態が理解できる。 呼吸器疾患の診断の基本が理解できる。 | 講義・実習 |
| | 6 | 理学的診断法③ 消化器疾患の病態と診断の基本 | 主な消化器疾患の病態が理解できる。 消化器疾患の診断の基本が理解できる。 | 講義・実習 |
| | 7 | 理学的診断法④ 神経系疾患の病態と診断の基本 | 主な神経系疾患の病態が理解できる。 神経系疾患の診断の基本が理解できる。 | 講義・実習 |
| | 8 | 代謝・内分泌疾患の病態と診断の基本 血液検査の評価 | 主な代謝・内分泌疾患の病態が理解できる。 代謝・内分泌疾患の診断の基本が理解できる。 代謝・内分泌疾患を評価する血液検査項目が理解できる。 | 講義・実習 |
| | 9 | 肥満者生活指導に関する演習 | 肥満者への生活指導について説明できる。 | 講義・実習 |
| | 10 | AED実習 | CPRの基本について説明できる。 AEDの基本的な使用方法が説明できる。 | 講義・実習 |
| | 11 | 期末試験 | | 試験 |
| | 12 | 試験解答・解説 EBM (科学的根拠に基づいた医療) | EBMの意味を説明できる。 EBMに基づいた診察法を実践できる。 | 講義・実習 |

【科目】 病態生理Ⅱ 【整形外科学】

【基本情報】

| | | | | |
|------|--------|---------|------------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員 | 有澤 治 | |
| 単位数 | 2 単位 | | (ありさわ おさむ) | |
| 開講学期 | 2・3 学期 | 授業形態・回数 | 講義 | 24 回 |

【授業情報】

| | |
|--------------------|---|
| 授業概要 | あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師（以下、あはき師）が医療連携を行っていく上で、病院等の医療関係者が患者にどのような視点で関わっているのかを理解する必要がある。そこで、整形外科医が普段どのような視点で診察を行っているかを理解し、あはき臨床に応用できる診察法を学んでいくために、学園付属の呉竹メディカルクリニックの医師に整形外科診断のポイントを教授していただく。 |
| 授業の一般目標 (G I O) | あはき師が医療連携を行っていくために、整形外科の診察法を理解するとともに、その評価方法についても学習する。 |

【担当教員から】

| | |
|---|---|
| 教科書 | 特に指定しない。 |
| 参考書 | 1. 「臨床医学各論」；東洋療法学校協会編, 医歯薬出版(株) |
| 成績評価基準 | シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験で評価する。 |
| 成績評価方法 | 成績評価の基準と算定方法（評価割合：％） 期末試験：100％ |
| 履修の条件 留意点 | 期末試験の評価を合計して 60%以上により履修とする。この科目は選択科目・整形外科学の単位として認定されます。 |
| 担当教員 | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） |
|  | <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義は3時限目(13:30~15:00)で行われます。 2. 西洋医学における診断に至るまでの過程を理解してほしい。 3. 診断学の基礎となる科目であるため、授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。ノートを取るだけでなく、話をよく聞くこと。 4. 試験は講義内容より出題します。是非理解してもらいたい箇所は講義中にお話ししながら進めます。 |
| オフィスアワー | 授業開講日の 12:45~13:00 3F 教員室 |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標 (SBOs) | 講義形態 |
|----|----|---------------------------|--|------|
| 2期 | 1 | 総論 | 整形外科の概要が理解できる。 | 講義 |
| | 2 | 画像診断の進め方① X線 | 画像診断の進め方が理解できる。 X線所見による診断の進め方が理解できる。 | 講義 |
| | 3 | 画像診断の進め方② MRI・CT・各種撮影法 | MRI・CT・各種撮影法による診断の進め方が理解できる。 | 講義 |
| | 4 | 頰椎疾患① | 頰椎疾患の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 頰椎疾患の西洋医学的治療方法が理解できる。 | 講義 |
| | 5 | 頰椎疾患② | | 講義 |
| | 6 | 肩関節疾患① | 肩関節疾患の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 肩関節疾患の西洋医学的治療方法が理解できる。 | 講義 |
| | 7 | 肩関節疾患② | | 講義 |
| | 8 | 肩関節疾患③ | | 講義 |
| | 9 | 上肢の疾患 | 上肢の疾患の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 上肢の疾患の西洋医学的治療方法が理解できる。 | 講義 |
| | 10 | 上肢の末梢神経障害 | 上肢の末梢神経障害の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 上肢の末梢神経障害の西洋医学的治療方法が理解できる。 | 講義 |
| | 11 | 期末試験 | | 試験 |
| | 12 | 期末試験の解説・解答 | | 講義 |
| 3期 | 13 | 腰椎疾患① | 腰椎疾患の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 腰椎疾患の西洋医学的治療方法が理解できる。 | 講義 |
| | 14 | 腰椎疾患② | | 講義 |
| | 15 | 腰椎疾患③ | | 講義 |
| | 16 | 膝関節疾患① | 膝関節疾患の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 膝関節疾患の西洋医学的治療方法が理解できる。 | 講義 |
| | 17 | 膝関節疾患② | | 講義 |
| | 18 | 下肢の疾患 | 下肢の疾患の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 下肢の疾患の西洋医学的治療方法が理解できる。 | 講義 |
| | 19 | 感染症疾患 | 感染症疾患の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 感染症疾患の西洋医学的治療方法が理解できる。 | 講義 |
| | 20 | スポーツ疾患 | スポーツ疾患の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 スポーツ疾患の西洋医学的治療方法が理解できる。 | 講義 |
| | 21 | 期末試験 | | 試験 |
| | 22 | 期末試験の解説・解答 | | 講義 |
| | 23 | 高齢者の外傷 | 高齢者の外傷の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 高齢者の外傷の西洋医学的治療方法が理解できる。 | 講義 |
| | 24 | 開放骨折と難治性骨折 | 開放骨折と難治性骨折の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 開放骨折と難治性骨折の西洋医学的治療方法が理解できる。 | 講義 |